

會 報

第 12 号

平成 5 年度



贈

結成十周年記念

平成三年十月吉日

滋賀県老人大学校同窓会

滋賀県老人大学校同窓會

目次

1. 挨拶	1頁
2. 支部だより（支部活動状況）	4
3. 会員だより（文集）	22
4. 会員名簿	121
5. 平成六年度定期総会次第	176
6. 平成五年度事業報告および平成六年度事業計画（案）	177
7. 平成五年度同窓会会計収支決算報告書	178
8. 平成六年度予算（案）	179
9. 同窓会役員名簿	180
10. 同窓会会則・憲章	181
11. 同窓会表彰規程	183
12. 編集後記	184

前同窓会員 中川 三

お礼のことば

前同窓会長 中川長三

風薫る嫩葉の好季、いよいよ清祥の趣何よりとお慶び申します。

さて大学と同窓会の創立、結成のはじめから十有余年の永きに涉り一方ならぬご協力をたまわり、今日の隆盛を見るに至りましたことは、偏に同窓各位の不断のお力添えの賜と感謝の他ありません。

思えば、創立の当初は何一つない無設備の借教室で、寒さに身をよせ合いあるいは酷暑を凌いで二ヶ年の苦学によく堪え、校風の樹立と同窓会の基盤確立のため、共々に励んでまいりました。その間、同窓会憲章の制定校歌校章の撰定をはじめ、事業部の構成と県下八支部の組織確立と地域社会の活動の促進に備えて構想を練りこれを着々実践に移して、自他共にゆるす真価を江湖に問う今日となりました。すでに幽明境を異にする幾多盟友を偲んで誠に感憾無量のものがあります。

この度、役員総会においておゆるしをいただき退かせていただきました。そして新進気鋭の最適任の 安倍 勉さんが会長に御就任になりました由、まことにうれしく心強い限りであります。

重ねて永年にわたる御懇情を深謝しかつ 本学、同窓会の弥栄を祈り お礼に代えさせていただきます。

8 会員式（文庫）
5 支店式（支店五種）
1 封

目次

支部だより 会長就任に当りて

八期生 文芸科 安倍 勉

青葉若葉の好季節になりました。会員の諸兄姉には健やかにお過しの事と心から祝福申し上げます。

扱て私儀本年四月二十日老人大学校同窓会の理事会に於て、中川前会長辞任に伴う後任の会長に選任されました。素より浅学非才その器ではありませんが先輩各位や役員の諸氏及び会員の皆さんのよりよき御協力と御指導によりその任を全とう致したく存じますので何卒よろしくお願い申し上げます。

扱て中川前会長は十一年余の長きに亘り会長に就任され、今日のゆるぎなき老人大学校同窓会の基盤をつくられました。その間特筆すべきことは、米原校舎の創立、十周年記念式典の盛大なる祝賀の開催、老人大学校の間貸の現状を訴え老大の新設が懇請され、昨年七月長寿福祉センターとの福祉行政の総括的施設と共に、レイカディア大学と名称も変更し講堂、体育施設及び各教科の特別教室等の整備等驚嘆し将来の高令化の増加に対応する生涯教育施設とその充実されたことは敬服するものであります。旧老人大学校の同窓生のつながりが年と共に薄んで行くのを残念に思っていますと共に老人大学校の名称に郷愁を感じるのであります。

老人大学校の二ヶ年の在学中の絆は忘れることは出来ず、会報（会員名簿）を通じ会員の生活の状況を交流することは益、その絆を強く結ぶことゝ存じます。

僅か二ヶ年の大学在学の同窓生が十五余年も今尚情報の絆に結ばれて親睦に生かされ社会参加に努める様せねばと痛感するものであります。

政治外交経済に社会の激変が予想される時時代の流れを把握し、会員相互の親睦を深め健康に留意して社会活動に積極的に参加して、

加して、古きよきものの伝承と新しいものを生み出して地域社会の発展に寄与すべきであります。

老人大学校同窓会の発展を期して止みません。計划の進捗を監視し、会員増員の奨励を期し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

顧問 中川 辰三

勸告として、老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

老人大学校の同窓生は十五年来の高尚精神の持主として、社会生活の刷新に努むるべきであります。計划の進捗を監視し、留意して社会生活の刷新に努むるべきであります。

会員録 丑の年

八咫主 文書科 定部 歳

支部だより

大津市部活動状況

支部長 下司 清

大津は旧市内で、小・中学共に、児童・生徒が減少している。これは若者が新開地へ移るためであり、これに伴い小・中学が新築されていく、年輩者は之とは反対に旧市街地に残り、先祖の守をしているこれは全国的なものと言える。

当支部では年々会員の増加に伴い、九年間続いた従来のブロック名を、中学校区に改めることにした。毎年四十名余の会員増で、将来は小学校区にまで発展するのではないのでしょうか、これも長寿国たる所以でしょう。

平成五年度の事業

一、本部事業

1. 中国研修旅行

参加者 七名

2. 成果展

出品者数 三十八名

3. 定期総会

出席者 七十五名

4. 京都三千院他研修旅行

参加者 十名

二、支部事業

支部定期総会

出席者 七十五名

三、春(秋)季親善ゲートボール大会

参加者 計七十三名

四、研修旅行福井県大飯原子力発電所見学

参加者 四十八名

五、園芸講座(月二回)年間十三回実施

受講者 二十五名

平成六年度の行事予定

○ 親善ゲートボール大会

○ 支部十周年記念行事

平成六年度支部役員は次の通り

支部長 下司 清

副支部長 吉田 歳末(兼理事)

平田 正善(兼理事)

欠

理事

門馬 三郎(皇子山) 平井 重一(打出)
 清水 定意(打出) 小野 次夫(粟津)
 林 行雄(北大路) 島田 岩治(南郷)
 高野 喜六(瀬田北) 西川 秀雄(瀬田)
 藤田 直喜(堅田)

幹事

中川 文弥(日吉) 松田 春雄(日吉)
 桑田 二郎(皇子山) 森田 末雄(唐崎)
 吉田可津子(皇子山) 小笹 英男(皇子山)
 間宮 たか(打出) 伊藤 鉄雄(打出)
 久保 秀一(粟津) 濱路 睦夫(粟津)
 春山 みさ(南郷) 吉田 ふみ(北大路)
 西田千代子(石山) 古江 喜廣(南郷)
 本郷 武子(瀬田北) 堀井 円城(石山)
 下村 俊夫(瀬田北) 高野 節子(瀬田北)
 坂下 康雄(瀬田) 中川 タカ(瀬田)
 會計 伊藤 実三
 監査 堀井与士春 齊藤 重雄
 顧問 高野 惣平

湖南支部活動状況

湖南支部は、平成四年度までご苦労いただいた林支部長、大西副支部長、伊藤会計、以上三役の方が、いづれも体調を悪くされ、これ以上職務を全うすることできないとの理由により、急きょ理事会並びに総会において、前任者の残任期間(一年)を止むなくお引受けした次第です。

誠に未熟ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

一、平成六年三月現在会員数

草津市 五十八名 守山市 四十三名
 志賀町 十三名 栗東町 十七名
 野洲町 二十七名 中主町 十三名
 合計 百七十一名

二、支部役員

支部長 藤本 龍三(草津)
 副支部長 中村 勝一(守山)
 會計 亀田 貢(栗東)
 理事 福井しげの(草津) 板村 照子(草津)

古川千鶴子(草津) 池田 正重(草津)

南條 貞雄(草津) 山本 隆三(草津)

久保 治夫(草津) 井上 一男(守山)

竹林 治平(守山) 團野 清一(守山)

中井 良知(志賀) 山村 正雄(志賀)

林 愛子(栗東) 富田もとよ(野洲)

石井也尺寿(野洲) 田村 進(野洲)

田中 一男(中主) 薄永 金三(中主)

監事

嶋 鐵男(草津) 伊藤 治初(草津)

顧問

伊藤 博祐(草津) 林 秀一(草津)

三、支部事業実施概要

(一)、五年六月六日

支部役員会(第一回) 平成五年度総会議案書の審議

(二)、五年六月二十五日

支部総会 守山市 つがやま荘

イ、平成四年度事業経過報告及び収支決算報告

ロ、平成五年度収支予算案の審議

ハ、役員を選出

二、その他

(三)、五年七月十二日

支部役員会(第二回)

イ、老大成果展について

ロ、十四期卒業生との懇談会の持ち方について

ハ、会員研修旅行について

ニ、その他

(四)、五年十月十四日

十四期卒業生との懇談会 守山市 つがやま荘

出席者 十四期生十二名

理 事 十八名

計 三十名

支部事業等説明の後、懇親会を開催し、有意義な会合であったと思う。

(五)、五年十一月五日～六日

支部研修旅行を実施し、奥飛弾方面へ行く。

(六)、六年三月十四日

支部役員会(第三回)

イ、平成六年度総会議案書の審議

ロ、その他

四、その他、本部事業にそれぞれ関係者等が参加する。

甲賀支部活動状況

支部長 島田寅治郎

はじめに

同窓会発足以来十年以上を経過し、年度を重ねるに従って今年は三桁に達し、百人を超す会員に成り、嬉ばしい限りである。其の間草深い鹿深の里も、県老大(レイカディア大学)の建学の精神に則り、同窓会も又会員の親睦及び母校の発展に寄与すると共に、総会や研修事業に取り組んで参りました。月日を追って其の活動状況を御披露申し上げます。

○ 会員数

石部町	一二	入会	〇	計	一二
甲西町	三二	同	三	同	三五
水口町	一五	同	四	同	一九
土山町	二	同	一	同	三
甲賀町	一二	同	一	同	一三
甲南町	一一	同	二	同	一三

信楽町 一三 入会 〇 計 一三

計 九五 同 一一 計 一〇六

○ 支部役員

支部長 島田寅治郎

副支部長 千代倉太郎

庶務会計 橋本清一郎

会計監査 服部 稔

同 (一名欠)

理事 山本公治郎・青木劣夫・真鍋光徳・熊谷清一郎・

大北忠一・雀部つる・谷村しを・金山良吉・中沼宗寿・

増田信之・山脇義一・服部 稔・今井博・藤田スエ

顧問 丸市 喜好

○ 弔 支部物故者、同窓会発足以来、平成六年二月現在で一

八名に成りました。安らかな御冥福を御祈り申し上げます。

合 掌。

○ 支部役員会

平成五年五月十八日

協議事項 支部総会の持ち方・県成果展九月頃・その他

○ 支部総会

平成五年七月一日 於滋賀県立老人福祉センター碧水荘

協議事項Ⅱ平成四年度決算承認・平成五年度予算審議・

平成四年度事業報告・平成五年度事業審議と

承認

昼食・会費¥二〇〇〇に依る昼食と宴会。会員相互の親睦と、高齢者社会を生きたる実践を高める。アトラクション・展華会（のぶはな会）花形のアトラクションを交え会員の心身の健康と互に助け合う高齢者像の具現の為励み合う。

○ 県老大成果展への参加・平成五年九月一日搬入・平成五年九月十四日搬出。高齢者の文化活動と老人大学校に対する理解を深める目的として、日頃の成果を展示しようとするもので、当支部から左記出品をする。

陶芸作品一名・書四名・絵画一名・計延一七名参加
平成五年九月一日出品物搬入、支部より三名奉仕。平成五年九月十四日搬出、三名奉仕し出品物と参加賞を届け有意義に終る。

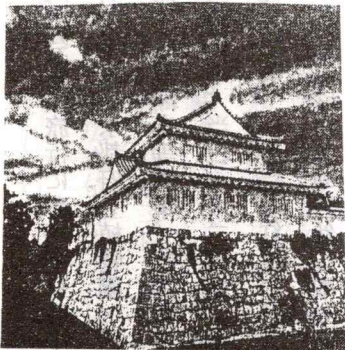
○ 県老大同窓会総会参加・平成五年九月六日・所、草津市南笠町新池、滋賀県長寿社会福祉センター内、県老大階段教養室に於て。当日会費一人¥二〇〇〇（個人負担）。当支部より希望者三十三名参加・当日開会の言葉から議

事・決議・講演では「伝えていきたい民族風習」・綿向ホールの瀬川先生のユーモラスな話術・閉会の言葉有意義に終る。

同室で夫々昼食を自由に済ます。

○ 県老大同窓会の名称は滋賀県レイカディア大学同窓会と十月一日改称されました。

○ 甲賀支部研修会・平成五年十一月九日（火）・研修プラン午前十時水口歴史民族資料館集合・水口城資料館見学・水口歴史民族曳山のやかた見学・水口城資料館二階で見学の後、館長様の「お城のお話」を拝聴後滋賀県立老人福祉センター碧水荘で昼食・同所で老人福祉の諸問題に就て同所長様のお話。午後三時頃一日の研修を終了する。会費¥一〇〇〇で希望者を募集。約三〇人前後集い、好天に恵まれた秋の一日研修を終る。



碧水城の名で親しまれた水口城跡



水口城内で

○ レイカディア大学同窓会研修旅行に参加・日時十一月二十

二日(火)・場所三千院・京都府立植物園・白砂村荘(

(橋本関雪記念館)・銀閣寺等散策。参加費¥九八〇〇

観光・バス代・昼食費等。当日バス二台で、ゆったりと

した雰囲気で行程も手頃、三千院の紅葉や好天に恵まれ

た植物園の熱帯の花・白砂村荘の自然を取り入れたお庭

や湯豆腐や田舎料理の温もり。記念館では橋本関雪の人

となりに接する好機会に恵まれ、銀閣寺も何度訪れても

歴史の重みと信仰の安らぎを感じ、心満たされた感じで

一杯で研修を終る事が出来て有難い仕合せな一日の研修

であった。

○ 甲賀支部役員会・日時 平成六年一月三十一日・所、滋賀

県立老人福祉センター碧水荘・協議事項Ⅱ会報十二号原

稿募集・支部の運営・その他 以上

○ 終りに

誤字や脱字、意を尽せない文章も有り、不悪お許し下さ

いませ。

近江八幡支部活動報告

支部長 安倍 勉

一、組織の状況

平成五年四月以降今日までに二名の会員が死亡。現在一〇支部、一六七名（男子九九名、女子六八名）、役員九名、幹事二十名

二、定期総会

平成五年四月六日支部定期総会を開催す。出席会員六十七名、来賓として、中川同窓会長及び市山本福祉事務所長の御臨席を得祝辞を賜わり次の審議を万場一致可決し盛大に終る。

議事日程

・平成四年度事業及び同会計の報告

・平成五年度事業計画、同予算案 以上原案の通り可決。

・任期満了に伴う役員の選出

支部長より近衝経過を説明し、別紙の通り選出される。

三、新旧役員の事務引継

四月十五日事務引継完了

四、役員会の開催状況

◎ 第一回役員会 五月十日

1. 年間行事の具体化検討

2. 老大同窓会の準備

近江八幡支部がホスト役

3. 作品展の準備（リスト作成 七月末提出）

4. 研修旅行 年二回実施

5. 講演会 年二回実施

◎ 第二回役員会 六月三十日

1. 成果展の申し込み準備

2. 支部会報第十二号の編集打合を実施。編集委員を（役員四名と男女各会員二名を選任依頼）

3. 原稿六十二点、役員名簿の整備、目次年表の編集を行なう。

広告依頼を確認し、原稿を印刷所に送る。

◎ 第三回役員会 七月二十日

1. 女性研修事業の手芸研究二回成果発表

2. 成果展の出品物の輸送方法打合

3. 総会参加人員の把握と輸送方法（バス借用）

4. 総会の具体的運営の打合（八月二日本校に於て）

5. 支部会報十二号の校正と広告依頼先の打合せ

◎ 同窓会の総会開催

開催日 九月六日 十時

場 所 レイカディア講堂

参加人員 二百九十三名（支部参加人員六十四名）

三、 会長副会長共病欠のため、世話役の支部長（近江八幡）代
行する。

議事は平成四年度事業報告と決算、平成五年度事業計画と
予算案審議の結果原案通り可決す。

来賓としてレイカディア大学鎌田副学長と老人クラブ連合
会長よりの祝辞を受く。講演は講師として瀬川欣一氏（綿向
ホール館長）の講演を拝聴、昼食後解散する。当支部参加者
は六十四名の多数のため、営業バスその他マイクロバス二台
を準備して全員同一行動する。

研修ツアーとして唐崎の松聖衆来迎寺↓堅田の浮御堂を見
学する（ゲートボール事業代行）

五、 成果展が九月一日より開催の成果展の出品二十六点につ
いては幹事で取り敢えず集め、本部より収納に廻り一日会場に
搬入する。

九月十三日出品作品を回収して各自に返還する。

六、 会報の発刊

原稿〆切を六月末とし、編成委員会を六月三十日と七月三

十日に開催し、初更再更等を行ない、九月一日に発刊する。

七十頁外広告十八頁

七、 講演会の開催

十一月十九日県俳句連盟会長の「乾 憲雄」先生を招き、

「芭蕉三百回忌にちなんで」を題して講演を聴く。滋賀県や
近江八幡市に關係深い俳人や俳句の紹介などを織り込んでの
講演で、先生の御造詣の深きに打たれ感激し、郷土文化の発
展に思いを致しました。

参加者六十名 於市公民館。

八、 研修旅行の実施

1. （十一月二十三日）市福祉バス利用、葛川明王院↓朽木

興 寺↓藤樹神社を参拝見学、各所に於て住職或は管長よ
り由緒について講話を聞く。参加者四十九名。

2. 秀次公ゆかりの寺院を訪ねる。（三月九日 参加者三十

八名）京都岡崎「善正寺」↓木屋町「瑞泉寺」がんで寿司
で午食後嵯峨「村雲別院」の墓 に参詣↓西陣会館見学。

（三月実施予定の講演と研修を同時に実施）

九、 第四回役員会の開催 三月一日

1. 前記研修計画の準備

2. 本部会報原稿三月十五日まで支部長宛提出の確認

3. 次期総会事前協議

日時 四月八日 坪清

会費 六千円(年会費、本部会費、各壹千円宛)

4. 四役会議

三月二十五日於公民館 四役会議開催

総会に附議すべき案件の事前審議

・平成五年度事業及び決算審議及び平成六年度事業及び
予算案について

十、公開講座 三月五日午後〇時三十分

場所 米原文化産業交流会館

演題 額田王と淡海

講師 作家 高城修三氏

多数参加し感銘せり

役員名簿

支部長 安倍 勉 (本部理事)

副支部長 小川 常三 計 佐々木尚一

庶務 岡村金治郎 婦人部長 富田 政尾

会計監事 岡田富治郎 相談役 中島庄右エ門

岡東支店 吉川 保三郎

本部理事 村井 繁一 三日(八日市・致命井)

学区幹事

八幡東 井上 源一・泉本 みね(金部)

八幡西 深尾 龍平・村西 好・洞 忠郎

島 高柳 治子

金田北 中谷卯兵衛

金田南 筒井 好枝

岡山 深尾 源治・岡田 茂子

北里 二木 啓三・安田 文子

武佐 安田 泰三・小西ふさ子

馬淵 志賀 一郎・阪本 芳子

相原東 大里 亮蔵 (水尾寺) 小泉彌次郎

相原西 伏西千代子・生田 (薫 主)

(八日市) 高木 徹雄 (支 土) 北村 重吉

親善会 大沢 巖

本派 中田 武雄・田中 武一

本派 大島 新一

湖東支部活動状況

吉川 栄三郎

支部長 野沢 政次

一、会員数 一三六名

市町名	男	女	計
能登川	二二	一三	三四
五個荘	一四	五	一九
日野	一六	四	二〇
竜王	一二	七	一九
安土	一二	四	一六
八日市	七	八	一五
蒲生	七	一	八
永源寺	五	〇	五
計	九四	四二	一三六

二、支部役員

支部長 野沢 政次

副支部長 木俣 信一・深田 富三

監事 園田九二男・溝井 常夫

本部理事 木俣 信一
 本部監事 中田 芳雄・田井中元一
 庶務会計 大沢幾之助
 理事

(八日市) 高木 新蔵・(安土) 北村 勇吉
 (能登川) 田井中元一・(五個荘) 坂口 栄三
 (竜王) 関川 弘・(蒲生) 小泉藤次郎
 (日野) 新海 三郎・(永源寺)

三、事業概要 第三、小西ふた子

1. 本部役員総会 四月二十六日(県教育会館)

(1) 平成四年度事業、決算報告、新年度事業計画、予算案につき事務局から説明、了承された。

(2) 広報部から会報十一号の編集状況、研修部から沖縄旅行の中止に伴う日帰り旅行の予定につき説明があった。

(3) 事務局から老大新校舎の建設状況、記念行事につき説明あり。

2. 本部広報部会 五月十二日(滋賀会館)

会報十一号編集会議

3. 支部役員会 五月十三日(八日市・延命荘)

平成四年度支部事業、決算報告ならびに新年度事業、予算案につき協議、いずれも承認された。

4. 第十回支部定期総会 五月二十七日(延命荘)

中川会長を迎えて開催。

平成四年度事業、決算報告ならびに新年度事業計画、予算案を原案どおり可決。議事終了後懇親会を開く。出席十三名。

5. 本部役員会 七月二十日(厚生会館)

会報十一号の原稿校正、同窓会総会の日程協議。

6. 支部役員会 八月六日(延命荘)

成果展への出品搬入搬出につき打合せ、その他。

7. 本部成果展への出品

八日市五点、竜王六点、日野四点、能登川三点、安土二

点、永源寺一点。

8. 平成五年度本部同窓会定期総会 九月六日

新校舎大教室で十時から開催、当支部から三十五名出席。

当番支部安倍勉氏の挨拶に続き議案すべて承認。記念講演

「伝えていきたい民族風習」日野、わたむきホール虹館長、

瀬川欣一氏。当支部被表彰者、大道喜一郎、横山久太郎両

氏。

9. 本部日帰り研修旅行 十一月二十二日

京都大原三千院、白沙山荘、植物園、銀閣寺。当支部よ

り十七名参加。

10 本部広報部会 一月十七日

会報十二号の構成、掲載要領、テーマ等につき広報部員、

事務局長で協議。

11 レイカディア大学公開講座(産業文化交流会館)

作家 高城修三氏「額田王と淡海」 三月五日

万葉集におさめられた額田王の歌八首につき、その歌わ

れた背景の説明がなされた。いずれも日本文学の基ともい

える歌が淡海で詠まれたことは意義深い。と結ばれた。支

部聴講六名。

12 支部役員会(延命荘) 三月八日

会報の一般原稿取りまとめ、次期役員選考。

彦根愛犬支部活動状況

犬支部長 野中 正

私達の支部は皆様もご承知の通り東は湖東山系より西は琵琶湖畔迄の広い範囲の地域で会員の皆様は地域の発展と会員相互の連携のため、日々活躍されていられることと存じます。

平成五年度の行事についてお知らせ致します。

五年度支部総会は本年は犬上郡の役員様のお世話により六月十五日多賀町多賀大社参集殿に於いて開催する事に相成りました。中川県老大同窓会会長をお迎えして出席者一同神前において長寿祈願を終えて参集殿にて総会を開催。同窓会憲章の朗読に始まり定義ながら諸報告、収支決算報告等承認さる。動議事項として支部は地域的から見ても彦根市、犬上郡、愛知郡を三ブロックにしそれぞれの分野で地域に合う行事を行なうてはとの意見が有り今後の課題として検討する事に相成りました。

来賓の中川会長よりのご丁寧なる祝辞を賜り厚くお礼申し上げます。総会終了後懇親会を開き盛会に終了致しました。

例年催されています、在校生、卒業生の趣味作品の成果展は本年より県立長寿社会福祉センター内で開られました。会員の皆様作品の展示には今後共よろしくご協力をお願い致します。

皆様もすでにご承知の通り草津市南笠町に県立長寿社会福祉センターが完成され同建物内に老犬の教室等も出来大変環境の良い所です。皆様も一度見学されては如何がですかお知らせ致します。

県老大同窓会五年度総会は九月六日に長寿社会福祉センター内大教室で県下各地より多数の出席が有り当支部も多数の出席が有り諸行事等終了盛会に終わりました。

十一月には研修部よりバス日帰り京都八瀬方面の研修旅行が実施されましたが当支部よりの参加者が少く今後は皆様のご協力をお願い致します。

平成五年度行事報告は終わります。何分にも充分とは申し上げられませんが、皆様のご理解を賜り度、今後は皆様のご期待に添える様努力致します。何とぞ会員の皆様宜しくご推察賜りご指導ご鞭撻の程お願い致します。

本年度支部役員は左記の通りです。

支部長 野中 正

副支部長 辻 幸夫

会計係 川村 順茂

事務局 中島藤五郎

會計監査 若林 秀光

理事

(愛知郡) 北川 弥一郎・辰己 佐一郎

西堀 嘉一(県理事)

(犬上郡) 西山 弥一郎・西沢 正三・濱野 喜三郎

(彦根) 杉本文治郎・磯貝 澄雄・福川 隆三

西田 吉男・居戸 弥一・小堀 吉夫

寺村 真蔵

平成五年度物故会員名

故 近藤 辰次郎 文芸科 第二期

故 島村 三郎 園芸科 第四期

故 藤井 正三 陶芸科 第六期

謹んで御冥福をお祈り致します。

米原校では未だに陶芸の授講者が可成の人数がありますが本校道行がなければならぬ是非共陶芸の部をつくり窯を新設して頂きたい。

なお園芸に対しても少くとも二百坪位の不休の農地を借うけて頂き実地研修の出来るよう、之是非創設して頂きたい。新入生はよくその施設内容がわからないまゝ、入校しますが卒業す

湖北支部活動状況

支部長 森 量 海

新しく年次を重ねる毎に益々充実して来ました。

本校、米原校共に夫々充実して入学者の方も増大して来ましてまことに喜ばしい次第です。

会報第三号にも申し上げましたが、米原校卒業生の一部の方にきく処によれば本校と米原校との各科に亘る教育の課程が、

かなり相違しているとの事です。勿論その様な事は毛頭ないとは思いますが今後に対しては大体次の様な点に対してご留意願いたいと思います。

本校、米原校共各科に亘り講師は日を繰合せして、同一の講師で教えて頂くこと、米原校へ来て頂く講師は大変なるご苦労であります。これは是非改善して頂きたい。

米原校では未だに陶芸の授講者が可成の人数がありますが本校道行がなければならぬ是非共陶芸の部をつくり窯を新設して頂きたい。

なお園芸に対しても少くとも二百坪位の不休の農地を借うけて頂き実地研修の出来るよう、之是非創設して頂きたい。新入生はよくその施設内容がわからないまゝ、入校しますが卒業す

る時になって、これもあれもとの要望がでておりますので、本校と米原校との格差があつてはならないと思ひます。

これ又今一つ要望としては本校と米原校との事務局相互の連絡を常に密にして頂きたいこと。その連絡の出来てない事に氣付いたことは、この前の奈良への研修旅行に参加させて頂き、米原校事務局に現在並に行程はどの様になつてゐるか尋ねても米原校の事務局では何もわからない、全部本校事務局でやつておられるからとの事で大変なる迷惑をした事があります。研修する場合は少なくとも一度当局で下見をしてバス会社に交渉せられるべきかと思ひます。目的地にバスを入れる場合でも少しでも近くまでゆき下車さすべきだと思ひます。その様に打合せは何一つ出来てなかつた様に思ひます。バスに乗車させてもらつても往きと帰りは乗車バスが異り交代させられる支部の方は大変なる迷惑でした次第です。その上連絡が悪くて家に帰えられた方の中には夜の十一時すぎた人もあり今後の旅行は絶対にやめだとの大変なる苦言をきいた事がありました。

これはほんの一例です、あれやこれやと大変苦言ばかり申し上げましたがその方々の意見を代表して申し上げます次第ですので、お気にさわる事なく御赦し頂き度でございます。

次に当湖北支部の今日迄の経過状況を要約して申し上げます。

昨年六月の支部総会において役員任期満了に伴う改選の結果全員再選、さらに当支部は一市三郡と云う湖北特有の広い地域と「米原校」の誕生に伴う、年次三十余名の卒業生の増加による。これら活動強化と円滑化を図るため幹事「十名」を増員し「別表」の通りとなつた。

七月三日 第一回目支部役員会

議題

- (1) 本部総会、当支部四十名の割当
- (2) 公開講座の周知と参加
- (3) その他、(A)支部長の公印をつくることに決定

(B)会費の納入状況

八月十七日 第二回目支部役員会

議題

- (1) 本部事業、成果展の応募
- (2) 支部事業の推進について

(A) 一泊県外研修旅行の実施 目的 先進地の見聞を深め

さらに附近の歴史を探訪と共に会員相互の親睦を図る。

行先 福井ゴミ処理場、見学並びに附近の歴史探訪、芦

原「さつま荘」一泊 会費一人当り一四〇〇〇円

八月二十五日 本部会費納入

会員一四七名(特別会員(A)十五名並びに病氣その他理由未納五名を除く)全会員一二七名分納付した。

九月一日 県本部第十回成果展

当支部十四点出展、多数の応募ご協力有難うございました。本日搬入した。

九月八日 午後搬出し各出展者へ

九月六日 県本部総会に当支部より二三名出席した。

九月三十一日 例年どおり第十四期老大卒業生湖北関係者三

六名へ支部会員名簿を作り一人一人に手渡し歓迎した。

十月七日、八日 支部研修旅行

二二名参加、すばらしい先進地や歴史探訪し、実に楽しい一泊で共感を得た。

十一月二十二日 本部の県外日帰り研修旅行(バス)

三千院↓京都府立植物園↓白沙村荘↓銀閣寺

当支部十四名、多数の参加有難うございました。

十二月二十一日 第三回目支部役員会

議題

(1) 十二号本部同窓会々誌編集

(2) 当支部への割当原稿三十枚

(3) 文章の内容について

- (4) 市、郡別にそれぞれ割当
- (5) 三月十五日までに当事務局へ
- (6) 六月発刊(本部総会)

以上

湖北支会(湖北支会事務局) 湖北支会

(別表)

滋賀県レイカディア大学同窓会湖北支部役員名簿

平成6年度

役職名	氏名	住所	〒	電話	備考
支部長	森 量海	長浜市常喜新町 281	526	(0749) 62-3910	(期・学) 3. 文
副支部長	松下保清	坂田郡米原町三吉 36	521	54"-2395	8. 陶
	秋野昇	東浅井郡虎姫町本町 1045	529-01	73"-2644	6. 園
	林 憲雄	伊香郡木ノ本町木ノ本 739-5	529-04	82"-3640	11. 文
幹事	広部庄太郎	長浜市口分田町 851	526	62"-6601	6. "
	清水満子	" 朝日町 3-16	"	62"-1650	9. 生
	正福寺孫太夫	" 堀部町 591	"	62"-2762	11スポーツ
	川崎重兵衛	" 祇園町 183	"	62"-4882	12. 園
	中川志げ子	" 朝日町 20-12	"	62"-8496	13.スポーツ
	北澤清太郎	" 石田町 640	"	62"-0047	13. 文
	音居三郎	坂田郡近江町寺倉 309	521	54"-1173	3. 陶
	中川寿美子	" 近江町長沢 1045	"	52"-1365	6. "
	林 春三	" 伊吹町村木 1151	521-03	55"-1377	11. 文
	松本芳雄	" 米原町入江 269-9	521	52"-3508	11. 園
	馬淵尚之	" 山東町本市場	521-02	55"-1711	11. 文
	藤井峯子	東浅井郡虎姫町唐国	529-01	73"-4104	6. "
	辰己外弥	" 虎姫町大字大井 1229	529-01	73"-3806	7. 園
	中村重之	" 湖北町速水 960	529-03	78"-0762	" "
	大濱寛一郎	" びわ町大濱	526-01	72"-3241	11. 陶
	大比叡留次	伊香郡高月町落川 102	529-02	85"-2907	11. 園
	田辺一	" 木ノ本町千田 115-6	529-04	82"-4160	" "
	平塚志保	" 西浅井町塩津浜	529-07	88"-0003	11. 生
	小山巖	" 余呉町文室	529-05	86"-2773	12.スポーツ
	河路寛	" 高月町唐川 344	529-02	85"-3952	13. 文
監事	西 篤スミエ	" 高月町字根 365	"	85"-2112	7. 生
	横田定雄	東浅井郡虎姫町中野 361	529-01	73"-2857	11. 文
県本部役員		森 量海 松下保清 (湖北支部事務局 庶会担当兼) 秋野昇			

高島支部活動状況

支部長 鎌田 成治

高島支部では、新しく第一四期生一二名を迎え、会員は六二名になりました。それでも、県下八支部中最少会員数だと思います。

これは、当支部が面積が広く交通の便がよくない事などの理由で老大への入学者が余りなかったことによるものと思っております。

しかし、会員のみなさんは、それぞれの地域（町村）においては、老人会活動や公民館活動に対して意欲的に取り組んでおられます。

○ 会員数（平成五年十一月五日現在）

マキノ町 二名

今津町 一二名

朽木村 一名

安曇川町 一六名

内高島町 六名

新旭町 五名

合計 六二名

◎ 高島郡支部総会

本年度の総会は、第一四期生の卒業を待って、左記のとおり開催しました。

期 日 平成五年十一月五日

会 場 新旭町 「川新」

会議内容

・平成四年度県本部活動状況の報告

・公開講座・親睦旅行共に本支部からの参加者はなかった。

・同窓会総会 当支部より一〇名出席

・卒業生作品展 七名出品

・支部長会 三回（主に会報発行の件）

○ 役員改選

支部長 鎌田 成治

副支部長 横田 三千太郎

理事 中島 捨雄
（今津町）

鎌田 成治
（安曇川町）

横田 三千太郎
（高島町）

中西 重三
（新旭町）

○ 意見交換

・会員意識を高めることや、会費の徴収方法などに一考を

要する所があるのではないか。

。卒業年次別・専攻学科別などの交流はできても、郡支部内全員の交流会は実施しにくい。

。県本部主催などの会合には、会員は年々高年化し、その上交通の便が悪いので出席しにくい。何か名案がないものだろうか。

。老大で修得したものを基礎として、所属の老人会やクラブ活動等に参加しておられるが、指導・助言者として他地区までも出てもらうわけに行かないのか。

等々の意見や希望が、会議及び懇談会の席上に出ました。和気あいあいのうちに、午後三時ごろ再会を約して散会しました。

高島支所部員名簿

高島支所部員名簿	支所長 堀田 知 彦	副支所長 堀田 知 彦	事務長 堀田 知 彦	事務副長 堀田 知 彦	会計長 堀田 知 彦	会計副長 堀田 知 彦	庶務長 堀田 知 彦	庶務副長 堀田 知 彦	広報長 堀田 知 彦	広報副長 堀田 知 彦	総務長 堀田 知 彦	総務副長 堀田 知 彦	その他 堀田 知 彦
----------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------

高島支所部員名簿

高島支所部員名簿	支所長 堀田 知 彦	副支所長 堀田 知 彦	事務長 堀田 知 彦	事務副長 堀田 知 彦	会計長 堀田 知 彦	会計副長 堀田 知 彦	庶務長 堀田 知 彦	庶務副長 堀田 知 彦	広報長 堀田 知 彦	広報副長 堀田 知 彦	総務長 堀田 知 彦	総務副長 堀田 知 彦	その他 堀田 知 彦
----------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------

会員だより

大津支部

短歌

三期生文学学科 増田 三郎

満開の蝨梅の花 梢梢さねさねに

冬陽のさして 風花の舞う

に冬陽の照れば 黄緑に

葉先輝き 裾は山暗し

新しき電動カード 購あがないて

今日初乗りの 冬晴れの道

「平等」

四期生陶芸学科 大林 重信

戦後、男女平等、人権尊重が叫ばれ、頭の中でだけ考えていたことが、今や現実に、女性署長が、最高裁判事が、全国で只一人の女性村長が今年より御活躍、機械化が進むにつれて自分の手足を動かすことが、古いと思ってみたり、同じ仕事をすることが男女平等だと錯覚していいのでしょうか。

身体のおしくみが違うように、男女同質ではありません。どんなに頑張ってみても、女性にはとうてい出来そうでない事と、また逆に、男性も女性にはかなわない事が沢山あります。それぞれ仕事にも、向き、不向きが生ずるのは当然であり、一番大事なこととは、誰が見ても違和感を感じないということではないでしょうか。

お互に相手を認めあい、協力し合う時、はじめて男女平等があると思うのです。

私たちは不平や不満を言う前に、もう一度自分のおこないを見直し、そこにかくされているおこないの意義を発見することによって、その事の充実と、自分の成長を守ってゆきたいものだと思えます。

与えられたどんな小さな仕事でも慈しむことのできる人が、真に自己を慈しみ、他人をも慈しむことのできる人だと思わうからです。

茶の間の話

五期生陶芸学科 川島 啓一

今回のお話は、徳川時代で藩によって、年金を受給していたお話です。

今からおよそ七十年前の文化文政の頃で、今の群馬県碓氷郡松井田町で、地図を広げて見ますと、JR信越線松井田駅下車碓氷湖の附近です。

松井田町の教育委員会のお話によれば、町内のある農家の土蔵から古文書が発見され、その古文書を整理判読によれば、次のような内容の記録であった。藩は、老人や、乳児に対しては福祉の対策に力を入れていたと見られる資料であった。

また文政十一年（一八二八）年の正月に藩よりのおたつし「下知書」が出された、それによると妊婦に対しては、妊娠五ヶ月から出産まで、米なら二升、お金なら二分を与えたり、ま

た老人の九十歳以上に対しては、年金をやる旨などを声明している（金額は不明）？ もっとも老人年金は、該当者がなく、すぐに年金を七十歳まで引き下げられて、与えたとのことでした。

以上が昔の年金のお話でした。
私達の年金も、今年十月に受給額が少しばかり増えますが、物価高で焼石に水ですね。

これからは、私達は健康を保ち、明るく文化的に生活を営み、いつまでも長生をして社会に役立つ老人でありたいですね。その反面、年金をいつまでも受給致しましょう。

新雪小樽わが青春

五期生文芸学科 山本 良雄

ラジオの深夜放送を聞いていたら、小樽の老女から「新雪」の歌のリクエストがあった。彼女は私と同世代らしく、五十年前の私が新鮮によみがえってきた。陸軍少尉の私がアツ・キスカ島増強作戦に巻きこまれ、見習士官と軍属たちを先発させ、少しおかれて独り小樽についた。彼等は駆逐艦に便乗して先行していた。港外に米潜水艦が出没するので、当分の間輸送

船は出せないという状況であった。

私は通信隊であったから、前の年にミッドウェーで海軍は第一線級空母を四隻も失っていたことを知っていた。だから兵站線の長いアリューシャンの二島を今更増強して守りきれぬのか疑問があった。ひよっとすると今度は生きて還れないかも知れないと思った。船待ちの何日か不安な気持ちを紛らすため映画館へ行った。大人三十銭のところ軍人は五銭であった。「新雪」が上映されていた。そのころの月丘夢路は若くて綺麗で魅力的であった。紫けむる新雪の……という主題歌を覚えてしまった。他にあてもないから出ないで夜の部まで見てしまったからだ。

その後この作戦は中止され、今の私があるわけだが、かつて生死の巖頭に立っていた、わが青春の小樽の幾日かは忘れ難い。

輸送船を待ちし小樽の街よ

「新雪」を二度見し映画館は今も残るや。

五期生文芸学科 高裡 十八

五期生文芸学科 高裡 十八

今朝の新聞を見るに、
余生の志向

あゝ想い出の歲月よ

五期生文芸学科 太田 いと

はるばると 歩み来たりて

喜寿の人生

童に遊びし 野や山は消ゆ

想い出の 野山は拓かれ

カラフルな

箱型の家 ひしめきて建つ

「青春とは、人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う…

年を重ねただけで、人生は老いない、理想を失うとき、初

めて老いる」

私はこの一節が、大好きであります。

残る人生も、この言葉を胸に抱きしめて、明るく生きてゆき

たいと願ひ、(そして努力をしてゆこうと思っています。

十一 苦しむを乗り越えんとす人間は強くなる

十二 苦しみは人を強くする

十三 苦しみは人を強くする

十四 苦しみは人を強くする

十五 苦しみは人を強くする

余生の志向

五期生文芸学科 高野 たみ

過ぎ越しの幾星霜、喜寿も済み内外合わせて八人の孫が次々に成人して、各々伴侶を得て社会人と成り巣立ちつゝある現在ですと申しますと、如何にも順風満帆敷かれた倅せな、レールの上を歩いて来たとお考え下さるでしょうが否、「人生は四季と同じく寒い冬もあれば、暑い夏もある」様に喜憂さまざまなる半世紀余りを経て、老境に至った今日です。

皆様にも御承知の方もありますが、私は茲に或る名士の格言を二十句、何れも最も身辺に貴重なる教訓と感銘したものを選びました。

- 一、先祖の供養を忘れるな
- 二、親に感謝しない者は自滅のもと
- 三、美しく年をとれ
- 四、顔のしわより心のしわを無くせ
- 五、一念天に通ず
- 六、人生とは闘争の連続
- 七、人生とは真剣勝負
- 八、心が裸になれば恐いものなし

九、前向きの言葉は人を前向きにする

十、己を制し得ずして他を制し得ず

十一、苦しみを乗り越える度に人間は強くなる

十二、百人の味方がいれば百人の敵がいる

十三、発言には力が必要

十四、度胸ある者に人心はなびく

十五、不平不満は敗北につながる

十六、運が悪いんじゃない運を開く意志がないだけ

十七、昨日や明日には生きられぬ今日この一瞬に生きよ

十八、駄目でもともとに角やってみよ

十九、人間の可能性は無限である

二十、ユーモアは人の心を豊にする

以上

之をモットーに残生を続けてゆきたいと思ひます。

短歌 ひな祭り

七期生文芸学科 寺田 光

ぼんぼりの灯りに淡く浮き出さる

ひひなの頬の妖しさに酔う。

松扇をひろぐる雛の細く白きおゆびは

ほんに白魚のさま

艶深きおすべらかしの素直さに

古きおんなのつつしみ含む

お内裏のかんむり少し曲りいぬ

ひひなにみ心傾げられしか

夜の帷り降りて内裏のみ目細き横顔

照らす甘きともし火

ピンク色のおひなあられの可愛さに

口に運ぶをためらいており

縁先へのどけき光りシンビジュームの

蕾ふくらむひなのお祭り

海と船旅

七期生陶芸学科 桑田 二郎

今朝の新聞を見ると、ある大学教授の珍らしい「老人イメー

ジ調査」が発表されています。

それによると現在の企業や、若者の七割は老人に冷たく、尊

敬していいとのこと。それにしても最近の世の中の風潮

には腹のたつことが多く、老境に入った私が、今更腹を立て、

も仕方ありませんが、果して老人は元来生きる喜びを、どれ

だけでもっているか折々考えさせられることがあります。そこで

私は時折り気分転換のため、ゆっくり時間をかけてのんびりの

船旅に出かけるように努めています。

世の中どうともなれといった大らかな気分で、大海原の中に

飛び込み、何ものにも束縛されない自由な時間を船で楽しみま

す。海に出ることは狭い世間から開放されて、自由を手に入れ

ることでもあり、後戻りは出来ない。見えるのは広い海、青い

空、海の深い憾ろの中にあつてのびのび楽しい毎日を送ります。

海や、船旅の素晴らしさは、語りきれないものがあります。

今年も慌ただしい世間から抜け出して、船に乗って、人生の

生きる喜びを味わってみたいと思っています。

老いても頑張りたい

七期生陶芸学科 原田 なみ

女学生の様な気持になって、石山駅から電車に乗り草津線に乗り替えて、貴生川までの楽しかった電車通学、車窓から見える田園の風景、駅々から乗って来る友達を待ちながら楽しく語った思い出。何時の間にもやら碧水荘教室に着く、思い出多い作品の数々自分の部屋に大事に置いています。

見る度に楽しかった老犬の頃のなつかしい友達の顔が走馬燈の如く思い出されます。

卒業以来八年目、私も七十五才の老人となりました。でも私は只今も頑張っています。

老人クラブの婦人部役員として、またゲートボールの連盟女子委員長もやらせて頂いています。

仏婦の副会長また、日赤奉仕団の委員長等一生懸命お役を勤めさせて頂いています。

趣味も生花や謡曲と、まだまだ頑張っています。

同窓生の皆さんもまだ若い、人生八十才からと云う言葉もございいます、残る人生悔いのないよう健康で明るく、世の中のお役に立つよう頑張ろうではありませんか。

園友会 便り

十期生園芸学科 平田 正善

園友会は老犬十期生園芸科を卒業した三十名で、卒業と同時に結成いたしました。

卒業後はお互いの園芸技術の向上と末長い親睦を計る為に、年二回（春と秋）の研修会を開催いたしております。また開催地については、県内を五地区に分割して当番制として夫々地区の関係者が担当幹事となって、会の主旨に副うべく計画して実施いたしております。

去る平成五年十月には大津市在住者が幹事として計画開催いたしました。研修会としては大津市大石龍門町の叶匠寿庵寿長生の郷を見学しました。風流の世界農場でもあり、菓子工場であり、人生道場でもあり、花とともに遊ぶ楽しい一日を過ごし、心もすがすがしくなり出席者一同に大変喜ばれました。

研修会の後は南郷温泉二葉屋にて懇親会を開催し、旧交を深め午後四時頃解散して、附近の観賞は自由散策といたしました。当日は二十名の出席者を得て大変有意義な一日を過ごすことが出来ました。

地域でのふれあい

十期生生活学科 村田 滋子

冬あけて膝はいかにと

腰はいかにと ねぎらわれおり。

卒業と同時に地域の老人クラブに入会して早や五年、何か自分の持ち味を生かす事が出来たらと、会員の皆様とご一緒に手芸クラブを作りました。

和紙をつかっての、ちぎり絵に挑戦？初めての者ばかり、十五名が集って、月一回〜二回、あれこれ思案しながら、時には実物の花を目の前に置いて、やっと今日まで続けて参りました。毎年学区の文化祭にも出品させて頂き、頑張っ続けてきた甲斐があったと喜んでいきます。

また老人クラブの総会には、出席の皆さんに手作りの一輪さしや、ミニ菓子箱等をもたらって頂き、喜んで参加して頂ける一助にもなっています。

さて今年の総会には何を作って差し上げたらと、皆で相談し材料を集めて百個の粗品作りに頑張ります。

わずかな事でも続けて行く楽しみ、皆さんとのふれ合いの場、生がいの場、これが一番大切な事だと思えます。これからも地域にとけ込んで与えられた自分の持ち味を生しながら続けて行きたいと願っております。

消防訓練に参加して

十期生園芸学科 林 うた

平成五年九月一日大津市消防訓練が行なわれて、大津日赤奉仕団も参加させていただいた。午前八時集で、会場に着いた時は式典が始まっていた。

奉仕団にはテントが準備してあり各地域より二名づつ出て、支部長以下五十人が集合し、点呼の後大津分団と湖西分団とに別れ、昼食の準備を始める、頭に手拭、口にマスク、手は何回も洗い衛生に気がついた。

自衛官に飯盒車でご飯を炊いていただき炊きたてのご飯を握る、暑い上にテントはあっても太陽に照りつけられての作業、汗がマスクの中へ流れ込み、体は汗でべっとり、拭く事が出来ない状態、幸い段取よく作業が進み、十一時頃には五百人余り

の弁当できました、皆様のお陰と感謝しています。

私達は訓練の見学です、火災に対し消防車が放水、救急車が急行、ヘリコプターも凄い風音で降りて人命救助、地震で水道が破損、素早い応急修理、バス事故で多くの乗客を救急車での救護、ビルの屋上で救護を待つ人を梯子車や綱での救助、など実戦そのもので身が締る思い、炎天下の懸命の訓練、感激しました。

十二時三十分休憩に入り食事を終り後始、設備無き為青年団の給水、大へん助かりました。

災害をなくし楽しい社会であることを願っています。

関電の原発を見る

十一期生文芸学科 門馬 三郎

老大同窓会大津支部の研修会で「大飯原子力発電所」を訪ねた。

関電は自社PRの為に、バスで送迎をしてくれる。

原発については賛成、反対と政党の政策、立地の住民レベルで二分されている。新聞等で良く読むが理解し難い、自分の目

で良く確かめ納得が得たくこれに参加した。

発電所は小浜湾に突き出た大島半島の先端に位置している。山の谷間を切り開いた所に四基の原子炉と付属設備がぎっしりと並んでいる。上から見ると石油化学工場以上の巨大な迫力を感じる。奇岩、洞窟の蘇洞門が近くに有り観光船が発電所に見える海域に來ると、忽然と現れた巨大発電所にSF映画のシーンを見ているようだと言う。

人里離れた場所に立てる理由は何か、原子炉のミニチャアで説明を聞く、これで生じたエネルギーを蒸気発生器に通してタービンを回転させると理解した。何が危険かとは解り難い、説明は女子社員で、質問もしたいのだがそのチャンスもなかった。所内は安全と守秘でガードは固く、あちこちにあるゲートでの管理は厳しい。

原子炉格納容器の周囲は、太い鋼鉄の束が数百本も縦横に打ち込んだコンクリートで覆れている、中央制御室の制御盤にも四基の蒸気発生器の状況が一目で管理出来る等、何段階にもノイズシールド機能が有る。

関電として安全性を特にPRしているように思えた。

この十年で一兆円が設備に投資される、電源三法によると、交付金や固定資産税で、町財政は潤う一方、良く整備された道

路もこの関連によるものだろう。しかし何故それほど地元を優遇するのかとも思った。

原発が電気の供給で社会に貢献し（大飯の発電量で京都、奈良、滋賀の需要を賄う）被害も出ていないのに「原子発電は危険だから廃止」とは果して正論か、（既在の原発は容認すると政策を転換しつつある政党も有るが）世界のエネルギー資源、日本の現状を考えると原子力の利用と安全技術向上を進めるのが日本人の取るべき立場だろう。

核アレルギーを少し解消したような研修会だった。

閑閑たる小さき知

十一期生陶芸学科 久保 秀一

「大いなる知は閑閑たり。小さき知は間間たり。（「莊子」）
間間たる小さき知をもって、些か述べてみます。

去る者が日々に疎くなって行きますように、我われはともすれば初心を忘れがちになります。老大大で『ひとつ勉強でもしてみるか』と思い立った時の燃えたぎるような気持に、いつも立ち返ることが老大大卒業生には必要です。そしてその気持こそが、

卒業生それぞれの在住地域において、その役割を果たすべき洒れることのない活力と、奉仕の心の源泉となるのではないでしようか。口で言うのは易きとも、行うことは難きです。

しかし、それを行わねばならぬのが、我々老大大卒業生の責務なのであり、義務でもあるのではないでしようか、なぜなら、県民の血税で学ばせて戴いたのですから。

凡眼の凡夫が立ち返るべきところは、凡庸ではあるが言い古された「初心忘るる勿れ」の平平凡々たる至言だと思ふ今日此頃です。

陶友と共に

十二期生陶芸学科 三木 丹

卒業後更に二年間忠左先生の下で同期の高野氏と共に助手として、十三、四期生のお世話をした関係で新築成った老大大の施設を借りて、十四期生を中心とした陶芸教室陶寿会の創設に参画し、ようやく今年の一月から月二日の活動を開始する事が出来、作陶、釉掛、焼成と、お互いの技術の向上、また風通しのよい肩の張らない楽しい、同期生と云う会の特色を生かした作

品を目指し全員製作に励んでいる。

今春は、いつも陶芸談義に花を咲かせている友人十名程のグループが集い陶芸の森の穴窯を借り受け焼成する話がまとまり、今その準備や作陶で忙しい毎日である。登窯、穴窯の焼成は何度か経験したが、いつも薪の燃える音色を体で感じながら、不安と期待の交錯する中仲間と語らいながらの作業は何とも云えない一種の快感さえおぼえるものであり、真に陶芸名利につきる気がする。

陶芸を学んだお陰で同期の会をはじめ、いくつかのグループに属しているため、月の大半をそれに費し、陶芸三昧と云う感じであるが、それが出来ると云う事は、自らの積極的な姿勢と家族の理解協力、健康、そして良き友がなければ出来ない事と思っている。人はみな我々を老人と呼んでいる。残り少ない人生を新しいすばらしい陶友と共に有意義に過したいものである。

真 苗 買 の ま ず づ 健 康

十三期生園芸学科 古江 喜廣

今まで病気がらしい病気がしたことがないと言いたいが、肝臓

とのつきあいは十八年になる。肝機能数値が最近はやゝ高値安定である。晩酌をしばらく止めるとほぼ正常値に戻るようだが、またそのうちに上ってくるので楽しみの晩酌を止めようとも思わなくなった。一病息災、気長につきあっていこう。

今年は二月と三月に風邪をひいた、なんとかは風邪もひかぬとまわりから言われてきたが、老大で学んで賢くなったのか。

昨年は、大津支部の園芸講座で鉢花などについて、老大同窓の垣見氏からすぐに役に立つ有益なレクチャーをうけ、我が家のリビングは花が主役となった。今年も続けるそうで、今から楽しみにしている。

今年から地域の老人クラブにはいった。囲碁やゲートボールを楽しみながら、地域のお役に立てればと思っている。

健康で自分のやりたいことができるのは、本当にありがたいこと、と思う。

よくよくよせずに、背筋を伸ばして、前を向いて歩こう。

短歌 古稀

十三期生文芸学科 原田 頼子

古稀祝ひ古稀にとまどふ集まりは「妹背の里」の相聞の歌碑
古稀を舞ふ女の撓へるほそき肩来し方写す齡うつくし
目なし達磨手に受け何にいどまなむ赤き衣をゆらしめて黙
乗り合はす人らの声を空耳に「折々のうた」と冬の大和路
野仏に参らす小銭を濡らす雨かく洗はれよわれの煩惱
横なぐりの雨のつめたさ泌める身に摩崖の仏それからの杣
濡れながら行くも洒落かと下り坂流れと変はる雨ふまへつつ
降るとなく止む気配なき宵の雨透明の傘の肩美しき
追ひ越してゆきつつためらひ見するかな雨を踏みゆく若きヒールは

陶芸に親しむ

十三期生陶芸学科 藤井 昭司

老大卒業して早や四年になります。

光陰矢の如く歲月人を待たずとの言葉通り知らず知らずのうち

に月日は過ぎ去りました。

陶芸科卒業直ちに少しでも先生の手助けが出来れば、又一人でも多くの人生経験豊かな友達が出来るのではと思ひ陶芸科十五期生の方々と一緒になって楽しく作陶に頑張っています。又趣味活動として地域の方趣味を同じくする人達や老人大学先輩の方々の指導を受けながら毎週楽しくその方々との輪に駆け込んで多くの人に接しこれからも楽しく皆さんと共に陶芸に精を出して頑張っていきたいものです。

近江を思

十四期生生活学科 小久保有彩

京都で三十四年間の教職生活を終えて、滋賀に帰り早や十年を迎えました、また老大を卒業して半年が過ぎました。

大津での思い出は、昔尾花川の家裏の湖で親類の祖父に舟に乗せてもらった事等、ホテル紅葉が農地だった頃から見違える様に変った、現在の百六十一号線沿いの塀の中で、犬のゴン太だけが毎京からくる餌を待つ。草津では戦前天土川の美しい川での水遊び等、大昔川の決壊で旧道を手原近く迄家が流され

たと聞く、古い家の建て替え時大名行列の道具類は、地元学校の社会科教室へ寄贈した。

守山にも祖母の実家ありよく行った、戦後はすっかり変りピルが立ち並ぶ、立命大ができる、野地辺は戦後よく歩き、お米を買いに行った、森や神社を目当に歩いた所も家が建ち並び、道もわからなくなった。

大津での十年は、明日への健康づくりの為、何か趣味をと思いで多くの事を勉強した、はじめに短歌教室、経済学講座、平成二年県民福祉大学を修了した。

好きな漢詩や和歌のある詩吟も続け、昨年十二月石山支部十周年記念大会で江南春を吟じた。

老大の二年間は、多くの事を学び、新しい友もできた、卒業後は月一回集合して、交流を深めている、頭と健康を持続して老後の楽しめる生活を送りたいと思っている。

古詩吟の古生 いきき 群

十四期生園芸学科 岡田 茂

老大を卒業して約五カ月。

南部第一ブロックの会合に初めて参加した、二月十六日十一時から南老人福祉センターで、食事をしながら懇談の場がもうけられた、一期生から十四期生まで八十五才の高令者を交えた十三名の出席であった。

いづれもが老大を人生ステップのバネとした活力あるはつらつ人生の近況報告。

これからの老後生活には、教育（学びの姿勢）、健康第一、経済（豊かな老後も金しだい）暮しよい家庭環境、心の若さ：をお互に関連させながら、全体として生活の中に「生がい」と「ゆとり」そして「快適さ」を追求し、一人ひとりが自分流のライフスタイルを持ち楽しむかを身につけることだと考えている。

老大OB生はまさにこれらの要件を備えて、人生を悠々として自適に謳歌すべく努めている姿は立派であり、そのファイトは驚きであり、かつ感銘を受けるのである。

従来から老大生は、同期のグループなど横の関係は密接な連がりて活発な活動が行われているようである、今後は同窓会など地域的な縦の連がりを大切にして、お互いに切磋たくまし、刺激し合いながら、老後のライフステージを広め、素晴らしい人生を歩み、元気に老いたいものである。

グループ活動

すばらしい仲間

十一期生陶芸学科 中川 圭子



老人大学校在学中から、卒業後も陶芸を続けていこうと、十一期生掛川昭二さん、久保秀一さん、中島美也子さん、春山ミサヲさん、中川の五名が集って、藤尾公民館の一室を借り、陶芸を始めました。

公民館には、陶芸の設備が無いので、作陶の部屋だけを借り、窯は掛川さん個人のものをお借りすることにしました。

老卒業と同時に、地域の婦人会の方にも呼びかけたところ、参加希望者が多く、教室の広さの都合で欠員待ちの状態になっております。

月二回の定例日集って、若い人達の感性豊かな作品に刺激されながら、作陶し、話し合い、手先を使っていることが、私達の老化防止にもなっております。

毎年十一月の文化祭には、その年に作った作品を各自で出し合い、「チャリティバザー」をして、収益金の全額を災害地や交通遺児の会等に寄付することにしております。

最初、陶芸教室だけでやり始めた「バザー」も今では、書道、絵画、編物、洋裁、俳画等の教室の方も、協賛していただくことになり、大変好評を得ております。

自己満足かも知れませんが、小さな善意も、皆様の協力で、社会に何かを還元し、少しは社会福祉に参加しているという喜

びを感じております。

それに加えて、去年から小学校の週休二日制が実施され、学区の週休二日制推進委員会からの依頼で、第二土曜日の午前中は、小学生も参加することになりました。

子供や老若男女三十名ほどが三班に別れて、陶芸を楽しんでおります。

会を作ってから五年になりますが、老大で学んだ陶芸の炎は消えることなく、ますます燃え上っていきます。

欲をいえば、今はリーダーの方の好意で、陶芸を続けられておりますが、公の陶芸をする場があればもっと大きな輪が、できるのにと身近に、場所が無いのが残念です。

最近、声を出すことは健康に良いと教えられ、コーラス部に入会させていただきました。

誘い合って出席し、黒板に書かれる音譜を追いかけてながら、横文字の多い楽譜の時には、ヘキ、ヘキしながら若い人に合せて、声を張り上げております。

私の回りの友達は、高令になっても、自分から人の輪の中に入って、意欲的に活動しておられる方ばかりで、心身共に若く「趣味を持つこと」「話し合える友がいること」は、老に向う者にとって、大切なことと思います。

陶芸科十一期生五名も、平均年令七十五才になりましたが、

これからも、健康に留意し、陶芸を、楽しみながら仲間で助け合い、社会生活の接点に加わり頑張っていきたいと思っております。

このすばらしい仲間めぐり会えたことは、老大のお陰と感謝いたしております。

同期会

七期生陶芸学科 林 行雄

我々七期生は卒業時（一九八六年）に自主活動として、文芸

学科は「ことばのしるべ」（カタカナの外來語や和製外語の解

釈）生活学科は「くらしの知恵」園芸学科は「ふるさと案内」

の冊子「大学」を発行し陶芸学科は歳末助け合い募金用に壺を

四ヶ作陶し各学科に配り授業日に小銭を入れて貰い「NHK歳

末たすけあい」に献金いたしました。この様なことから卒業後

も七期生有志は「七期会」を発足し、各学科輪番で二年間会長

その他の役員を定め、春、秋の懇親会及び十一月に定期総会を

毎年輪番で行い、生活学科は「グルメを味う集い」を今日まで

続けています。四学科共に親睦会が継続出来るのも、最初の発足時皆が縁あって老大で学び、これからの余生を楽しく良き友と、ゆとりの有る生活を送るべき念願からでこれからも続けて行きたいものです。我々のクラス会（七陶会）も適時一、二泊で旅行をし、お互に親睦を図って居ります。

歩み

七期生生活学科 本郷 武子

あすかで卒業パーティを楽しく祝ってお別れしまして早や九年になります。

七期生百名、同窓会入会者五十四名、他界された方十五名。

年に四回春のレクレーション、グルメの集い、見学の旅、秋のレクレーション総会、ゲートボール大会等々、陶芸の方は水口に、信楽へと研究に楽しんで居られます。永源寺の紅葉、金閣寺、北野天満宮参拝、童安寺参詣、あの日はよく歩きました。三kmはあります。でも全員元気でした。長浜盆梅、信楽陶器祭り、七月の暑い日でした。川口さんに案内していただき川の水の澄んだ美しい小川のそばで中食をいただきました。川口さん

はもう他界されました。ありがとうございました。レイカディア大学成果展には各科の力作を沢山出品させていただき何時までも楽しい思い出となります。

平成六年度は生活科が当番になっておりますから、行事計画を三月中旬に役員様方と御相談させて頂き会の集いを増々楽しくして行きたいと思っております。

卒業当時より今日の方が元気に若々しくなった様な気分でおります。

時々電話でお話しさせて頂くのがほんとうに楽しみです。体に十分気を付けて、毎日を送りましょう。

「すがやか」会の記録

十一期生文芸学科

私たちは平成二年九月に老大終了後も在学中の交遊を続けようと年に二回会合を開いております。校歌からの「すがやか」を会名とし、同名の会報も出版しております。会合は「吟行会」でも有りますが、句は後日編集員に送付し会誌に掲載する事としております。最近の句を披露して卒業後の我らの研鑽をお示

しします。...

病妻が足を気ずかう 今朝の雪

鳩の海 美しき比良の白屏

豊岡 力

大寒の静かに暮るる 志賀の里

鶯や 初音聞きつつ 小関道

里井 才吉

南天の目に入る赤 社寺めぐり

古寺に 松の花散る 黄八條

姥谷 正之

紅梅に佇ちて うなじの白き人

山中 勝

春浅く 句友 競い 酒肴も

門馬 三郎

主なき 寺の 紅梅 色さえず

村上 繁子

彩鯉の 池に華やぐすがやか会

片畑百千代

すがやかの出会いが嬉し 菊日和

伊藤 実三

秋灯の グラスの底に 心置き

松野 照子

受験期の図書館 好日音も無し

小沢 進

淡雪の しばらく降るや海の上

今堀 貞一

比良の山とも登りて 感無量

北村太兵衛

火災を監視目がさめる 看護婦さんの優しき声

泉たるも 今日も一日 共に頑張る

もつと野暮るのよと 野暮るのよと 野暮るのよと 鎌田 成治

き 緑林全うの 緑の香を 咲かせ 咲かせ 咲かせ

きで 全う 禅林の 垣を 彩る 寒椿

思ひ出の中 阿部 誠

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

手袋を そつと 外して 棚に 置く

手袋を そつと 外して 棚に 置く

手袋を そつと 外して 棚に 置く

春浅し 延寿 願に 多賀詣

春浅し 延寿 願に 多賀詣

の 如果 藤井み枝子

き入丁 立ち止まり 花と 語らう 疎水 べり

卒業後の グループ 活動 藤田 俊子

春灯に なごむ 心や 遠き人

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

き良う 居並びし 河豚に 貼りつく 高値札

雪降る 音の 暗き 夜

志賀 一郎

老梅も 枝凜として 花紅し

柴田 正三

寒椿 先ずは 一輪 ほころびて

尚子

霜降りて 老愁を 梳く 朝鏡

寺本 寿子

甲賀路の すがや か会や 山笑う

奥村 孝三

妓王寺の 尼は 語りべ 寒椿

齊藤 明夫

春灯に なごむ 心や 遠き人

春灯に なごむ 心や 遠き人

春灯に なごむ 心や 遠き人

春灯に なごむ 心や 遠き人

春灯に なごむ 心や 遠き人

春節や 晴れ着姿の 娘かな

(故) 井上 清

老大で学習した俳句を、今も楽しんで居ることは、即ち教育の成果が上がっていることの証だ。

(文責 門馬)

花 と 遊 ぶ

十三期生園芸学科 垣見 良一

私は緑色と茶色が好きである。偶然かも知れないが緑の樹々を見ていると心がなごみ、植物の生育の神秘を感じる。しかもその植物は土(茶色)に育つ。緑は成長の色である。人は赤色を見て燃える太陽を連想し情熱を感じる。黒色は暗黒の世界を思い世の中この先暗闇とも言ふ。白は誰が見ても純白で清潔感を与え全ての出发点でもある。青色は物の深さ、雄大さをしめす。緑は全ての物の青春かも知れない。しかしこの見方は人によって異なるのも当然ながら同一人でも時期が違えば異なって見えるのも不思議ではない。例えば赤色は時によっては炎暑や火災を連想するし、青色は大海原の嵐の恐ろしさを思出す。地

球上の物体には夫々の色があり調和が保たれて初めて全てが成立している事は否定出来ないが熟年期の人生から緑が忘れられたら心の老化が進むばかりである。何事も希望をもって明るく考えたいものである。

植物は発芽から開花に至る迄常に緑を忘れる事なく成長し続ける。成長が可なり進んだ時点で立派な花をつける。家人が丹精込めて咲せた花すらけいも気が付かない人もおれば、「私は花が好きです」と言っているも栽培には全く関心のない人もいる。本当に花が好きなのかどうかも疑わしくなる。本当に好きならばその花を咲せてくれた植物に愛着を感じないのか？

その様な人は栽培は愚か、蕾が付いても関心がない。陶芸の世界でも同じである。立派に出来上がった花瓶や茶碗を見て誰も悪い気持ちはいないがこれ等が出来上がる過程には何の関心も持たない人々である。目の前に山があったからとあえず登ったに過ぎず創造力を働かすに及んでいないから作品の良さが分かる筈がない。

園芸でも植物が立派に花を付けた良さが分かるのは病害虫、猛暑等の栽培の苦心があつてこそ理解されるのである。「花と遊ぶ」と言う事は花に遊んで貰う事でもなければ花を弄ぶ事でもない。開花中の花だけを楽しむ人は花に遊んで貰っている人

である。花を弄ぶ人は自我流に植物をいじくり回し枯らすのが落ちである。「花と遊ぶ」事は植物と人間とが対等の関係にある事を意味する。人はその植物が要求している自然の節理を与えその結果、植物は人々に新鮮な空気、食糧を提供し花を咲せてくれるし心の安らぎを提供する。

人生六十五歳ともなれば老人クラブからお誘いがかかる。そこでその中に加わりボランティア活動等に専心するのも一策かも知れないが人間の一生には余りにも為すべき事が多くあり、一生涯は余りにも短い。ドイツの詩人ゲーテも「人生は短かく芸術（人間の為すべき事）はあまりにも長し」と言っている。

余裕を持って余生を送る必要があるが情力のみで余生を運転してはならない。活力のない人生には若さもなければ希望もない。年はとつても若々しい人は現役で若い人々からお声がかかっても〇〇クラブからお声がかからない。ある意味でこの様な人間になりたいものである。

卒業後のグループ活動

十四期生生活学科 青山しづ子

卒業証書をいたゞいて早や六ヶ月たちました。卒業時私たち十八名は毎月一回顔を合わせようと約束し、幸にも大津中央公民館のお隣りの方のお世話を頂き毎月第四木曜日の午後から和室をおかりすることができ皆さんとお会いするのをたのしみにしております。高島・志賀・草津と遠くからもこられ、心のこもった手づくりの料理をいただいたり、昨年はサシコをしたり梅本先生の御指導で犬のはり絵をしたり、一月にはみんなで年間計画をたてました。

春と秋には、一日研修旅行と一泊研修旅行を予定し、その他の月は、すでに老人クラブ等で指導者として活躍しておられる方に指導してもらって色々な小物作りをしています。まだ老人クラブに入っていない者は将来地域の皆さんの中心となって活躍できるようにとがんばっています。

「老犬生活を竹の一節と考え、まだまだ伸び行く若竹の如く一日一日を大切に意義あるものとして生きがいを感じて生活できるように頑張りたいと思います。」

皆さんお元気で三時間余りの間、なつかしい思い出や過去の人生経験、これからの生き方等口も手もフル回転でたのしい一時をすごしております。

「陶寿会」発足について

十四期生陶芸学科 下村 俊夫

在学中から新しい施設を有効に使って下さいとの厚意もあり老大での貴重な学びの体験を卒業後は地域社会に還元する事が我々の努めと自覚しその為自己研鑽を目的として十四期二年生の助手としてお世話になった先輩の高野喜大、三木丹両氏を筆頭に、一部地域の方の参加と十四期生との総勢二十一名のグループが、新たな門出をする事に決まりました。再会を心待ちにしていた矢先突然中止の連絡を受け詳しい事情不明のまゝ、只茫然とした日が続きました。

後日判明した事は関係筋より施設の使用料を徴収する様通達があり、その対応で規則の細分化等使用には日数を要するとの事でした。

しかし使用不能ではないと言う事で、十二月十八日全員集合し会則やグループ名を「陶寿会」と決め、再申請の結果、一月十七日十八日を初回として使用許可を得て、待望の発足をする事が出来て大変感謝して居ります。

施設使用料は次の通りです。

陶芸室 午前九時から正后まで一四〇〇円

午後一時から五時まで二二〇〇円

午後六時から九時まで一四〇〇円

焼成室 午前九時から正后まで 七〇〇円

午後一時から五時まで 九〇〇円

午後六時から九時まで 七〇〇円

その他粘土、釉薬代については、在校生と同条件で使用させて頂いて居ります。

現在は窯が新しいものですから癖に馴れる迄大変で相当の努力と研究が必要ですが知恵を持ち寄って同一目標を持つ者同志互に切磋琢磨し地域の指導者を目指しみんな元気に頑張っています。

尚事務当局には在校生時代から引続き過分のご配慮を戴いている事に深く感謝して居ります。

以上発足過程を述べました。

生涯の学友をめざして

十四期生園芸学科 西川 秀雄

「老いとは失う時代」サラリーマン時代の友人は停年で終り

である・老人殺すには刃物はいらぬ孤独にさせればよい・これからの老人は地域に役立つことをせよ、さもないと町民は誰も認めてくれない手助けもしてくれない、老人クラブは死滅するだけであるとまで言われています。

このことは私も昨年五月からシルバー人になりつくづく実感させられているところです。よってせめても今回の老犬園芸学科で共通の話題と同じ趣味をもつ最後の学友を与えられ生涯親愛なる仲間として関係を維持したいと思うのは私達だけでしょうか。

老犬二年間の教育課程の終る頃同窓生に将来に向け「共通の話題と目的を仲間と共に」を目標にしたグループ化を呼びかけたところ八八パーセントの賛同を得ることが出来ました、そこで二つの綱領を作成して実行に移しました。

まづ第一に、生き甲斐を創出し得る能力を開発するため更なる自己研鑽と技能習得のため二年間は大学学習内容を延長とした自主学習会を年七、八回実施することとなりました、以降は廻り持ちの円卓研修会を自主学習会程度実施することとしました、その当番担当者は自分の得意な園芸品種で研修講座をして頂くこととなります。

△第二は、電話情報網の充実です。

電話を利用した情報網は同窓生の方面別及び地域を考慮し、氏名等入りのループ系統構成図に綱領を併記して配付しています。

これに基づき研修会等を補正する意味で少なくとも月一回定期的にグループの安否を問うことと、孤独感を払拭する意味を兼ねた情報の伝達を実施しています。

なお、方面別情報網のグループから新らたなる親睦の和が生れ湖松会の名称のもとに樹木の自然観察会と盆栽姿美の研修会を開催するグループも生れ共通の話題に花を咲かせています。

最後に、個々に事あるときは、近親者からグループの誰かに、その内容がグループの全員に周知されるシステムを家族の人の理解と協力を得て同窓生が複数になるまで続けられるよう智慧を出していきたいと思っています。

会員だより

湖南支部

栄光への闘い

十三期生陶芸学科 瀬川 辰次

今年の冬季オリンピックのスキー複合競技団体で、アンカー萩原選手が日の丸を振りかざしながら金メダルのゴールに突入した感激は今も忘れられない。このチーム中の阿部選手が、先のオリンピックで補欠に廻った悔しさを跳ね返す大健闘や、河野選手がいつも後塵を拝していた萩野選手に勝ちたい一念を売らせた闘志等が金メダルの栄光を招いたものと思う。

私にはもうそのような闘志を燃やす目標もないが、ごく最近亡くなられた山田恵諦老師のおことば「明るく 楽しく 逞しく」の心を、せめて日々の暮らしの中に活かしたく思っている。

終戦五十年

十三期生文芸学科 堀池 栄一

ジグザグの航跡白く船團は月のバシー西南にゆく

ギブミタバコギブミタバコと土民等が近より来り我手はなさじ

我が糞の真青の日続きゆく竹のみ食べて命ながらう

犬肉をひと片うかべー飯盒に密林をまれ射す月のかげ煮の火の

ダバオの山に終戦のピラ降る八月二十三日敵謀略と上官信ぜず

捕虜となり護送の我等に石投げる土民等叫ぶ「ハボンバカタレ」

アパカの鳥死せしあまたの戦友おき明日帰る身のはばかり多し

捕虜となりし我を調べる二世兵士の開口一番ニホンエンペラルを云ふ

マラリアに狂ひし戦友をミンダナの密林に捨てて還り来りぬ

一五一中隊三十三番と乗船の吾が名呼ばれて涙あふれつ

若き師

十一期生陶芸学科 池田 正重

影を残す

十四期生文学学科 山本 隆三

老大を卒業して半年近く卒后しばらくばかりと、心に穴があいた様な気持ちでしたが今後は、自分が生きていた事を子や孫に又その子に何か残さんと思ひ立ち、短歌と書を残そうと。

同期生十八名で結成した勉強会に入会し、山村先生に短歌の御指導を受けており将来は一冊の歌集に纏めたいと頑張っています。書は時おり知人の先生に師事して励んでいます。

その外老人クラブの行事に積極的に参加し、友達との交流を深め、更に岩間寺主催の西国三十三ヶ所巡拝団に参加しており、これ又多くの寺は不思議に山上にあり歩く事により、仏徳と健康を兼ねるとともに、歌材に事欠かず大変有意義な事と思っています。このように心に張りを持って元気に過しています。

これも老大でいろいろ学んだ御陰と感謝しています。
会員の皆様の御多幸と御健康を御祈り致します。

私が老大で陶芸と出合ってからはや六年近く、これなくしてはの毎日となりました。

陶芸は一土・二窯・三彩ともいわれているようですが。

土は信楽土・窯はわが家の裏庭の灯油窯・彩は。今陶悠会で美大出の先生にこゝ一年余り釉薬の作り方を教わっています。釉薬の粉末の調合を少しづつ違えて作りますと焼上りに微妙な変化が出てどんな彩を見せてくれるのか、祈りたい窯出しの一喜一憂です。この緊張感を共に味わって下さる師は三十代で口髭を貯えた、ファッションモデルの様なスマートさ、日本画専攻を陶芸に魅せられ、信楽で学ぶ事十数年とか、この若き師のエネルギーと感性の豊かさを少しでも吸収して自分の好きな釉薬との出合を夢見ています。

陶芸の領域の広さ・深さ・難かしさに直面して一進一退、燃えないゴミを作り続けています。

書は私の生涯

十期生文学芸学科 小西 貞雄

今日書に親しむ心を持ったのは老大在学中三原先生の出合からでした。三原先生の書に対するすばらしい講義を受け文字の歴史等を伺い書の魅力に取りつかれました。書道を勉強しようと思いに決したのはその時からでした。地域の生涯学習の一環として書道教室に入門し今日ではよき師を得よき友にめぐまれ活力ある日々を送れるのも書の出合からでした。

私も今年古稀を迎え年と共に自分の時間が少なくなってくる。地域活動がめじろおしにやってくる。創作に発表会に春ともなれば、多忙な毎日が続くことに楽しい悲鳴で、心から今の自分を幸せに思い日々感謝でいっぱいです。

久し振りの大雪で外出も出来ず、書に親しむ時間あまりなかったので机に向いました。

硯に一滴の水玉が、光る静寂なひとときにつつまれる。全く無心である。墨のするかすかな音が一層楽しい緊張をかきたてるしみじみと幸せをかみしめながら墨筆を走らせる。

出会い

十一期生園芸学科 團野 清一

私と園芸との出会いは今から五年前老大に入学した時からです。会社人間の見本で趣味も特技も身につけなまま定年退職を迎え、さてこれからの余生をどのように過すべきかと思いはじめた頃、老大の入学募集を知り、庭木の刈込みくらいができればと軽い気持ちで飛びついた園芸科でしたが、始めるとなかなか奥深く、今だに老大OBで二年間も学び、卒業したと大きな顔はできません。

園芸はまだまだ未熟で、勉強中ですが、老大を通じて知りあった多くの学友諸氏のご指導で自治会活動をはじめとし、各種文化講座や、旅行と、グループの輪に入ることができ、折にふれこれが、本来の生涯学習ではないかと思っております。

春先に、夏椿の種子を蒔きました。初夏の頃何本の新芽に出合えるか、又今年はどうなグループの輪に入ることができるか、夢見るのもたのしいものです。

老もたのしい

十一期生スポレク科 辻川忠治郎

冬の四時半はまだ暗い。でも私は床からさっと起きる。少々寒いけれど習慣だから苦にならない。へちま摩擦、ストレッチャ、ラジオ体操、五時半には外へ出る。スタコラと小走り、今様に云へばジョギング五軒、朝のおきまりがもう二、三十年は続いただろうか。若い時は弱かったし病気もしょっちゅう、走りかけたのがよかったのか初老から熟年にかけては恙なく、それでいて六十後半に生死をさ迷う破傷風、七十才過ぎて左脚静脈切除の大患二度共もうアカンかと観念したけれど、なにか見えない諸々の力に助けられたか、スタコラトレの賜か、今明治生まれの八十一才アマアアの健在です。

この年、仕事はこれと云って出来そうにはないけれど、何やかやと云い乍ら兎にも角にも明、大、昭を乗り超えて今平成の御代に生かさしていただける喜び有難いの一語です。

「明治は遥けて大正も遠くなりけり」つい出てくるこの感慨、これからもまだまだと。

今月は老大OBスポレク十一会、隔月例会の世話係当番、さて何をしたらやと、希望ヶ丘グラウンドゴルフを頭に画いて友と

の出会いを案内してみます。

「私の生甲斐」

十二期生陶芸学科 田村 進

毎月第一水・木曜日水口の碧水荘で実施される陶芸教室に参加している。生涯学習の必要性が大きく取り上げられている今日、老大で学んだ二年間の陶芸の基礎学習は、私にとって生涯の生甲斐となっている。

私の残された人生は後幾らかは神、仏のみ知ることだろうけれど、今からはとても県展にも入選する可能性が有るはずもない拙い技術であるが、作品の一点一点に「喜」憂し次の窯出しに夢をかける。この瞬間は自分の生命を超越しているような気がする。

「人間は摂生すれば百二十歳まで生きられる強い心臓を持っている。」これは在学二年生の時、比叡山天台宗座主山田恵諦師のお諭しであった。時に師は九十六歳、さらに自分は百十歳まで生きる生命を受けているとお話があり、私も事実そうであろうと信じていたけれど、この二月二十二日惜しくも九十八歳でこ

逝去された。凡夫である私達にとっては師のような達観した一生は望むすべもないことであろうが、切角老大で学習した成果を自分一人だけのものとせず、一人でも多くの人々がそれぞれの生甲斐として、残された人生を少しでも楽しく、生きる喜びを持てるよう協力できれば幸いであるし、私自身にとっても生涯の生甲斐として更に、技術の向上に努めたいと考えている。

一病息災を目指して

八期生陶芸学科 安部 重雄

平成三年三月肝臓障害により、京大病院にて手術、その時の輸血が体質に合わず術後肝炎を起し再度入院。一時は食事も受けず、一週間は点滴で命を保ち、その後水分の多い果物をとったことが食欲増進の切っ掛けとなり、二ヶ年程の長い日時を要しましたがどうか通常の食事を摂れるようになりました。しかし未だに生活環境によって体調変動がある為専心克服に闘い続けている現況です。残り少ない老後とは申せ、せめてもの一病息災となり得ることを念じ次の如き体調管理の日々を過しています。

一、毎朝六時に起床疲れない程度の散歩を一時間同じコースを力強く歩く、清らかな空気を深呼吸しながら野山を眺めつゝ、歩き食欲の増進を図ると共に内臓機能の活性化気力の充実に努める。

二、医師の指示に従い毎食後三十分以上横になる。

三、生活諸行動は総て体調に合セムリの無い範囲で行う。

四、体力づくりを主とした気儘な野菜づくりを致し、成育を見る楽しみ、収穫時の喜び、新鮮な而も生の野菜を食糲に添える

若さが蘇る気分に浸り心理的健康回復の方策とする。

等々地域的に恵まれた環境にあるだけにその恩恵をフルに生かし継続実行することが病後の生きがいと一日一日を過していくことを念じています。

偶 感

五期生文芸学科 川嶋 勇

県の老大を出していただいでから早や七年余り、今だに生涯学習の現役である。……が人間八十にもなると、先が短かくなる故か、気が急ぐこと甚だしい。

あれも、これもしなければならぬことが、いくらでも出て来る反面、度忘れも進んできてついイライラしたり、気が短かくなったり、腹の立つことが多くなる。

目下の処、私の主な仕事は町老ク連のコーディネーターと事務処理、外にシルバー人材センターの仕事と自治区の役職、趣味の会などで、齡なんかとっている暇もない程忙しいが、お蔭で体調の方はリズムに乗って順調である。

最近、腹の立つことのひとつに米の問題がある。店を閉めた米屋の話、スーパーでの米買い行列、店頭から消えた米、米への苦情激増など、嫌でも耳へ入ってくる。

瑞穂の国の減反・休耕と冷害がもたらした農政のひずみ。怒っている大地の嘆きが聞えるようである。

世界中に飢えた人々が何十万も居るというのに、純米純米と目の色を変える人達、外米は嫌だと買溜めに狂奔する人達、それに便乗してひと儲け企む人達、情けない話である。

飽食の国といわれる日本にはまだまだそばもうどんも、パンもラーメンも、餅も粉も有るじゃないか。外米だって炊き方の工夫次第で結構いけるし腹もふくれる。現に私なんか外米で七年間命をつないできて今もこの通り元気で生きている。有難いことである。この世の中、欲を言えば限りがない。

今年には国際家族年。視野も心も大きく開いて「余りコセコセしなさんな」と、啖呵のひとつも切りたくなる……。これも老化の前駆症状かな？

私の健康法

六期生生活学科 富田もとよ

入浴の際に手足をもみほぐす動脈硬化症予防の一つ。動脈硬化症は早いと四十を過ぎるころからポツポツはじまる若いからといって油断は禁物である。特にその系統を引く人は注意を用する。そこで私はこの病気の予防法として入浴の際手足をもみほぐすことにしている。手足のほかに頭までいねいにもみほぐしている。肩がこる→首筋がいたい→ケン骨(肩コウ骨)のところがなんとなくだるいなどという人があるが、これらはいっ血または筋肉の異状緊縮が原因していることが多く、なおざりにしておくとおくと病気になる、脊柱の両側を、ビューティーペアでこれを数回くり返すと、からだがフワリと浮いたような軽くなったように感ずる。魚類はこれも老人の立場から青い魚はさけて白味の魚を例えば、カレイ類である。次に私はミカンハッ

サク等カンキツ類をなお、これらをどっさり食べると緑のたべものが、冬枯れの時でもさわりがいいようです。またこれは動脈硬化症の予防にもきわめて有効のようである。国民健康保険の受診証はほとんど年々新しいままなので、何年この方おかげをもって心も豊かに日々を若アユのように、ピチピチと暮していきたい。

目やはり努力は大切だと思います。

◎ビューティーペア効能・効果
血行促進・筋肉のコリをほぐす。

「グラウンドゴルフ」

九期生陶芸学科 中村 勝一

加齢をとって肌に皺を増しても脳には皺を寄せるな！とも申しますが、加齢と共に人間の器官もまんべんなく同様に老化は進みますが、日常生活を続ける内に適当な軽いスポーツを楽しむことで血管の循環による筋力の刺激は脳の前頭葉にあるソフトウエアに伝えられ、思考・計画・判断・そしてやる気等々言語能力のある人間ならではの行動を演出するものだと思います。

ナイスショットによる程よい打力から伝わる刺激、ある程度のスピードにより加速された球が、自由に地球？の凹凸を飛び踏ねながら、目標のホールポストに偶然ホールインワン（正式にはトマリ）した瞬間の快感さは、広くもないグラウンドの空気を独占した爽快さを感じるようです。パーソナルプレイが自由に楽しめる球ころがしゴルフは、運動・練習・審判の全てが自律行動により規制されている大きな特長を持つスポーツです。場所も普通程度のグラウンドで、小さな丘・小さい穴のバンカーを適当に小道具で障害物として置いても変化に富み面白く参加人数にもよりグループゲームにもなります。お好みのステックと共色のボール各一組を準備すればよく個人の経済的負担は軽く、参加料も高令者程割安となっています。レイカディア大学草津校にも、スポ・レク科も設置されたそうぜひご参加下さい。

わが町 ― 赤坂 ―

十二期生園芸学科 川副順一郎

人生の三分の一をこの赤坂自治会にお世話になってきた。今

この二十年をふり返ると、大学や高校生であった子ども達も、今ではパパやママに。そして半世紀近く働いてきた私もサラリーマン生活を卒業、いつの間にか孫五人のおぢいさん。たまにはヤンチャ盛りの孫たちからも解放され木立の間を自分達だけで散歩できるこの閉静な赤坂、気さくで飾らない近所づき合の氏子祭りにも、守山から遊びに来た孫達。おみこし出発前の小公園にいと、子ども会のお母さんから優しく声をかけられワザワザ、ハッピーや鉢巻を貸して下さった。五月晴れの空、子どもなりに鉢巻をしめこみ、みこしを引く楽しい一日を過ごした。そしていつの日か、わが家のポストにみこしとたわむれる孫の写真をソツと入れておいて下さった。

さて、去る日、東京デイズニerlandに出かけたときのこと。帰路新宿の勧業街を歩いているとき、四才になったばかりの動きの激しい孫の手が年のころ三十代のOLに当たったようだ。痛いわよ気をつけなさい云々と初老の私をにらみつける。ビックリしたのか相手の顔を喰い入るようにつめる孫の眼。一時もジツとしていない男の子のこと、そこまで腹を立てなくても思いつつ孫の手を引きながら味気ない大都會の生活、なんとなく息苦しく孤独感にさいなまされた東京のひとときであ

った。

快適で親切、助け合いと親近感のある赤坂の生活に最高の幸福を実感したのです。

今、老境の一步手前に立っている私ですが気力・体力ではまだまだと自分をごまかしながらこれからも自治会とのお付き合いは勿論のこと、老人クラブの自主活動、老大での趣味グループへの参加など、お互いの連帯を深めながら、生きがいのある日々を送ってゆこうと思っています。

思いがけない出合い

十二期生生活科学 澤井 民枝

老大に入学させて頂いた時には、これから二年間続けられるのだろうか、心配したこともありましたが、卒業してからの二年半も早く過ぎ、たのしかった日々がいい思い出です。友達とも別れ別れになり、何かさみしさの様なものを感じ、又新しく何かしてみたいと思い、いろいろ考えましたが、さてどれかと言うのが中々決められずに迷っていました。さきどきその頃近くにプールが開設する広告の老年の水泳教室と言うの

に目がとまりました。探していたものが見つかった様な気がしたのです。湖のほとりで育ったけれど泳ぎは出来ないが、今からでも練習すれば少しは泳げる様になれるかも知れない、そんな気持ちで決めました。

さて、行く日になりますと、改めて此の年でこの体型でと迷いましたが行ってみますと心配無用、似た者同志でも言うのでしょうか、自然にプールサイドで話の花が咲き本当にたのしかったです。孫とも言える様な若いコーチのかたがたに導びかれて二年、もがいて、しずんで、水ばかりのんでいたのに、今泳げる様になったのです。この楽しい雰囲気の中で健やかに心身を保つためにも、ゆるやかに続けて行こうと思っています。新しい出会いもたくさんあり、それぞれを大切に充実した日々を送りたいと願っています。

心がつくる豊かな人生

十四期生園芸学科 谷 栄

科学技術の高度化、情報化、国際化、高齢化、と将来に向けての変化はますます激しくなっています。時代は今、生涯学

習を求めています。その学習課題はたくさんありますが一人ひとりの人生をつくり、家庭・地域社会のあり方を決めていくのは、私たちの心だと思えます。私の日課は朝六時に目覚め、足腰・腕、の運動をします。十七年続けて来ました。そして一日の行動が始まります。大自然の恵みを受け御先祖様のおかげで広い土地を利用し、あらゆる野菜作りに挑戦しています。そして御近所へあげたり、施設へも送っています。又藤・石楠花・牡丹、等々の花も作り、又歌や句、にもいそしみ、地域老人会に「みやび会」を結成し、皆の心を集めて楽しんでいきます。ゲートボールにもはげみ、身心共に動、のたえ間なしの日課です。世界平和実現のため取り組んで来られた、天台宗の山田恵諦座主が九十八歳で死去されました。十四期生一同が講話を受けたいお姿が目の前に浮びます。残念な事です。座主のお言葉、

「今の世は古希は百寿になりにけり、若さ誇りて仕事にはげめ
感謝の心を忘れず、一日一日を楽しく過したいと思えます。

人の善意

十二期生文芸学科 伊藤 重一

人は皆各々が自分の信条のもとに互の人格を尊重し、互譲の精神をもって住みよい社会をつくるよう普段から努力を重ねているが、ともすればこと志に反して争事を起すことが妻々あるもとをたゞせば些細なこと、お互が一言控えれば、又相手の言葉を善意に解釈すれば全てが丸く納り、日常生活が楽しく過すことが出来て好ましい人間関係が保てる。サラリーマン時代のこと、仕事上での議論が次第にエスカレートして終には相手の言葉を冷静に判断出来ない心境になり、悪意に満ちた言葉のやり取りになってしまった。聞くに堪えなくなった先輩の善意の忠告も、興奮している狭量の私には判断する能力もなく、つい発した一言が先輩を傷つける結果となりこれが原因で人生を大きく迂回した苦い経験があり、あたら善意を無にしたことを今尚申訳なく慚愧の思いが頭を去らない。

この事は三十年程前の体験であるが、同じような事は日常茶飯事のように起ることである。

何事も冷静に善意に受止めれば醜い争い事も起らず住みよい環境が生れるものである。

年老いた今、新しい世代の人達に愚な先人の轍を踏むことのないよう、嫌われても疎まれても、躊躇うことなく話しかけて行く。

それが吾等世代の者の務と信じて。

グループ活動

「折り紙」でボランティア活動

十三期生文芸学科 田中 正雄

昨年、志賀町社会福祉協議会から、自治会などの小規模地域での福祉ふれあい活動に対し、社協が経費の一部を助成して、活動の側面的な支援推進を図る事業計画が発表された。

これに協賛して当水明二丁目自治会でも、会員四百十戸を対象に、何かユニークなふれあいの催しを、実施しようではないかという意識が盛り上がり、自治会長からの要望をうけている。思案の末、折り紙を利用してお正月用品をつくる講習会を開催する企画を提案し、その講師を兼ねて、九月から十一月にかけて、折り紙講習のボランティア活動をくりひろげた。

華麗な友禅模様の和紙を使い、男・女のわらべ人形や鶴・亀・羽子板・羽根・熨斗など、お正月向きのおめでたい折り紙作品をつくり、これを赤い縁どりのある習字用色紙や無地のポチ袋に貼り付けて、お雑煮用祝箸の箸紙袋と箸置或はお年玉袋をつくろう。更に希望者には、折り紙でつくった来年のえと「戌」

に松竹梅と絵馬を組み合わせ、これを金箔の美しい扇面色紙に貼った新春用お祝い「えと色紙」の制作に、挑戦してもらおう、という催しであった。

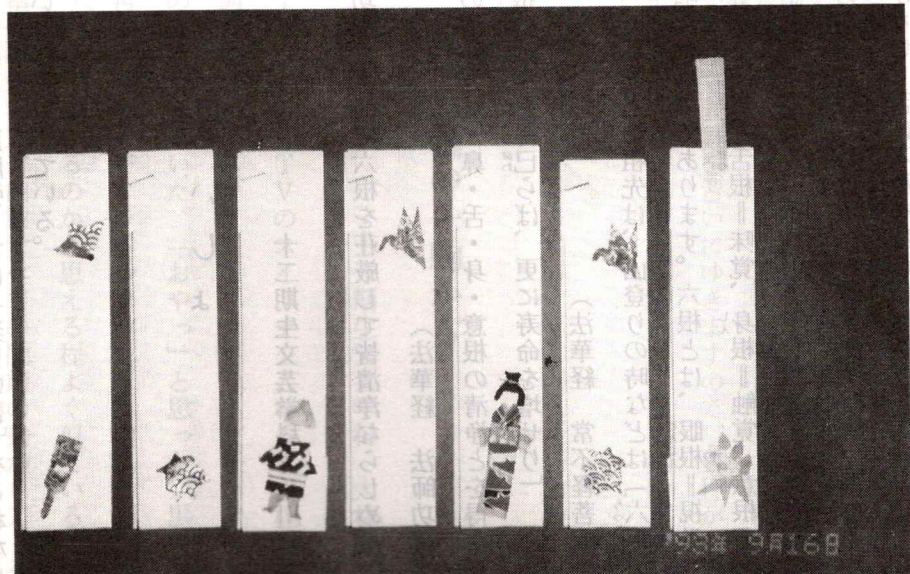
当地の自治会、老人会、子供会などでは、夫れ夫れの事業計画にもとづいた催しが行われているが、折り紙講習は、未だこの団体も取り組んだことのない初めての企画であり、また間近に迫ったお正月用の品物を、手作りで準備するという時機を得た、珍しい趣向のイベントということもあって、参加者は予想を大きく越え、二百人近くになった。

集会所のスペースから、一回の講習で二十五人までが限度、従って講習会の開催も延べ八回に及び、講習用の必要教材に対する部品準備も、延べ四千五百点にのぼり、その教材の買い付け、テキストの作成、部品の裁断と個人別仕分けなどの準備作業に、可成りの時間と多くの労力を費やした。

小学生から七十歳以上のお年寄りまで、平日や土曜日、午前午後など自分の都合に合わせて参加、老若男女が、ワイワイ、ガヤガヤ、楽しく和やかな雰囲気の中での講習に終始した。

九月の企画立案に始まり、十二月四日の、参加者や趣味愛好者による折り紙作品の展示・コンクールの開催まで、約四カ月に及ぶ長い活動展開であった。初めて取り組む催しのこととて、

準備不行き届きや暗中模索、試行錯誤の繰り返しであったが、幸いグループや年齢の枠を越え、多くの参加者を迎え、折り紙に対する関心が高まり、楽しかった、苦心したが自分の作品が上手く出来た、趣味活動として今後も続けたい……など喜びや感謝の言葉を頂き、とりわけこの催しを通じて新しい交流の輪が広がり、ふれあい事業の目的達成が出来て、四カ月間に亘る長い苦労と疲れも拭い去られ、満足感を味わった次第である。



会員だより

甲賀支部

私と書

十一期生文芸学科 藤田 俊子

字のもっている意義や形について、ある程度理解していると思っていたが、老大で三原先生から「文字原始」について教わり、古代人の神への畏れ崇めから生まれた文字が、今も生き続けていることを知り、改めて文字のもつ意義の奥深いことを、実技を通して得たことは、非常に嬉しかった。「文字には心がある」との恩師の言葉も思い出すことができた。

卒業後書に造詣の深い方が勧めてくださって、研究会に入り若い先生の熱心な指導を受けて数年になる。上達には程遠いが、僅かな時間でも筆を持つと落着いた気持ちに浸ることができるようになり、又友達と書論の講座や書展の鑑賞に出かけて、心豊かに過ごせた日々感謝している。

一昨年から仲間が集まって、我流の文字を書き、教え合い、

批評し合っている。肩肘張らずに「楽しい書」をこれからも共に続けていこうと思っている。

どっこいしょ

十二期生文芸学科 北川徳太郎

「この功德をもって六根を莊嚴して皆清浄ならしめん」

(法華經 法師功德品)

「眼根の清浄と耳・鼻・舌・身・意根の清浄とを得たり。こ

の六根の清浄を得已らば、更に寿命を増せり」

(法華經 常不輕菩薩品)

信心深かった私どもの祖先は、山登りの時などは「六根清浄」

を口々に唱えたものであります。六根とは、眼根げんこん、視覚、耳根に

、聴覚、鼻根び、嗅覚、舌根ぜつこん、味覚、身根しんこん、触覚、意根い、心覚、

の六つの感覚器官である。それが清浄であるというのは、眼は

不浄なものを見ない。耳は不浄の音を聞かない、鼻は不浄の

おいをかがない、舌は不浄を味わわない、身は不浄なものに触

れない、意は不浄を思わない、ということ、身も心も清浄無

垢になることあります。したがって「六根清浄」と唱えるこ

とは身も心も無垢清浄になろうとする祈りの言葉であります。

昔の人は、山登りの時だけでなく、日常の立居振舞にも「六根清浄」と唱えておりました。「六根清浄」では長いので「六根清」と略されましたが、それがいつしか「どっこいしょ」になってしまいました。祈りの言葉がかけ声になるまで、人々は身心の清浄潔斎を念願として生活したのであって、現代の私どもの学ば無くてはならぬ事です。

六根清浄 どっこいしょ

勉学の生涯

十三期生文学学科 大平 哲夫

地区の自治会館を教室にして高齢者に書道を教えています。はじめは覚束ないようでしたが、今では筆の運びも滑らかになり、半紙から条幅作品が書けるようになって、地区自治会主催の「敬老の日」や、町主催の「文化祭」に展示出来るようになりました。

又老大同期卒業生の依頼で、大津まで謡を教えに行っており、小謡から始め、現在は「竹生島」を声高らかに謡っており

ります。人様に教えることは、手本を書いたり、資料を整えたり、歴史を調べたり、自分自身の勉強になり、少しでもお役にたつことを喜んでおります。

その他大阪の俳誌「懸菓」の同人で、甲西俳句会にも出席し水口の碧水荘と町老人福祉センターの陶芸教室で作陶に励み、最近では大津まで表具を習いにゆきますので、日程が詰って、毎日忙しく過ごさせて頂き、結構なことで感謝しております。

冬期五輪の一駒から

十一期生文学学科 大林源太郎

二月二十四日夕方、TVのスイッチを入れると、程度「リレハンメル94」のアイススケート・フィギュア女子シングル・テクニカルの部をやっていた。「おやっ」と思った。黒いコスチュームを付けた、まるでクラシックバレエ「白鳥の湖」の「オデール」がここにいるのかと思える程よく似ているではないか。特に指先の使い方、四肢すべての関節の動かし方、そして何かを訴えたい表情に至るまで……。結局すべての仕草がそっ

くりなのだ。頭に冠がないこと、広い氷床、そして動くスピードの違いはあるが、これはまるでバレエではないか。しかも、伴奏もチャイコフスキーの「白鳥の湖」の曲である。

去る二月七日、守山市民ホールでのレニングラード国立バレエの公演で「白鳥の湖」を見たばかりの時だけに、その面影と現実とがあちこち行き交って、スケートを見ながらバレエの世界にいるという最高に楽しい数分―随分長い時間のようにも思えた―を過すことができた。

そもそもオリンピックは、速さ・高さ・遠さ・力強さ等々を競う最大最高の競技会だが、体操やフィギュアスケート等が参加してからは、美しさそのものもその対象となった。しかし速さ・高さ等々が人間によって完璧に発揮される時、或いはその極限の状態に達した時、それは正に美そのものでもあるといえるのではないだろうか。

「美の祭典」。御記憶の方も多かろうと思うが、第十一回オリンピック大会（ベルリン・一九三六）の後、ナチスドイツが作った映画であっただけに、もう一本の「民族の祭典」と共にナシヨナリズムの強さが気になるが、美という視点からこれを捉えたあたり、哲学の国というのはいい過ぎだろうか。

アナウンサーの紹介によれば、バレエとフィギュアスケート

とを一つに表現しようとしたこの可憐なスケーター（バレリーナーと呼ばたい）は、ウクライナのオクサナ・バイウルという十六才の少女であり、幼少の時バレエを習ったそうである。どうか次の「長野98」には一層の成長をして、氷上での完全なバレエを表現してくれることを熱望したい。その時私は元気な八十才になっている。

―追記―

彼女の成績は、テクニカル第二位、フリー第一位、総合で第一位となった。

ジャーナリズムが、ケリガン・ハーディングと騒ぐ蔭にこんな見事な花が開いていた。

梵 我 一 如

四期生陶芸学科 島田寅治郎

「いつまでも生きてるつもり顔ばかり」宗教新聞に掲載。集会・寄り合に出合う人々の表情、吾も又同じ仲間から見るとお見える。素直に解釈すると、御無理御尤もで生への愛着である。併し真意は極意を知れと云う事でなからうか。 経の

無常 には「諸行無常」と有り、いろは歌の始めである。総ての事は常で無いと示され、次は「是正滅法」と示され、是れ正に自然の法・掟である。「生滅滅已」生きとし生ける物、有為の奥山今日超えて、滅し己らば、あさき夢みし酔もせずといろは歌は結んでいる。「寂滅為楽」生ある総てのものは、静かに、ひっそりと大いなる自然に生れ変り、永遠の世界へと「梵我一如」となるであろう。即ち寂滅して、楽に為るのである。何事も本当の真意を覚る事こそ大切であろう。

四季歌

合掌

俳句所感

五期生文芸学科 山脇 義一

近頃は世間では俳句全盛の時代ともよく言われ、マスコミなどでは十万人ともそれ以上とも言われています。私共も頭の体操と思って同好の人達と一しょに俳句を捻って嬉んでいるのです。が時代の変遷と共に自然界や人間社会の発展は著しく私達のような戦前生れの者も新しい時代に取り残されぬよう、いわゆる各福祉施設や老人大学、公民館などで生涯教育の機会に参加

勉強をさせて貰っているのですが、近頃は俳句で申すなれば、その手引とも言うべき「歳時記」の指針である季題や季語が、現在の自然界や人間社会に既に存在しない過去のものとなってしまっています。特に私達のように農山村に生れ地方に居住、生活している者には一層時代に取り残された淋しい感じがします。然し之れ等は誰のせいでもありません。

残された「季題」の半分を守り、又新しい季題を開拓し、自然を守り、社会に追従し、一步一步俳句と共に歩んで行くことにすることを自分に言い聞かせます。皆さんと共に！。

陶芸の楽しみ

七期生陶芸学科 真鍋 光徳

甲西町陶芸教室は、老人の生き甲斐対策として、作陶を楽しんでおります。

昨年から陶芸家の粟津先生が、御指導下さるようになりました。

先生が時々息子さん(陶芸家)をつれて、教室へ指導に来て下さいます。

先生は家に帰ってから息子さんに、陶芸教室についての感想を聞かれます。

息子さんは「皆さんが本当に楽しんで作陶にいそしんでいるのに感心した」と云われました。

先生は教室の方々は自分で作ったものは金にもならないのに、あんなに楽しんで作っておられる、お前は作ったものが商売になるのだから、お前も楽しく仕事（作陶）が出来れば、こんな仕合せなことはないではないかと、実例によってさとされたそうです。

四季雑句

八期生文芸学科 植西 敏子

初日の出瞬き清し神馬の目

屠蘇の香や幸分け合いて祝い膳

忌を修すお香の紫煙春ざしき

一病に慣れて姜がや春うらら

風夕べ螺旋のゆるきもずり草

武具飾る鍬型凜と横え床

紫蘇をもむ老の手ほんのり恥じらいて

盆の僧端座の白足袋深重ね

手鏡に勞りのせて敬老日

爪弾を風が運び来菊日和

友がらの傘寿の黄泉路秋惜む

日向ぼこ背に母の影己が影

薬湯の身に泌む幸や冬の雨

御正忌の齋のふるまい堂畳

日溜りに幸ありて福寿草

心の中の鬼は外

八期生園芸学科 福島 安男

今年も先月三日節分が終わりました。どこの家でも「福は内鬼は外」と豆まきをします、それは家族、住いの悪病神、貧之神を追い払い福を招き家の繁栄を願う行事だと思えます。私は節分の折ふと思いましたが、家の中の「鬼は外」が出来ただろうか、赤鬼青鬼がまだまだ住んでいる事に気づきました。七十才の生涯を送り、人生経験豊

かと申しますがまだまだ人間としてその域に遠く届きません。

悪の心が生れ鬼が頭を上げてきたら静かに胸に手を当て「鬼は外」と唱えます。むらむらと湧いてくる悪の心が消えて鎮ります。そして自分を信じ、人を愛して余生を生ます。

甲西町陶芸教室の焼物

九期生陶芸学科 小笠原武夫

平成元年に創められた教室は六年目を迎えている。生徒は七十余名の教室で盛況満室である。指導者は私を含めて当老大卒業生の外に伝統陶芸保持者を混じえて信楽焼の赭色を呈した青朽葉色の灰が一部かかった焼物をめざしていたが、其雄渾な作柄をそのままに現在は雅陶としての一連の愛陶家の垂延の的となるものをめざし、教室の人達は更に「デホルメ」（芸術的に変形）えと眼をむけて且ついそしみつゝ作行の確かな物に進みつゝあると云えるでしょう。例年町の文化祭に出品し種々の賞を得ている人が有るのは微笑ましいことです（指導者はボランティア）

庭木の成長と人生

九期生園芸学科 山本 有行

庭木を眺めていると老大の園芸の先生が眼に浮ぶその教に樹にはそれぞれ性格の違いがある言葉に出さないため愛情で接してやるのが成長を促がす条件である土づくり肥やり消毒と三原則が云うはやすし行うは難し今地域の老人会長として人生も同じではないかと思う。

食物・運動・睡眠・精神安定・健康管理の四原則を心がけ春に芽を出し葉茂り夏の暑さを凌ぎ四季を順応しながら行く樹木、若くない私達高令者も自分に与えられた道は人には歩むことは出来ない運命であることを肝に銘じ虫食いにならぬよう日々是是努力している昨今である。

短歌と友になる

十期生文芸学科 福井 政義

さざなみや志賀の都はあれにしを
むかしながらの山ざくらかな

薩摩守平忠度

老人大学で、短歌を学ぶことになり、短歌と無縁の私は戸惑い
ましたが「口語体でも可との事で」気休めになり今から思い
ますと下手な作品をよく出した事と恥しくなります。しかし徐
徐に作ることに馴れ辛さももうすれ、基礎の無い私は、短歌の本
を見て、色々な人の作品を味わい、良いところを頭に保存して
活用の材料しております。少し上手になりましたら、近江を
歌う作品に取り組みたいと思っております。

健康

十一期生文学科 奥野 一枝

二年程前住民検診の結果「貧血」と言う通知を受け保健婦さ
んに相談すると一度医師の診察を受けて下さいと言はれた。自
分では一応常識通りのバランスある食事減塩とかに気を付けて
いるし健康そのものと思ってたのがっかりした。主治医の先
生は自分ではしっかり食べていると思っていても年とれば機能
が疲れていて一〇〇%栄養とならないと言はれ各種の検査も幸
い異常なく一年余り通院した。健康に気をつけて公民館活
動や老クの行事にも進んで参加して老人ぼけもなく楽しい余生
を送りたいものと願っています。

動や老クの行事にも進んで参加して老人ぼけもなく楽しい余生
を送りたいものと願っています。

グループ活動

優と劣と和

十一期生園芸学科 今井 博

平成二年九月二十六日無事卒業した私達学生は当日をもって別々の地区で活躍するのだろうか？と思うと大変寂しい気持ちで私の心に感じた。卒業式終了后お別れパーティ、私は甲賀地域のの人に声をかけ何とか交友を計りたいと思いい年二、三回の懇親会の開催を提案しました。学校の校長先生、行政の三役、会社の役員等の人等優秀な人と私の様な劣等生との交際が始まったのです。初めは水口碧水荘の園芸教室で会って居たが一人減り二人減りで仲々揃はないので何とかしなくてはと思いい人の予定も考えず平成三年十一月二十九、三十日の一泊二日伊勢旅行を計画した所殆ど全員参加しました。こゝで会員を紹介しますが甲賀、蒲生地区が合体し会員計七名で発会したのです。

甲南町 服部 稔 甲西町 柴田 賢造

日野町 服部 栄一 日野町 前川 義一

蒲生町 福永かね子 八日市市 武久 四郎

信楽町 今井 博 計七名

当日前川、福永二名欠席し五名私の車で伊勢へ出発、優等生と劣等生の親睦が始まりました。折角伊勢に来たのに外宮も内宮も車中で参拝、午后四時頃ホテル着早速入浴し雑談、夕食となり六時半より十時過ぎまでホステス二人と共に七十才を越した老人が二十才代の若者の様に、海のご馳走を、酒をと呑めや歌えの大騒動、翌日パールロード經由大王崎灯台見学し又昼食は一流の所で海鮮料理、夕刻貴生川駅前解散、其の時の挨拶はどうか「又次回もよろしく」でした。其の時伊勢で会ったのが同期生で大津の人で増田孝之助さんでしたが翌年死去されたとか、会報で知りました。

翌年は一寸私多忙なため計画出来ず平成五年六月十六日服部稔氏の計画で甲南町で懇親と見学七名全員出席甲南町の施設ふれあいの館、資料館、体育の森、甲賀流忍術屋敷を見学、自家用車二台に分乗最終は塩野温泉で夕刻まで酒宴貴生川駅前解散別れの言葉は「又次回もね」でした。同年十月十三日八日市の武久さんの幹事で八日市で開催され太郎坊宮と瓦屋寺を参拝、八日市市万葉の森の見学と万葉の植物の研修を当市老人会の人々の説明を受ける。植物は十月なので殆ど朽れて居たのもう一度春から夏に行きたいなあと思った。終了後はやはり懇親会で

一寸一杯、夕刻まで、当日福永さんは病気のため欠席、私にあっては甲南町で会ったのが最後でした。其の時私の家内にと作られたペンダントが遺品となり今でも思い出します。

十二月の初旬日野町の服部さんより「福永さんが亡くなられた」との電話を頂き私等の代表としてご焼香に行つて頂きました。

年も明けて平成六年二月十七、十八日の一泊二日伊勢初参りを実施内宮さんに参拝、当日祭事祭とかで池田厚子さん祭主に依り道中社前まで行列に参加し家内安全を祈願する。途中三重海軍特攻隊資料館を見学、団野清一氏と末富寿樹氏と計七名車二台に分乗し楽しい旅行、次回は日野町でシャクナゲを見学したいと思いつゝ日程を作つて居ります。園芸科の優等生の家に行くと盆栽が整理されて居り、劣等生の家には枯れた盆栽が多い私ですが懇親会では皆考える事、想う事は同じだと思ひました。老大OBだからこそ地域の難れた人との交遊が出来のだと思ひます。今後も益々健康に留意して今迄以上の交遊を続けたいと思つて居ります。

先日も大津市田上の大谷貞芳氏宅を訪問した処元気で居られ安心致しました。私達近況報告等で話に花を咲かせました。中でも甲賀郡老大OB会の団結や行事の話を熱心に聞いて居られました。私達も元気でOB会のため協力をし、又私達同期生の

贅沢なる見学と懇親会を長く続けたいと思ひます。

以上卒業から現在までの郡内同期生の優等生、劣等生のお互いに和やかに交遊を続けて居りますと共に今後も続けたいと思ひます。

会員諸氏も老いる事なく元気で各地域でのご活躍をお祈り致します。

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並ぶ。これは複製時の文字化けや極度の減縮によるものであると推定される。）

会 員 赤 だ 及 び よ の 日

近江八幡支部

「お水取」

四期生陶芸学科 岡田英多良

もう何年前になろうか、奈良二月堂の回廊に上がった途端、突然堂内でガダンガダンと下駄で床を踏む大きな音がして、一瞬度胆を抜かれた事を思い出す。

寒さがぶりかえずと奈良のお水取。二月二十五日から始まり前行を終えて、いよいよ三月一日から二週間、十一面観音のご宝前で練行衆と呼ばれるこもりの僧により、寒さにいぞみかゝるけたゝましくも多彩な秘法が創始爾来千二百有余年の今日の日も続く。三月十五日が満願。お水取が終らないと春が来ないといわれるお水取。

昭和五十九年老大卒業早々、断りきれずに預ったのが市老ク連の活動推進員。思考錯誤の連続だったが一番生きがいを感じた五年間であった。請われるままに鉄面皮にも他市町までも出

向いて、講演ならぬ駄弁に廻わったのが六十九ヶ所。今想うと冷汗がでる。

高齢者の意識調査の結果、就労意欲の高いのに驚き、シルバ―人材センターの設立を市に要望。初代理事長を預ったのであるがこれ又暗中模索。雨の日も風の日も得意先の開拓拡充と、就業会員の激励にバイクで走り廻り、やっこのこと補助金対象センターまで漕ぎつけたのであるが、行政と企業的理念の相違で退散。汗の後は気持ちよい。

一口に人生八十年時代と言うが、昭和九・十年ごろのライフスタイルと現在を比較すると、もう一回分の人生を享受出来る時代。市文化財審議会委員など地域社会の雑用に追われる日々であるが、老卒業生の責任として、同窓会憲章の文言に一步でもと、八十一歳の老骨に鞭うつて春を呼ぶお水取の終る日を待ち侘びる今日この頃である。

赤 だ す き

(続)

五期生文芸学科 小林 章郎
起床ラッパが鳴ると自分の床を上げすぐ隣の班長室に飛んで

いって機敏に床を上げ宮庭に走り出しながら「釦」をはめる。

先に着いたものから整列である。毎晩軍人勅諭で絞られた新兵達には毎朝、朝礼点呼に週番司令が台上に新兵を一人宛登らせ、東方に向かって遥拝が号令されその日の日課が始まるのであった。毎朝点呼のあと各班廻り持ちで勅諭の一節宛出来る者が指名されて台上に登った。本部は部隊内では最右翼である。

毎晩の点呼で責められても満足に勅諭を暗唱出来る者がいないなか、いつも決まって先頭を切つて拳手をする兵がいた。宮崎酒井。小林。つづいて有田だった。そしてこの四名は注目された。宮崎と小林は年齢の差は余り無かったが酒井は若かった。

誰も要領の良い男であった。朝礼が終わると「めし上げの当番は」炊事に走り、その他は全部班内の掃除や整頓に他の者は、各々持ち場の事務室に走った。朝飯の配膳が終わると一斉に箸をもった。時には下士官が出張中を、今朝帰営するのを忘れて配膳が手落ちになった為に一蓮托生、朝からピンタが飛んだこともあった。

真夏の太陽は高く青くトタン作りの屋根を焼きつける程に照りつけてうだる暑さである。ズボンの右前に階級章をつけていて上体は裸であるのに熱帯地方のような暑さに参ってしまうが、一たび日陰や葉陰に入ると乾燥した空気は心地良く肌を撫で、

かいた汗もサラツとしていた。連日の猛教練が続いた後、週に三回は教練で後は經理班の室内で勤務する事が可能とされ出した。

先づ中村主計中尉のもとに竹下見習士官が補佐役に芳賀軍曹、岡本伍長。出水兵長。中須兵長。山本兵長。中松兵長。田中軍属。村田軍属。白井軍属（女性）。難波兵長等それに織田、上西、前田の同年兵、若くして病没した團兵長の陣容で部隊の台所を預かっていた。一年してから宮森主計大尉が着任した。非常に豪快なたちで細かい注意はほとんどしない太っ腹なタイプの軍人だった。自分は同年兵の中で一番早く可愛がってもらった半年もして進級試験が行なわれたとき、十四番目に一等兵に進級した。そして一年目に上等兵になった時には六番目になっていた。いづれも一選抜である。精勤章も二個もつけていた。班内でも群を抜いた成績は古兵の注目を集めたが又何かにつけてピンタをもらう数も同年兵中一番多かった自分が。一年もして上等兵になってみるとピンタが大分減つて来たようである。日曜日には交替で外出が許可されたが、春の街で先づ軍人俱樂部の映画を見て寿司か支那料理を腹いっぱい食べて帰るのが楽しみであった。

(続)

童子（わらし）の会のこと

八期生文芸学科 岡田富治郎

悪童どもの会ではありません。痴呆の老人を介護している家族の集りです。痴呆老人は急速に脳細胞が破壊されて、二、三才位の子供にかえることから名付けられました。

有吉佐和子さんの「恍惚の人」という本を読まれた方は沢山あると思いますが、茂造という主人公の老人が、嫁ぎ先から帰って来た実の娘の顔も名前も忘れ、いつも世話してくれている長男の嫁の名をいったり、介護のため夜入って来た息子を泥棒が入ったと大騒ぎしたりします。

私達の会員の話ですが、たまに実の娘が帰って来ますと、「嫁は何にも食わしてくれない」と、悪く言ったり甘えたりする母に、饅頭や菓子を沢山与えます。夜中になって大量の排泄で泣いている嫁がいます。中には息子でも朝早く家を出て、夜遅く帰るものですから、妻の苦勞を知らないというケースがあります。一言でも労いの言葉をかけてやって欲しいものです。「一寸の虫にも五分の魂」と言いましようか、痴呆の老人と言えども、よく見せようとするもので、しかもその時その時での話が出来るものだから、その実態を知ることが、夜昼そばで付

合って見ないと分らないものです。

これからは老人が老人を看る時代、地域が皆なで支え合う時代になって行きます。お互いに健康に注意して世話にならぬよう、世話する人になりたいものです。最後に一言「私は絶対にお前（嫁）の世話になんかならんよ」とは云わないで下さい。多くの老人は、他家に嫁いだ娘じゃなくて、そばにいる嫁の世話になっていきますから。

私も現在世話する側で、方々ご無沙汰勝にてご迷惑をかけています。童子の会や、家族の方に温かいご理解をお願いします。

訪ねてみたい近江歴史回

八期生文芸学科 安倍 勉

毎年三月上旬琵琶湖開きが行なわれ、春の到来と湖上交通安全の祈願が実施されたのである。

数年前の七月であつたらうか、老大同窓会の研修事業として沖の島で民宿し、翌早朝二班に乗船して、竹生島に向い、琵琶湖の守護神である「都久夫須麻神社及び宝巖寺に参拝更に多景島に上陸して“誓の”御誓文碑を見学、古僧の建立に係る「南

無妙法蓮經」の墓碑に参拝、彦根藩の裏鬼門に当たるとか、井伊直弼が登城の際桜田門外に水戸藩主に暗殺されたときその血潮がこの墓碑を赤く染めたとの伝説を聞き島一巡して、沖の白石に向い湖鳥の生息地で現在は無住、島を湖上一巡して長命寺港に帰り解散。

未知の湖上の島々を見聞探訪出来たことは参会者一同未だ強い印象をもっているのである。

県は本年度事業として「新しい淡海文化の創造」の一環として、県下地域の十地区に探望ルートを発表。

本県は豊富な歴史文化資源を見直し、これがもつテーマ性やストーリー性を重視し、近江歴史文化資源の総合的な整備を施し快適な「まちづくり」が出来、地域の活性化が企てられることを目指している。

本県は観光資源が少なく数く人もいるが、京都、奈良に継ぐ文化財の宝庫であり、各々の地域の現状の歴史的考察を行ない、観光資源の開発は、地域の新しい町おこしであり、住民の理解と協力を求めるべきでなからうか。

その意味により是非共地域の密接な探望ルートの散策探望の企画を期待するものである。

「ふるさと馬淵歴史の会」は山添会長を始め山出会民館長を

リーダーとして、今昔の宿場の実態や雪野山古墳の現状を中心に中仙道及び近江万葉の道の一部を解説し勉強中であるが、なかなか余暇利用が出来ずこの会も欠席勝である。

生涯教育の一助たらんと念じている次第である。

できれば私達の生活に最も関係あるルート探望を期待している。

女の一生

八期生文芸学科 牧田 登茂

「お一人暮らしはお淋しいでしょうね」とよく言ってくださるのですが、今の所決して不自由とも困ったとも思わずに、むしろ独身貴族の様な思いで毎日を充実して暮らしています。

自分の年代記を近頃の方々と照らしあわせて、私を含めて女性の一生というものをゆっくりと考えはじめています。

二十歳代は学校とかお稽古事を軸にして遊学いたしました。二十歳代はやはり結婚をするという一大行事を中心に前後の展開を楽しく華やかにして来ました。今の二十代の女性はむしろ就職とか、恋愛とかが主要な事なのかも知れませんが、私の

娘時代は今の様に結婚なんかしないと、子供は産みたくないとか言える事もなく子宝五人も授かりました。

三十歳代は子育ての時代で忙しい毎日をすごしました。子供の入学が始まるとPTA時代となり、今にして想えばなぜそんなに大事だったのかと思う様な行事や運営に走り廻ったものです。生きんが為の雑音騒音に身の細る明け暮れに、子供達も共に苦しみ乍らも進学、卒業をくり返し成長し、漸く家庭を持ち巣立ってくれました。姑、夫が亡くなり私一人が残されました。お誘いをうけて老人大学へ入れて頂きいいお友達に支えられ今は静かに落着いて、趣味に旅行にと生甲斐を見つつけ楽しんでいきます。わが家の一人一人の一生も淡々と或は激しくつつがなく歩いて来ました。私は今はそれぞれの段階をあまり後悔しないでいい様に乗り越えてきた事を秘かに自分で納得して自負しています。おかげさまで。

雪除けに汗にじませて安らげる 生きている身の熱き火照りに
古文書の流れ探りて読みくだす 夜のふけゆくも忘れてたのし
定めなる思いとどかぬ事なれど 今日もすべなきことを思い
われひとり心ゆたかに春むかう ふと亡き妹へ詫びもちながら

ふるさと探訪

十期生生活学科 富田 政尾

近江八幡市支部では毎年一回「ふるさと探訪」を実施しています。昨年十一月二十二日、午前中小雨の中を決行しました。

◎葛川明王院（大津市）

平安初期に比叡山無動寺の相応和尚が修験回峯を行う天台密教の道場として創建されました。古くから行者の回峯が多く、木造の参籠札は鎌倉時代から近世にかけて数百枚が保存され、足利義満、義政の名もあり参加者は感嘆の声をはなしました。本尊は千手観音、採色の不動明王毘沙門天の像が秘物として安置され、溪流に沿った周囲の山々に残る錦の自然に出会って強い感激を覚えました。

◎興聖寺（朽木村）

湖西の名刹で県内最初の禅宗寺院です。道元禪師が北国へ下向の際、朽木の領主佐々木信綱の招きで立寄り、指月谷の景色が京都宇治の興聖寺の景色と似ているところから名前を同じにして建てたお寺です。本尊は平安後期の木造釈迦如来坐像です。小雨の降る中、ご住職の旧秀隣寺庭園の説明を聞き、美しくまばゆい広い本堂で興聖寺料理の昼食をいただき幸せ最高の気

分を味わいました。紅葉した落葉の絨毯を踏みしめながら昔の人の偉大さに感動しました。

◎藤樹神社・記念館

午後は藤樹神社へ参拝し記念館で先生の業績について話を聞き資料館も見学しました。藤樹先生の偉業が新たに心にしみました。藤樹先生の第一弟子と言われました熊澤蕃山と近江八幡市との関係も理解できました。

◎運平筆

最後に運平筆（県無形文化財）を見学しました。NHKのびわこ放送にも出たおられた運平さんの筆造り一筋のご苦労とご努力にすっかり感心したり驚いたりしました。筆の見事さに見入っていました。

充実した気持ちで楽しい一日を終わりました。

女性部の活動

十期生生活学科 富田 政尾

私の支部では、七年前から女性部の組織ができています。女性部長、各学区女性役員一名計十名で支部長と男性役員の方々

と相談しながら女性の集いを計画、実施を続けています。次のような活動内容です。年度の初めに年間の計画を立てています。

- 手芸：部員が互いに講師です。材料費は安く頭と指先の運動。
- 陶芸：陶芸科卒業の男子の方を講師に仰ぎ手助けしていただく事も大きいです。

○ふるさと探訪：男性にも参加していただき楽しく有意義。

私達は支部活動に積極的に参加協力し、女性の集いも継続して「老大に行って良かった」の気持ちを維持したいと思います。

生かされて

十期生文芸学科 安田 可ね

銀一色の眺めの中に斑点がある近寄って見ると白蕪の涛である。柔らかな薄緑色が豪雪を溶かし土が支えるこの息吹思はず口にする涛に転ぶ雪の結晶。新鮮な抜群大自然が醸す味は五臓六腑に染み透る汚れ卑しき煩惱おも豪雪と共に大地に解け込む思に浸る土は自然界の母胎であろうか春を待つ数えきれない昆虫類我が干支の己さん蛙井戸水は寒中も湯煙を上げている用紙に誓約がなければ何処迄続くであろう今政治課題の景気対

策も土地に値打が出なければ磨った待ったは続くであろう足萎の我也冥途へのエスカレーターに乗せられ一握の土に帰依するのを想う。

想　　う　　事

十期生文芸学科　松宮　玉枝

平成五年度から友愛活動の制度が近江八幡市にも出来てその一員として色々なお宅を御尋ねし老て病むと云う事の恐しさ悲しさが痛い程身に応えました。「老いるとは」四十代頃の私は何　かで意識していてもそれは他人事のように思はれ家事に追はれ子育てに振りまわされて近い将来の我身の姿として捉える事が出来ていなかった様に思われます。今子供達も成年に達し身辺から離れ「やれやれ」と息ついた時始めて老が自分にびつたりと寄り添い離れない物になっていました。老は好む好まざるにかゝわらず誰もが迎えないければなりません。残念な事ですが老年期は身体的精神的社会的に色々な物を奪い去り其上死えの不安さえ抱いて生きて行かねばならぬ人間最後の時なのです。昨今は生活環境、食生活の改善、医療の進歩のおかげで長生き

出来る様になった事は嬉しい事です。家族制度の崩壊から来る孤独又老の病も増えて来ました。けれど見廻して見ますと若い乍らも永い間に身につけて来た労働の機能は七十才をはるかに越えても若い人と一緒に畑仕事をし漁をし又マラソンや山を愛し精神的には豊富な人生経験から鋭い批判精神を持ち新鮮な感覚をもって小説や絵画を楽しむ方々も少くありません。勿論社会の第一線に立って御活躍の方々も沢山おられる事は申す迄も有りません。天から与えられた生命、機能を衰えさせぬ様老と仲違する様努力し健康で心豊かに残りの生命を燃えつき度と感えます。私は毎日神仏にお光を上げて祈る時蠟燭の灯が終る前大きく輝きすうっと消えるのに魅了されます。人間の生き様もこう有り度いものと灯をみつめています。最後に一言幸に心身共に恵まれている現在友愛活動にたずさわって見てほんの微力ではあります。が孤独に病に傷ついている方々にお力添の出来る幸を感謝し友愛の和が波紋の様に静かに拡がって行く事を願っています。

「豊臣秀次公」

京都ゆかりの史跡を訪ねて

十一期生園芸学科 佐々木尚一

当支部の年間の行事計画にて、後半に講演と小旅行の研修を実施することになっていたが、諸般の都合にてやっと三月になって、郷土史の勉強を兼ねて表題の現地研修をすることになって、三月九日（水）快晴に恵まれ早春の京都を探訪することにした。

恰かも本年は我が八幡の開町四百十年にあたり、然も市政四十周年でもあり、開祖秀次公の没後四百年忌の記念すべき年でもある。

天正十三年八月（一五八五年）今から四百七年前、秀次公は弱冠十八才にして四三万石の八幡城主となるや、青年大名として青春の情熱を傾倒して造り上げた八幡山下町は、秀吉の権勢と補佐の諸大名の助力によって、在城僅か五年間に潤欄と花が開き、楽市楽座の掟書の定めによって商業が殷振を極めて、町の発展の要因となった。

京極高次以降廢城となるに及んで、織豊時代の動乱期を生き延びた町民は、踏まれても尚執拗に芽を吹く雑草のごとく、一

本の天秤棒を頼りに全国を渉獵して、やがて八幡商人の名を高らしたこの素因は掟書の特権に因るところが大きいと考えられる。

武将としては叔父秀吉軍に従って、東西各地を転戦して武勲を樹て、又文将としては当代一流の文人達と交わって教養を高め、文武両道に秀いで、後に関白に宣下され位人臣を極めた。文祿二年に秀頼生誕するに及んで、秀吉に疎んぜられ、加えて奸臣どもの策謀と讒言によって、文祿四年七月十五日（一五九五）あたら二十八才の生涯を高野山にて非業の最後を遂げたのである。

秀吉の意思によってかなり行動を束縛され、又史実無根の謀反という反逆罪の汚名をきせられ、戦国乱世にひとつの悟りを得て高野山にて従容として切腹して逝った青年大名秀次公こそ若き領主として後世までその治世に領民の敬慕をうけた、我町の大恩人としてその偉業を偲んでこれを顕彰して行く大きな責任があるのではないか。

あたら二十八才を一期に悲運の生涯を閉じた秀次公の安住の地は、この八幡より無いのである。こんな偉大な事跡を遺した「開町の祖秀次公」を四百年忌を契機として、あまねく市民の手で啓発して後世にその徳を伝えるべきであると考えられる。

早速その手初めに先ず市民としての共感を得る為に、老大同窓会の近江八幡支部で「秀次公の史実」を顕彰すべく京都にゆかりの史跡を訪ねることにした。

◎善正寺（日蓮宗） 左京区岡崎

生母ともは秀次公の首級を貰い受けて、嵯峨二尊院の近くに小庵（善正寺）を建て、ともは自ら剃髪して日秀尼と名乗りわが子秀次の菩提を弔った。後に東山山麓のこの地に堂宇を建立して、妙慧山善正寺と号して、格式のある寺院として現在地にある。当寺には秀次公と日秀尼の彩色木像が安置されている。

二十八才を一期として悲運の最後を終えた秀次公一族が、ようやくにして安住を得たごとく、ここ善正寺の高台は寂として静まりかえり、如意ヶ岳を指呼する東山の麓に静かに眠っている。秀次公の外その一族の五輪塔は送り火の大文字は、この場所から至近の間にあり、盂蘭盆の送り火に昇華して、京童の永劫の追憶に止まるであろう。「善正寺殿前殿下左相府高巖道意尊儀」と秀次公の位牌に刻まれている。

最近釈迦堂と庫裡が新装になり、住職の西村師より当寺の由緒についての講話があつて、八幡の村靈御所瑞竜寺とのご縁を一層深めることができた。

◎瑞泉寺（浄土宗） 中京区木屋町三条下る

今から四百年前の文禄四年八月二日の昼過ぎ、京の三条大橋下の西河原で世にも恐ろしい悲劇が演ぜられた。これより先、秀吉の命により丹波亀山城に幽閉されていた秀次公の妻妾子女三十九名は、秀次の首級を拝ませると言う口実で京に連れ戻され、死装束の装ひをこらし牛車に乗せられて街々を引き廻された後に、真夏の熱気さりやらぬ加茂の河原に次々と首を打たれて、その鮮血で色を変じたのであつた。

かくも痛ましい残忍非道な仕打ちを受けた運命の美女達や、可憐な公達の処刑の様子は鬼といえども全く涙なくしてはみる事が出来なかつたであろう。

貞安上人（八幡西光寺開祖）は首打たれ行く一人一人に親しく十念を授けて引導を与えると共に、その地に引導地藏を建立してその霊を弔つたと言ふ。

それより十六年後の慶長十六年、高瀬川を開いた角倉了以は、河原に散乱している塚を一ヶ所に集めて、その菩提を弔うため一字を建立したのがこの瑞泉寺である。

その後幾變遷を経て昭和十七年豊公会の発起により、秀次公の墓を中心に五名の公達姫君、三十四名の測妾子女達並びに殉死した十士の墓塔を建設した。

四百年を経た現在、京都随一と化したこの界隈を散策する何

人が、果たしてこの哀れにも悲惨な史実を追慕するだろうか。現任職中川師（元TV局プロデューサー）より、約一時間に亘ってお寺にまつわる悲惨な物語についてお説教を受けた。

◎嵯峨瑞竜寺（村雲別院）右京区嵯峨二尊院の隣

小倉山山麓、二尊院の隣接地にあり、観光のメッカと言われる嵯峨野の、その夥しい人の往来とは裏腹に、このお寺は取り残されたように閉寂としている。

秀次公の生母ともは三条河原に晒された秀次公の首級を、この地に葬り善正寺を開基した。後に東山の岡崎に移築されて現在に及んでいる。昭和三十七年堀川今出川にあった村雲瑞竜寺が秀次公ゆかりの近江八幡山頂に移築された時に、鬼子母神堂のみを現在地に移し、とも、秀次公の菩提を弔っているのがこのお寺である。

お堂西側に墓所があって、その高台のほとりに小さな秀次公の首塚が建っている。石碑には「秀次様の塔」と刻まれ、世を憚るような小さな墓標が痛ましく感じた。

このお寺の住職の井原尼は病氣加療中で、残念ながら面接が出来なかった。

◎西陣織会館（元村雲御所瑞竜寺跡）上京区今出川通堀川南

関白秀次公が淀君一派の陰謀で高野山にて割腹され、母智の

方はわが子の菩提を弔うために出家され、京都嵯峨野の庵で回向されていた処、時の後陽成天皇のお耳に達し、この西陣村雲の地に、寺領一千石と菊花のご紋、紫衣勅許を賜り、天皇の勅願所として寺名を村雲御所瑞竜寺と呼ばれることになって、後継のご門跡は代々皇族、華族から尼宮が住持される習わしになっていた。

莊嚴を極めたこのお寺も、天明の大火によって焼失の後、再建復古に尽くされた。その後有為転変があって、昭和三十六年、秀次公の居城跡の八幡山に移築されて、深い因縁の結び付きでやっと安住の地に落ち着かれることに成ったわけです。

この広大な跡地に現在西陣織会館として、古都千年の王朝文化の伝統が継承されており、詢爛華麗な絹織物の美の技術の数が育てられています。

この会館の入り口に「村雲御所瑞竜寺跡地」の石碑が建てられています。丁度おりよく「きものショー」が上演されていて、華やかな和装の粋を集めた美女達の演出にうっとり観賞して、年甲斐もなく若やいだ気分になり楽しかった。

以上の箇所を探訪して今回の研修を終えたことになり、本日の参加者四十一名は秀次公一門の生涯について、バスの車中での解説に終始熱心に聴講して頂き、又秀次公ゆかりの寺院を参詣

するなど、これを契機に我が郷土の大恩人を開祖として敬愛し、
顕彰して、その認識を深めるのに大いに効果が有った事と思
います。御苦労様でした。

お陰さま

十一期生生活学科 高原ふみ子

杜甫の詩句に「人生七十古来稀による」とお陰さままで古稀を
迎えやがて一年になろうとする感謝の日々です。先日親戚の法
要に某大学教授が定年退職後は土に親しむ百姓になり三日間風
邪で休養し翌日畠に出られた処人參大根午蒔さまが萎れること
なく生き生きとしており我一人で作っていたと思つたが、自然
の力土壌の力のお陰だと気がついたと。今や米騒動で情報や店
頭が大変です農家には嫁がないとか百姓は一段下に見られてい
ると言つた昔は過ぎお陰さままで農家に生れ心配なく三食をいた
だける現代命の尊さを知りお陰さまの老後を生き生きと暮した
い。

レビューング・ウイール

十一期生陶芸学科 井上 源一

最近やたらと横文字のローマ字やカナ文字の単語が登場する
ようになった。新聞・テレビに度々出てくるがどうも大正生ま
れの我々には苦手である。八中時代で一番嫌いな授業が英語・
英作文・英文法と数学の幾何と代数であったのであるからその
当時から私は苦手であつた。

最初にこの「レビューング・ウイール」の文字を見た時、建設
業者の私は住宅関係の言葉かと思つた、皆さんにも恐らく聞き
慣れない言葉だろうと想像します。私これが「生前の遺言書」
であると知つたのもつい最近のことです。

物心のついた子供の時代から私も自分の体は日本国の為、
天皇陛下の為死を恐れてはならない、桜の花の散るごとく身を
捧げることこそ肝心である、と叩き込まれてきました。

然し敗戦を迎え戦後には人の命は地球より重い、人命尊重と
個人の人權こそあらゆる事に最優先すると叫ばれ、凶悪非道の
罪を侵した犯罪人でさえも死刑は執行しては成らないと言う時
代に大きく変貌しました。

戦後五十年の長い間戦争の経験から、死をいやと言う程脳裏

に焼き付け死の匂を振り払う為に必死となって生きて来ました。敗戦直後は生きる事に無我夢中となり、戦災復興と戦後の貧困から立ち直ろうと全国民が一丸となって努力しました。勤勉な我が国民のこの努力が米ソ対立の隙間にうまく対応し、世界でも目を見張るほどの成果を上げ、急速な工業化に成功を納め・万博・東京オリンピック以来驚異的な変貌をなし遂げてそうして経済成長・貿易黒字はとうとう世界中の大国と経済戦争をするまでに復興を成し遂げました。

高度成長期の頃の私どもは全てがなりふり構わぬ「成長」、「発展」の一途を目指しました。「死」を語り考える事は「敗北」を語る事を意味し死は「忌まわしい」ものの代名詞とされ「死」には見てみぬふりをしてきました。このことは医者や病院でも例外でなかったと思われれます。経済成長と経済の豊かさが全てを支配すると考えて疑いませんでした。

なりふり構わぬ成長が東西の緊張緩和以来、国際的な経済摩擦の新しい軋轢を生み出す事となり、最近では地球環境問題が大きく取り上げられ、人間性を無視した消費文明は行き過ぎではなかるうかと反省する様になりました。経済のバルブ状態の崩壊がこのことを如実に示していると思います。こんな時代に我々は人生のフィナーレの時期を迎える事になりました。

今こそ私どもはこれからの残された時代を如何に生きるべきか、考える時が来たと思います。物から心の時代に我々は精神の豊かさを求め自然の本来の姿に帰るべきではないかと考えます。ま近かにせまってきた「死」についても考え勉強する時と 생각합니다。

人は生れてくる時には自分の意志ではどうする事も出来ませんでした、然し七十年の今せめて最後を迎える時には、自分の意志で最後の幕引をしたいものです。最悪でも「惨めな死に方」だけは御免です。最近の科学の進歩には目を見張るものがあります。大きく人間の生活に寄与した成果に感謝する事も多々あります。医学の進歩も著しく人生五十年の昔が今は人生八十年時代と言はれます。

素晴らしい事ですが最近病人は病院の都合で何時までも生かされ病人の、或は家族の意志に反して、医者の延命措置は医者の天命・使命であるとの隠れ簀に惑わされ、本人のもの言えぬのをよい事にして、見るも無残な延命治療が成されているようです。

医者の独善的な判断と病院経営の都合のよい手段として病人が利用されているのではなかるうかと疑う程です。私は最近時時無駄な延命治療に抗議する家族の声を聞くことが多くなりま

した。しかし何としても自分だけはこの事は承服し難いのです。人は必ず死を迎える事になりますこの時最善の治療と看護を望みます、一日も長く生きる為に努力することは当然です。だが最善をつくしても、その結果が現代医学の知識技術をしても回復の出来ない不治の事態となったとき、そのことが明らかになり延命の治療が続けられ事を拒否したいのです。植物人間になり身体を切りさいなまれ、喉から腹から管を取り付けもがいて外れてはいけないとベッドに縛られて治療を受けると言う惨めな姿を晒したく無い。この事が私に「リビング・ウイル」の必要を教えて呉れました。

この秋の誕生日に夫婦が揃って日本尊厳死協会に入会し「リビング・ウイル」の登録を済ませました。この事について諸兄弟のご意見を戴ければ幸いです。

弟を び

十一期生生活学科 広田 民子

去年八月末日肺炎と言う診断でヴーオーリーズ記念病院に入院さして頂いた実家の弟が僅か二ヶ月後に裏口退院となりし闘病

生活の一部をこゝに記し、早期発見以外助かる道無き癌の良薬が一日も早く使用され多くの人達が癌を克服する日が来る事を祈り願ひ乍らペンを執りました。

入院後半ヶ月過ぎし九月も中旬、毎日日課として洗濯物の交換で通う私に弟が笑い乍ら「大分咳も止まり楽になった何日退院出来るかな」と話し我が家に帰るのをたのしみに致しては居るもの、日々増す点滴に私は疑問を抱き勿論本人には告げず医師に、病気の状態の説明を依頼した。レントゲンを指し乍ら説明される主治医の声も小さく「肺と心臓の一部に癌が出来場所が場所だけに手術も不可能です。可愛そうですが」と言われ一瞬涙は止まらず、又癌の苦しさ、家族の悩みも、色々な人達の末期を職業柄知りつくす私にとって、如何に真実の病名を知らさずに看病する事が出来るだろうかとそれ以来不安の毎日でした。肺炎と信じ居る弟は余り体の不調は一度も訴える事も無く只一回の抗癌剤投与の結果とも知らず、涉に頭髮の抜けるを苦にし、薄くなるのを気に致して居ました。医学に通じる人ならば悟るでしょうがその点弟は無感心でしたから……説明聞き、真実の病名を知って以来、私にとっては以前と異なり四人部屋で何も知らずに笑い乍ら友と話す弟の首筋も淋しく又入院時乗り来たバイクが自転車置場で埃にまみれ荷籠に枯葉が数枚散り

入り、主待つ姿を見る時涙が出る。医師は今年中の生命だと言われたがどうか誤診で有ってほしいと願った。

「外泊許可をもらった」と十月初旬喜んだのもつかの間、帰宅日朝から高熱で中止、「又来週が有るから」と励ます私に残念そうにうなづく弟、そして後日あつと言う間に：肺癌での苦しみは有りませんでした、吸引器も効無く窒息死でした。何てはかない命だったか、看病と言う看病何もせずして最後迄自力でトイレや身の廻りは自身でしていた弟。一人娘を長男宅に嫁がし、父、妻、母、長男の順で亡くして以来一人暮しの六年、淋しさをまぎらす為に吞むタバコの数も多くなつた事は確か：でも知りつゝ注意する分にも行かなかつた私にも今となつては責任を感じ居ります。

幼き頃より気弱な性質で小学校時代友に泣かされ私に助けを求めに来た弟。両親の代理を良くして叱つたり慰めたりした数々の思い出が実家の祭壇に飾られし写真眺め乍ら走馬灯の如く思い出がつきない。三つ年下の弟が先に旅立つなんて考えても見なかつただけに何故早期発見してやれなかつた事のみ悔いる日々です。神様より頂いた命六十五才薄幸な老後だった。守る人無き実家を守る事こそ私の元気な間に課せられた職務と思ひます。夢にでもいゝ一度会いたく思う今日此の頃です。

徑 (こみち)

十二期生生活学科 生田 薫

その朝、何気なくTVのスイッチを入れると丁度NHKの定時番組「土曜美の朝」が始つていた。白寿とはとても見えない若々しい小倉遊亀さんが孫の寛子さんと二人、一冊のアルバムを覗き込み乍ら楽しげに会話をしています。その中には舞妓をはじめ数多い作品がある筈です。その一枚一枚に連なる想い出を懐かしむように二人の会話は尽きそうにありません。

「おばあちゃん、これ私よね」「うん、これなかなかいいね」とても幸せそうな空気が二人のまわりを包んでしまったような瞬間、その絵がTVの画面一杯にアップして映し出されました。私の大好きな絵！「徑」だとすぐにわかり、遊亀さんのお気に入りの作品だと思つたと一層嬉しくなりました。この絵は厚生年金休暇センターの中にあつて私たちにはなじみ深い絵なのです。画面には母親の持つ花籠の萩が風に揺れ、続く女の子の傘の柄に吊つた巾着も小犬の尻尾も揺れ、空に浮んだ白い雲。あわてず、あせらず、無心に歩いて行く明るく晴れた丘の小道です。遊亀さんは自著の中で「私は草にも木にも、動物にも雲にも通い合う愛の心、健やかさ、そんな思いに満ちた世界を画きた

かった」とこの作品について述べています。

近江が生んだ閨秀作家、小倉遊亀さんは鎌倉で今も健在です。

雑草に学ぶ家庭

十三期生園芸学科 久郷泰次郎

私の家庭は三世代が住む大家族である。家庭は人間としての生き方、内面的な心を育てる大切な土壌だと思う。子どもの教育は学校にまかせておけばよいと思う人が多いこの頃である。

確かに知識・技能は学校で身につけて来るが、人間としての生き方や内面的な心の問題は期待できない。人間は何不自由なく過保護に幼児期を過すと独立心や創造力に欠けた肉体的に病弱に育ち、依頼心が強く指示しなければ行動ができなくなるし、又判断力も欠け自尊心虚栄心は強く忍耐力に欠けた子どもになる。

私は畑を少し作っていて思うことであるが、野菜花卉と雑草とでは根の張り具合が大分ちがう、雑草は生存競争の中で根を張り石や木の根をくぐりぬけて水分、ミネラル等の養分を得る。「よく雑草の如く」と云われる様に子どもは生長してほしいも

のである。温室や植木鉢で育てた植物は与えられた水分温度などの快適な条件でしかも病虫害まで人の手を借りて予防し成長する一つの条件が狂えばたちまちにだめになってしまう。人間も雑草みたいに育てたいものである肥料などなくても力強く伸び嵐にも負けず踏れても生長するように……雑草のような人間は人の苦勞も理解でき思いやりもあり人間味があって人間関係もうまく出来独創性やリーダーシップも發揮し正義感も強い。

過保護に育った人間は自己中心的になり協調性にも欠け甘えによる猜疑心も強くなる。家庭は家庭環境の悪化ひいては社会環境の悪化と連動するものである。父母は子どもたちに、祖父母は孫たちに常によい鏡であるよう努力が必要である。家庭は和気あいあいの土壌の中で子どもは雑草のごとく育ってほしいと思うこの頃である。

終戦五十年におもう

十二期生文芸学科 西村 浩

「暖冬」と早くから予告されていたように、今年の正月は穏やかな日々が続いた。しかしこれで万事めでたしという訳には

いかない。「政治不況」ともいわれる、戦後最大の不景気状態は、一向に解消されていない。国会は相変わらず庶民の生活不安・就職難をよそに「政治改革構想」に明け暮れ、党利党略、派利派閥・面子の問題から、一步も踏み出すことが出来ない模様。この状態では議員の先生方に期待していても、果たして一体どうなるものやら。

こういった世界情勢・社会事情に無関心では、私たちは生活できないが、しかし、この春満七十七歳を迎える私の現在の最大関心事は、何ととっても、私自身のこれまでの人生の意味である。

たといわが爪痕でもいい我が生の

記録残したき心は動く (旧作)

診療放射線技師という本業のかたわら、週刊社内誌また、関係する二、三の月刊学会誌や、同人誌の編集などに追い回され、リタイア後も相変わらず、ずるずると郷土史や未だ二、三の会誌の編集などに振り回されて、何時になったら、肝心の自分の作品が書けるのか、心許ない有様である。

それはさておき、昨年从今年にかけて、太平洋戦争による戦死者の五十年忌が、あちこちで行なわれている。今更の如く、未だ異国の山野に骨を晒している戦友たちへの想いを新たにし

ている。

しかし、私の参列した中でも、残念なことには遺族や遺児たちの想いの裡には、私たち戦友の想いとは裏腹に、以外に関心が薄く、ただただ世間体のためという、随分冷やかなものを感じる法要も多かった。

人は生まれた限り必ず死んで往かねば成らない。これだけが、すべての人間に与えられた唯一の平等なのである。しかし、人は一体何のためにこの世に生を享けたのか、また、その使命を全うして逝けるのだろうか。

我関せず焉と誦される読経の波の中で、若くして散って逝った戦友たちの面影を逐いながら、果たして彼らの生は一体何だったんだろうかと思う。

私は彼らより、彼らの生の二倍の五十年も長く生きて、どれだけ社会に貢献して来たのだろうか。或いは勘違いをして全く別の道を走って来たものではなかったらうか。けれども、今から引き返してやり直す時間は、もはや与えられていない。

人が死んで、そしてその人の存在を記憶していくれるのは、例え断片的にもせよ、近親や友人たちを含めても、精々長くて五十年〜六十年に過ぎないであらう。

とすれば、自分自身の心の記録、それも心の内奥に秘められ

て健る過去の記憶を、自分の心の鏡に正直に映し出して、それを今この肉眼の見える間に、手指の動く間に、詳細に記録して置かねばならない。端に自分自身の記録（自分史）のためだけではなく、彼らの分も書き誌さなければならぬ。これは生き永らえたものの義務ではないか。そうしなければ、彼らの死は、全くの無駄死になってしまうではないか。

天台山田恵諦座主の

死去について

十四期生陶芸学科 深尾 昌二

遅ればせながら卒業させて頂き日がたつのは早いもので早や半年になります。過去二ヶ年を振り返り想い出は数多くありますが特に印象に残ることは去る二月二十二日に亡くなられた天台山田恵諦座主の死去であります。と申しますことは一昨年比叡山延暦寺で写経があった時、二六〇余文字の般若心経を書きながら先生の童顔溢るゝ生の声でのご説教が念仏を唱へてさえいれば長生き出来るし、且朝の水を仏前に供へ日々を感謝の気持で渡世すれば人生は幸福であると言はれた事を有難く拝

聴し、御蔭様で今日迄達者で余命を保つ事も出来得たと確信しているからであります。

尚これからもこの気持で社会に貢献し安らかな余生を送りたいと思っております。

美しく老いる

十四期生文芸学科 森 登志枝

長年の間待望久しかった滋賀県老人大学の新校舎が平成五年九月に草津市の文化ゾーンに新築竣工されました。高令者の一人として誠にお目出度くご同慶に存じます。幸運にも私共十四期生は素晴らしいこの校舎で初めての卒業式を挙げて頂き感謝感激で一ぱいに胸迫り忘れる事の出来ない喜びございました。高令者の交流とふれ合いの拠点として研修に集いに中広く利用出来る夢の殿堂であります。今後ますます高令者の増加が進む現在至れり尽せりの場として充分の役割が果せる事と信じます。老大で学んだ二年間はあっと言う間に過ぎ去り又卒業後も早や六ヶ月を迎えます。何よりも各地に多くの友達ができ固い友情で結ばれた出会いを大切にしていきたいと考へて居ります。

卒業後も短歌の研究を続けたいと同好の男女二十名余りが大津市に集い山村先生のご指導を受けています。或る時は吟行や小旅行にとたのしく学習をしています。私は今後も暖い友情に支へられ豊かな趣味を通じてさわやかに美しく老いる事を念願して居ります。その為には第一に健康に注意し第二には誰にでも優しく接し和やかな心で無財の七施を実行して清潔にして若々しく人に好かれる余生を送りたいと思っています。

去年の夏 卒業かたく念じつ、

みまかりし友 悲しく偲ぶ

卒業式 必ず行くと言ひしに

はかなく散りし花のいろ香よ

合掌

囲碁と老後

十四期生園芸学科 西澤 繁喜

職場で一時間の昼休みに三十分で食事を済ませ、後の三十分で石垣積みをするザル碁を楽しんだ。

退職して急に時間をもて余すようになり、六十の手習いで一念発起、日本棋院の中級講座に入門し、ついで上級講座に進ん

で初段の免状を頂いた感激は今も忘れられない。その後、二段三段コースと進んで三年後、待望の五段位を拝受したときは、この道を志してよかったと感謝している。

退職して数年後、近江八幡市に転居し、五百世帯の自治会長や長命寺のお寺の役員をつとめる中で老人大学を知り、高令化社会に望ましい学習の場と希望し、幸い、園芸学科で良き学友と共に学び同窓会の仲間入りをさせて頂き、先輩諸兄姉の御指導と御親交を願えることを感謝しています。

朝夕百鉢余りの花木盆栽を世話し乍らつぎつぎと勢一杯誇らしげに花開くすがたを賞で、「晴耕雨読」晴れた日は盆栽をいつくしみ、雨の日は棋道を師として静かに盤に向うとき、我が老後これに過ぎる幸わせなしと感謝して暮す毎日です。

旅行と土産

十四期生園芸学科 岡谷 猛司

観光地で滋賀ナンバーの観光バスが駐車すると俄に活気ずくと謂れる程滋賀県人は、土産を沢山購入するそうです。

また、トイレ休憩で横寄りするパーキングでも、土産袋を持

って車へ帰る人があります。このような光景を見てみると、旅行を楽しみに来たのか、土産を買い旅行に来たのかと疑いたくなります。

そう謂う私も土産を買わ無い訳ではありませんが、私は必ずその観光地の特産品であるのかどうかを確認してから買うように心掛けています。つい先日、長野県立山の山麓へ旅行をしました。珍しく「ゆば」の乾物がありましたので、土産屋のおかみさんに尋ねますと、「お客さんはどちらからお出でですか」と尋ねられますので「関西から来ました」と答えますと、

「関西の方は、京都の舌ざわりの良い味の良い物をお召しですと、舌ざわり味ともに劣りますがこの地方独特の風味がございませす」と説明してくれたので、得心して五百円の袋二袋を買いました。広辞苑によれば「土産とは、その地方の産物」とあります。

友人がアメリカへ旅行し土産にシャープペンの箱入をもらいました。早速包紙をとりますと、メイドインジャパンのシールが貼ってありました。折角の土産をもらいながら失望しました。私は、旅行はその旅先の素晴らしい景色や、またその地方の珍しい料理に舌づつみし、いつまでも楽しい思い出となることを旅行の真の楽しみがあるのではないかと思えます。互に気楽

で楽しい旅行をしようではありませんか。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

お土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

と云うが、土産を買わないで旅行に来たのかと疑いたくなる。

会員だより

湖東支部

易しい歎異抄

七期生陶芸学科 新海 三郎

私は地区公民館活動の読書会の世話役を引き受けまして野間宏先生の「易しい歎異抄」の勉強を致しております。親鸞上人の仏への道の奥の深さに感動致しております。上人のお教えの中に「念仏の功德」なる条に、いちど念仏を唱えればただちに八十億劫もの長い間苦しまなければならない重罪も消えてしまふと信じるがよいと言うことについて、これは十悪五逆と言う罪を犯した人、しかもふだんは念仏を唱えたこともない人がいよいよ息を引きとろうとする時になって初じめてこの道の偉い師匠に導きを頼み一回念仏を唱えれば八十億劫の間苦しまなければならぬ罪が消え十回念仏を唱えれば十倍の八百億劫の間苦しまなければならぬ重罪も消えて往生することが出来ると言うのである。つまりこれは十悪五逆と言う罪がどんなに重い

ものかをわからせるために、一回の念仏あるいは十回の念仏がそれほどの罪をも消し去ると言う、念仏の有難い働らきを説いて下さるのである。 合掌

捧げた生命

十期生文芸学科 横山久太郎

諸行無常老少不定と謂われるが、わが人生も既に七十四歳で終着駅も近づき黄昏の行路である。

顧りみれば三代の天皇の御代に生かされていることの有難さを沁々と思う。過ぎし大戦には幾百万の尊い命が戦陣に散華し、その中において私は機銃掃射の下を一度ならず潜り、また爆弾の洗礼にも天佑の加護の賜ものか、水漬く屍も免れて、虜囚の身を故郷の山河に抱かれることを得た。その上、予想だにしない高度文化の恩沢に浴する幸せに感謝の念に耐えず、余生は力の限り美しく老いたいものと願っている。かつては哀歓を共にした知友もつぎつぎと鬼籍に入るに及んで、私もやがて一巻の終焉の幕引きには迷いのこの世から喜んで定住永遠の冥界へ旅立ちをしたいものと思っている。

癌で死するか、老衰死か家族や皆さんにお世話かけずに済むようにありたいもの。自然死ならば今の五体ではまだまだ屠蘇も幾盃も重ねられると思っている。わが死後は、滋賀医大「しゃくなげ会」に献体登録させていただいているので、わが霊も安らかに瞑目できましよう。生ある限り世々伝承の宗門臨済宗の教えを信じ仏法の有難さを心に、報恩の道に励みたいと念願するばかりであります。

合掌

笑顔で健康を保ちたい

我が国には昔から「笑う門には福来る」ということわざがある。

笑顔は健康とたいへん深い関係があると思う。笑みを常に絶やさずにいると、自然に心が和やかになって、食事が楽しくなって、食欲もすすみ、病気も逃げていくようだ。怒った顔や、不愉快な顔をしているときは、とたんに食欲もなくなってしまう。

また、笑顔は個人の健康ばかりでなく、家族関係においても、

大切なことである。今年には国際家族年であり、家庭と家族について考えようと、いわれている年でもあるが、この笑顔を忘れないことが、一家の円満をもたらす一番のものと思われる。我が家は今、息子夫婦と二人の小学生の孫、それに私達夫婦の標準的家族、孫たちの話題で賑やかな日々だが、この団らんが絶えないように、私達老人から笑顔の源となって、みんなの健康を保ちたいと願っている。

今が幸せ

平成二年一月、十二年振りに我が家に孫が生まれました。私六十九歳のときです。その日から何事も孫中心になりました。

今日健やかに四歳の誕生日を迎えました。母親は昨年からはトで働きに出るようになり、私は手足が少々不自由なのと、月のうち十日余りは病院に行くため家を空けます。そんなわけで昨年から保育園にお願いしていますが、毎日よるこんで通園してくれまので先生方に感謝しています。登園するまで朝しばらくと、夕食の前の一ときを私の部屋へ遊びにきます。一緒に

十一期生園芸学科 服部 栄一

三期生生活科学科 森 キミ

テレビを見たり、歌ったり、退屈してくると画を書いてくれとせがみます。うさぎや犬なら何とか書けますが象や恐竜、アンパンマン、ジャジャマル等……私は全くお手あげです。ひとりになったとき絵本片手に略画の猛練習をします。玩具も今は手の込んだ組立式のものが多く、説明書をよみながら孫と二人で四苦八苦です。おかげで私の部屋は組立てた家や自動車で一杯ですが、毎日「あれは何」「これは何」の質問に正しく答えられるように勉強もしています。賢い賢いと目を細めて頭を撫でているのも今のうち、やがて憎まれ口を云うでしょう。はたち過ぎて只の人に成長してくれば満足ですが明日の生命の保障はありません。私は童心に返って孫と遊んでいる今が一番幸せです。

生きがいは何に求めるか

十四期生文芸学科 西村 泰蔵

高齢者の一人としてあなたは何を生きがいにしていきますか、と問われたらそれぞれ答は千差万別でありましょう。

私は今年古稀を迎え老人の序の口ですが、昨年四月から何か

のご縁で町老人クラブ連合会の事務局で、コーディネーターとして多忙な日々を送っています。

世界でも類がない程早いピッチで高齢化が進んでいる我が国で、将来の老人福祉対策について毎日の如く何処かで取沙汰されていますが、私も健康な限り積極的に社会参加し、高齢者相互支援活動推進の一助ともなればと思いつながら。

若々しきをもとう

九期生園芸学科 伴 清一

六十三年に卒業して早や約七年を迎えようとしております。卒業後の旧交を暖めるため、老大九期みどりの会をつくり、互に語り、笑い、歌ってみどりのように生き生きと暮すように共につとめております。

私も七十五歳の高齢になりましたが、昭和四十九年から県立八日市養護学校の警備員として現在に至っております。二十年の歳月はあつと言うまに過ぎ去ったと言っても過言でないかと思えます。当時卒業された生徒諸君が学校の行事で学校をおとづれられたとき、「伴さん、まだおられますか、元気で何より

です」と力づけてくれます。当校は精神薄弱児の学校で障害をもって勉学にいそしんでいます。運動会など、一般校と違い、その障害を克服して競技に参加しておられます。

私は二十年間みせていただき、先生と生徒が一体となって競技に当っておられるのをみていつも胸あたたまる感じがします。

高齢とは言え、障害も別になく、警備員として夜間の学校管理につとめさせて頂いていることに感謝しなければならぬのだと自分自身にいい聞かせております。然し先生の帰られた学校は言いしれぬ孤独感が迫りくることがあります。風が校舎に当り、いろいろな風音を出します。巡回の足音が校舎にひびき、電気時計の秒をきざむ音が静けさを破ります。静かだなあとと思うとき、また言いしれぬ淋しさを味うときもあります。

然し学校を守っているのだと言う責務を忘却してはならないと常に心に鞭打っています。盛んに高齢化問題がクローズアップしてくるとき、私は常に若々しい気持ち、老大九期みどりの会のみどりの如く、みずみずしさを失なわないようつとめております。

園芸を教えて頂いた辻先生はみずみずしい元気と若々しい気持ちをもって、同窓会にもご出席を願っております。私も先生のお姿を胸にきざみ、若々しさを失なわないよう、つとめ

てゆきたいと思っております。

中国を旅して

十二期生生活学科 野玉 一子

老大十五周年記念の中国旅行に参加し、魅せられてしまいました。初めての海外旅行で不安でしたが、老大の旅行等でお世話になる名鉄観光の浜田様の添乗で、大へん楽しい家族的な旅をさせていただきました。

機上からの下界。進んでも進んでも、ふわふわの真白い雲。二、三時間のちかーい近い外国。何度でも行きたい中国です。

あふれるような自転車。人、人、自動車。それが信号よりもお互いにゆずり合って共同で、ドットと動いているという町でした。上海も。北京も。

芳々さんの流暢な日本語で玉仏寺等見学。二日目からの北京の張さんもユーモアがあり、日本語も関西弁も上手。その上美青年。「あれわかります？路上でお見合ですよ」と張さん。日本の大奥のような紫禁城。火災から守るために、寒季にはたき火をするのだとのこと。

万里の長城。高くて頑丈な城壁、四面海の日本では考えられない真剣な仕事だったと思う。

広大な天安門広場に夕方は人が集まり国旗を下すのを見守る。日の丸騒動とは大きな違い！

プラタナスの長い並木を走るバスから見る木々の白い印。それは夜の交通の助けになるとか。

山と積まれた西瓜の店。自転車でテントやかまどを運ぶ行商の人。馬も行く。リヤカーにお祖父さんを乗せ自転車で引っ張っている女の人。みんなたくましく一生懸命でした。

生きがい手芸教室

七期生生活学科 奥井 かず

五個荘町では、昭和五十五年度より、老人の生きがい事業として、陶芸、園芸、手芸の三つの教室が設けられています。当時は先生の件に付いて種々苦勞もあつたようですが、最近手芸専門の先生にご指導して頂いております。現在私は先輩の後を継いで、手芸教室の室長として約五十名の会員のお世話をさして頂いておりますが、皆さん作る喜びまた、出来上りを見

る喜びをもって月二回和気あいあいの内に一生懸命取り組んでいらっしやいます。また、年三回町老ク連の総会や町の行事等に、三教室共に手作り品の展示即売会をして、売上げの一部を町の善意銀行に寄附して、多少なりとも社会のお役に立つと共に皆さんの大きな生きがいになるよう念願しつつ頑張っているこの頃です。

生きる喜び

九期生文芸学科 中江 章浩

先ず健康、これこそは一人一人に授けられた金では買えない尊い資産であり、自分で守り、自分で育てるものです。人間生活の原動力であり、その人の一生を左右すると申しても、決して過言ではありません。健康であつて始めてボランティア活動等にも参加出来るのです。昔から随分有能で、将来を囑望されていた人々が挫折されているのは、つい、健康そのものを、ないがしろにされた結果です。健康で心身共に明るい日常生活を送って社会に貢献してこそ、生を全うしたと言えるのです。我々老人としても、老いのままに任せてよいものではありません。

老いそのものは、避けられないものであるとしても、常に定期的な健康診断を積極的に受け、自分の身体の状態をよく知って頂くかかりつけのお医者様を持って、何かと相談出来るように致しましょう。そして自分で自分の健康を管理するよう努力する事が必要です。一日一日を自分自身にとって満足のいく日として、大切に生きて行きましょう。

その為に自分自身に適した運動散歩趣味を見出して、日々是好日と感謝させて頂いている今日このごろであります。

大作に挑む

三期生陶芸学科 佐生 正二

今春当五個荘町にオープンする特別養護老人ホームのロビーを飾るレリーフ（縦二米横五米）の大作依頼を受けた。日ごろ特別懇意にして頂いているこのホームに私財を投出された理事長堤氏より「おじいちゃん一代の記念にやって下さい」と心温かい御指名に十年間勉強した成果をこの大作に取組む決意をした次第。幸い知人でベテラン先生の御指導と御協力を得てこの程完成、三月取付を待つばかりとなった。この大作がこの年で

やり遂げたこの喜びは感無量であり、堤氏に心より感謝している。このホームに入苑されるお年寄りの方々の心の励みになれば幸いである。

栄光と感動を

十期生園芸学科 坂口 栄三

ねんりんピック93京都大会に参加する機会を得た。県選手団は十七種目百二十名が総合開会式場の西京極陸上競技場に入ると、日本三大祭の一つである祇園祭の鉾が参加者を待っていた。各都道府県政令指定都市の選手団約八千人厳肅堂々の入場行進。京都市の心のこもった歓迎だった。常陸宮殿下、同妃殿下をお迎えして炬火台に火を灯した。フィールドに勢揃いした参加者の前で幼児から小、中、高校生、さらに婦人会など「世代を超えて」と題した集団演技があり割れるような歓声。舞妓が優雅な舞い京都ならではの演出が祭典の幕開けを華やかに彩った。翌十月三、四日グランドゴルフは東舞鶴公園で始まる。会場の設営準備万端ゆき届いた心温たまる歓待を受け頭のさがる思いであった。「健康、ふれあい、いきいき長寿」をテーマに開催

されたねんりんピック、素晴らしい体験と栄光に浴し感激に輝き最高の気持ちで人生のいい土産ができた。これからもスポーツを通して健康でふれあいを大切に楽しく生きたいと思う。

今後の人生

六期生文芸学科 山村太兵衛

終戦後、創業した会社経営を退いて十三年が経過した。人生八十年、九十年ともいわれる昨今、豊かで、楽しい老後を夢みている。

企業においては、社会貢献、企業市民活動・企業メセナ：等と企業の在り様の視点が変化してきている。本格的な高齢化社会における我々も、ボランティア活動、文化活動等、地域に溶け込むことが重要である。

これからの私の人生を、妻、三人の息子夫婦と十人の孫、それに地域の人々とともに、充実したものにして遇していかなければならぬ、と自分に言い聞かせている。

老人クラブ連合会

事業に参加して

九期生生活科学科 中西 信子

私の町には二四のクラブがあります。会員は一七〇〇人余りおられます。年間主な事業は多くありますが、労働を主にする作業は梅園の除草や農園の芋苗植え梅の剪定、実の収穫、農園の芋掘り、琵琶湖祭りに協賛して西の湖花火大会の灯籠作り、社奉仕など年間を通じて季節に合せた奉仕活動をしています。

近年老人クラブによせられる期待も増えて来ましたが、会員のみなさんもその都度元気に参加されて手ぎわよく作業を進めてよい成果を上げることが出来ています。私も事業の度に参加して会員のみなさんとのふれあいを大切にして、これからも連合会のために少しでも役に立ちたいという気持、また、必要な人になるよう心掛けてつとめたいと思っています。

寄せ植の松竹梅

十四期生園芸学科 大橋 勲

毎年お正月に間に合うよう見様見まねで、松竹梅の寄せ植を幾鉢も作っていたが、老大にて辻先生から木の命、木の習性、木の表裏等を教わり、眼が覚めた思いがした。私は今までの経験を生かして歳末にはいるやいそいと寄せ植に取り組んだ。

頭に描いていた構図通りには仲々うまく出来ない。松が、梅が、ゆう事を聴いてくれない。石を据えてみたが、岩らしい重みが出てこない。怖いものしらずであった頃の方が自由奔放にのびのびと出来たのと思いつつ、兎に角六鉢作ってみた。

白砂で空間を大きくとったのと、上質な苔が手にはいったので寄せ植が生々としてきた。早速風呂場へ三鉢運んだ。お正月には七分咲き位には梅が開花するだろうから床の間等に飾り来客に鼻をピクピクさせて説明するだろう。

残り三鉢は親戚へ配って歩いたが、今年は鶴を置いたり橋を掛けたり地藏さんを据えたり小道具を使ったので仕上りはよく喜こんで頂き、来年への意欲が沸いてきた。それから十日程した一日園芸の十四期生が卒業後始めて一堂に会し旧交を温める忘年の集いが催されたが、酒席での話題は時候柄松竹梅の寄せ

植で苔がうまく張れなかったとか、福寿草も買求めたとか、同好者が集まって楽しく作ったとか、話に花が咲いて夜の更るのも忘れるばかりだった。こんな楽しく無邪気に語りあえるのも二年間苦楽を共にした縁の賜ものだと思いつつ、お酒の酔も手伝って深い眠りに落こんでいった。朝食後幹事さんから来年の五月頃に湖東地区の方々のお骨折りで楽しい集いが約束されたのをお土産に、各々期待と夢を膨らませ冬本番近しを思わせる冷たい風を頬にうけつつ湖北路をあとにした。

老 大 を 終 え て

十四期生スポレク科 田井中きみ子
月日のたつのは早いもので、老大を卒業して数ヶ月がたちました。二年間立派な先生方から巾広い貴重な知識を得る事が出来幸せでした。

すばらしい友と月一回の出合いまたボランティアに参加。草川先生の「下手でもいい間違ってもいい、無理をしないで身体を動かそう」のご教訓をモットーに。曲が流ればお互いに手を取り合ってリズムにのり、楽しく語らいながらさわやかな汗を

かいて、踊りの輪が和になり楽しいふんいきです。この友情の灯を数多くの人と接して燃やしつづけ、健康で朗らかな老後を送れるよう精一杯頑張っています。

日野史跡を訪ねて

十三期生文芸学科 森野 芳香

先日能登川町史談会にて日野の史跡探訪に参加しました。前日までの荒模様も当日はすっかり上がり、晴天に恵まれた一日でした。

まず日野資料館で館長様より一時間にわたり説明を拝聴しました。皆様もご存知のように日野も近江商人の郷であり日野商人と申し昔東北・関東へ味噌、醤油、菓等商に主人が出稼ぎに行き、奥さんが留守居を守り家庭を一斉仕切って居られました。それを「関東後家」と云ったそうです。その方々がご高齢になられましたので、実体を後世に残すため館長さんが尋ね歩かれ一冊の冊子に纏められました。

次に、わたむきホール虹へ案内して戴きました。多目的の部屋が多々ありましたが、特に驚きましたのは七百人収容出来る

大ホールにおいて、暗闇の中緞帳に光ファイバーで、秋の紅葉の山並みが燦然と煌めき、春になると石楠花の花が色も鮮やかに咲き乱れる姿が浮び上がりました。このような施設は他に無いそうです。

午後は蒲生氏の墓、信楽院、等御案内して頂きまして、夕映えの霧氷に包まれた綿向山を後に、今日の一日、色々学び有意義に過ごさせて頂いた事に感謝しつつ、帰途に就きました。

元禄の町並今に日野の冬

一岩に六のお地藏冬日さす

夕映えに霧氷が包む山一つ

老卒業者の役割

十四期生スポレク科 長尾 道生

心豊かに自分の生がい作りにと、県下の見知らぬ友を求めて入った老を、なんとか卒業する事が出来、多くの友が出来た事を一番嬉しく思います。今後二年間で学んだ事を地域の皆さんに分ち、交流の輪を広げ、明るい老後の幸を計りたいと思います。自分の夢として、老ク連の皆様と、町内のスポレク科

出身の人達の指導を得て、町グラウンドにおいて、レクレーション大会を開催し、親睦とふれ合いの輪を広げる事が出来たらと思っております。夢で終るかも知れないけど何事にも挑戦し、健康第一に、一日一日を大切に、感謝の日を送りたいと思います。

陶芸を生かす

十三期生陶芸学科 善住 喜録

陶芸を習い今もその仲間や先輩の方々とクラブを結んで続けています。慈母観音面と不動面を何回か繰かえし、やっと一対をお寺に持参したら法師さんが正面左右にかかげて下さった。不動面の裏に「武とは戈を止める」と書いた一二八〇度で本焼された黒光りの像面よ、再び戦争を起さぬよう願うものですよ。見守って下さい……。次の句もしかり、「疾如風徐如林侵掠如火不動如山」中本山東南寺で円頓授戒が秋季に勤行され四五〇名の老若男女が戒弟されました。その世話役をさせて戴いた。天台座主より過去現在未来を三千仏へお祈りし戒弟者へこのお面も両脇上位にて伴に心情にきざまれました大変よいことをされましたねと言われ、われながら感謝いたしました。あと十五

年程して再び円頓授戒をされるだろう…。その時の光景を：郷土の人々や我が孫かな!!と想像しています。

「機会を得る」といいますがそれは運ともいう、自分で運ぶのだろう。常に懸命に励んでいく人生の中にそれがそなわってくるものだろうとも思う。「陶芸の仲間を通して人間の間柄をつくる。作陶にそれが自然にはぐくまれ自分の造形にされてくるものだよ」と先生が言われました。芸はいずれも奥の深いものである事を感じている今日このごろです。

近況

十三期生生活科学科 住井 秀子

世は平成と代り、色々多彩な日々が続いて来た今日ではあります。つい先日迎えた新春が早や平成六年とは全く夢のように月日の流れの早さに驚くばかりです。私自身も老を卒業して地元の高齢者学級に通り始めて三年目を迎えます。名ばかりの副会長ですが集まれば話はずみ愚痴話も意気統合して愉快そのものです。ストレスが解消出来て、これも健康法かなあと一人で満足しております。高齢者学級で学ぶ内容も必ずノート

に整理記録する事を怠らぬように務め実行も伴なうようにと張切っています。

又々皆様とお出合い出来ます日を楽しみに致しております。

老大を卒業して

十四期生生活学科 西岡 虎男

長い人生を公職で、家庭や地域との生活に遠ざかり、せめて余生を地域の皆様と共に有意義な日を送れたらと心にきめ無事卒業致しました。現在、町の老人クラブ連合会で、コーディネーターとして務めております。

目標・指導の重点として、

- 一、魅力ある老人クラブの育成。
- 二、老人クラブ会員の拡大を図る。
- 三、自主性、地域性、共同性のある老人クラブを目指す。
- 四、教養文化、福祉活動の推進。
- 五、連合会全体の研修会を開催して親睦を計ると共に、友愛活動を推進する。

最後に、二十一世紀は高齢化社会、高度情報化、国際化の時代

です。

社会の変動に取り残されないように常に知識を吸収し、健康で毎日を大切に送りたいものです。

充実した日々

十四期生文芸学科 福田耕三朗

「わー、お爺さんの年賀状一番多く来ているのやなー」

孫が年賀状のお年玉載整理中の言葉である。歳老いても若い人達に負けず、社会的に頑張っている実証であろうか。

今年の賀状も不足分順次お返しを出したが、全部出し切れず失礼した方が何人かある。誠に申し訳なく思っている次第である。幸にも五体これと云って取り上げる病気もなく健康で過して居られるのも、神仏のご加護に依るものと感謝しながら、日々充実した喜びで生活している。今後共この状態で趣味のクラブにまた社会奉仕に活動を続けたいと思っている今日この頃である。

グループ活動

OBのクラブ活動

八期生文芸学科 田口 敏之

私等滋賀県老人大学校第八期生は、昭和六十二年九月卒業して以来相会うことは年一回の総会と、ときたまの研修旅行等の行事のときに、相互の親睦交流の機会しかありませんでした。

ところが昭和六十三年四月九日大津市滋賀会館にての滋賀県歌人協会の総会場にて、在校当時の恩師伊藤雪雄先生と、文芸学科同窓生の牧田登茂氏と偶会致しましたのでその節に、伊藤先生に対し、文芸学科の卒業生の短歌愛好者のために、月一回程度先生のご指導にて勉強会を催したく申し入れましたところ、先生のご快諾を得て勉強会の名称を「波知起会」と命名して頂きました。

第一回波知起会は

日時 昭和六十三年五月十六日午前十時

会場 大津市打出浜、市立老人福祉センター和室

会費 一か月金千円とし、お盆と年末には臨時会費を徴収

し、伊藤先生を交えて懇親会を開催すること。

短歌 一か月三首とし、事務局長（小川常三）宅に郵送投

稿をすること等

右の要領にて、短歌勉強会することに賛成の文芸学科卒業生は、当初十六名にて第一回の波知起会出席者は十四名でした。

以来、今日まで短歌勉強の波知起会を催しており、第六十六回目となりました。

現在の会員は一〇名、会場は大津市立勤労福祉センター和室となっております。

第八期生OBの諸賢のご参加を歓迎しますのでよろしくお願ひします。

なお、今後の波知起会の事業計画として、万葉の遺跡めぐりと吟行会や親睦旅行会それに歌集の編集等についても検討しております。

平成六年三月

波知起会代表、田口敏之

会員 だより

彦根愛犬支部

卒業して半年

十四期生スポレク科 中橋フミ子

二年間老人大学に学生として人生最後の学習の場を与えられた事は最大のしあわせでした。

南は草津、西はマキノ町、広い地域より友と出会い、卒業した今日ボランティア以外月一回の月例会を持ち、二年間習った連続四秀の体操に始まり、リクレーションダンス等、みんな輪になり手をつなぎおどり、いい汗を流した後はお食事をしながら近況報告など話題はつきません。

必修講座でお聞きして印象に残っているのは泉田先生の話、「言葉で生きる」でした。言葉は人の為自分の為、話上手に聞き上手、まったくその通りです。

残された人生を明るく、たのしく、良き老人として同窓会のみなさんと「和」を大切にしていきたいです。

文集「こだま」の出版

十一期生生活学科 村山 ヒサ

「レイカディア大学」なんとさわやかな響きを持ち美しい湖を想像する新鮮なる校名と変りました。これからも生涯学習の楽しい場として学び合い多くの人達との出逢いがあり仲間作りの輪を広げ豊かなる老後を送る為生きがいを持って社会に貢献する事を教えて頂く素晴らしい大学を誇りに思います。

私達米原生活学科十一期卒業生は全員元気に頑張っています。毎年文集を発行して居ます。名称は「こだま」です。各自が近況や地域での老人会の活動、人生の歴史、随筆、等を原稿に書いて、当番の方の許へ送ります。それを編集して簡単な本を作り各会員の許へ届けています。大変喜ばれて好評です。これも頭脳を使い創造力も豊かになり老化の防止にもなるかと思いついて行きたいと念じています。皆さんいつまでもお元気で交流を続けて下さる事をお願い申し上げます。

身につけた

三期生園芸学科 辻 幸夫

十人兄弟の四男で今でも親から受けた躰を毎日親に感謝している。小学生の頃は毎日の分担の業務として朝は門の庭の清掃と毎日の風呂焚であった。薪は近くのお宮の森で集める雨天の日を想定して前日に準備して置かないと間に合はない計画性と持続性を学んだ。

人間の基礎は中学校の生活であるときつく思う。片道八軒の道を自転車通学で特に冬の早朝の剣道の寒稽古であった、雪積一米以上の道を毎日朝夕の通学五ヶ年大変な労働であった忍耐の尊さである。中央気象台に勤務、課を変えること四課の間何事も努力して経験し実践することであった。勤務中に空しゅう五六人で焼け残った神田のビルに移り庁内の宮坂食堂での毎日代用食よく耐えたものだ。終戦後大阪の桃谷お勝山で二十人ばかり寮長として四交替制勤務の中寮員一同他人に迷惑をかける日頃の心としていた。

彦根では子供の教育と家の整備

舞鶴は当時としては珍らしい単身赴任調査官として西舞鶴に八階建の合同庁舎と合同宿舍二棟を設置。米子の高層は人情の

暖かい海の幸豊かな生活。退職後は大津市の別所と長等の公務員宿舍の管理人として、快適な生活の場を目ざし公供排水・電気・ガス・屋根の補修に勉めたあと、老人大学の二年間私の総仕上げと考え学んだ。

当時としては珍らしくトップを切った老人教育に力を入れられた滋賀県の誇る老人大学二年間始めは借り教室その名も希望か丘その後伊香校で一年県の研修に参加、土についても教わった、これが町での公民館長としての糧になった、今は本格的農業として田畑で実践、自分で育てた自然食今日の健康の源と感謝している。

身につけた躰けの実践と、毎日を喜んで楽しんでる。

充実した老後の生活を

十一期生園芸学科 磯貝 澄雄

朝目覚めて「さて今日一日をどのようにして過ごそうか」と思索しなければならぬほど、つまらない人生は無いと思う。

その反対に毎日が、時の経つのも忘れて何かに打ち込めるといふことは何と幸せなことだろう。

老境に入り、仕事の第一線を退いた今、しみじみと感じ、且つ考えることは、これからの生活をどのように有意義に過ごすかということであり、それは「充実した老後を如何に送るか」ということである。

私は、老大に入学する前後から今日まで数年間、大体同じパターンで、割合恵まれた余生を楽しませて貰っているのではないかと思っている。

その第一は、身体が極めて健康で、これといった持病もなく毎日が気分も爽やかなことである。このことがすべての生活の根幹であり、恵まれたこの健康を今後とも、より長く保持するために、能力に合った適度な運動と、精神活動を行うよう努めている。早朝散歩は晴雨、寒暑にかかわらず毎日四十〜五十分、距離にして四km前後は、欠かしたことがあまり無い。然し無理はしないことで、調子のよくないときには短くするか、休むなどして、苦痛にならない程度にしている。空気はきれいであるし、雑音は入いらず、色々思索し乍ら歩くのが楽しみの日課の一つになっている。

もう一つは「晴耕雨読」の習慣で、猫の額ほどの畑ではあるが、野菜や草花を栽培し、趣味と実益を兼ねた家庭菜園の経営も小規模ながら結構楽しいものであり、心身の健全な保持増進

にはまことに適合したものであると思っている。

野菜は無農薬の有機栽培のため、安全且つ新鮮なものが沢山穫れるので、菜食を主にした食生活に活かし、草花は周年に亘る計画栽培によって仏花と絵の材料を得ている。

充実した老後を送るためには、更に人とのつながりを保つことと、自分の生き甲斐とするような趣味とか、仕事をもつことが絶対的な条件ではなからうか。とかく孤独になりがちな高齢者にとって、趣味を通して多くの仲間と共に学び、語らい乍らより教養を身につけ、充実した生活を創造することは何と素晴らしいことであろう。

私は、いま趣味として家庭園芸の他、詩吟と日本画並びに俳画の研修にとり組んでいる。何れも六十の手習いで、数年来仲間とともに学び、良き指導者にも恵まれて、技術的な向上もさることながら、学習前後の語らいが、また楽しく、今では、けいこ日が待ち遠しいというのが実情である。勿論けいこ日以外は余暇を見つけて自宅で予習、復習することが技術的にも、より向上発展につながり、一層楽しみも増すということになり、生き甲斐となることは言うまでもない。従って暇をもて余すことはほとんど無いのが実態である。

前述の、私の「晴耕雨読」とは、このような内容であり、読

書の時間も思うにまかせず、図書館で借り出す一冊の本も二週間で見切れず、期間を延長してもらうことも屢々である。

当会報の原稿の書き方として「二度とない貴重な人生を、老大大で学んだ事を基礎にして……今どのように生きていくかを書くこと」と文章の内容の項で指示されているので、その意味では、この拙文は趣旨に当らないかも知れないが、第二に「可能な限り自己の生きざまを書くこと」という項に従って駄文を顧みずペンをとった次第。またこのような私生活を暴露するようなことになって赤面の至りであるが、何らかの参考になれば幸いと、敢えて依頼に依って紙面を穢す次第。

要は、暇をもて余すということにだけはならないよう、個性や能力に応じた生き甲斐として打ち込めるものを見付け、実行することが健康で長生きの秘訣ではなからうかと思っている。

私とスポーツ

十三期生スポレク科 藤井 尚一

今年古稀を迎えた。自分ではまだまだ若いと思っているので、とても古稀を迎えた気持にはなれない。昔は古代稀れなりと云

うことであっただろうが、近年では人生八十年代となり古稀もめずらしくなくなったが、一応元気で古稀を迎えたと云う点では非常に有難いことだと感謝している。

今年正月二日から、娘や長男夫婦、孫達総勢七人でハワイへファミリー旅行をし、二日間ゴルフを楽しんで来たが、これも健康でいられるお陰だと感謝している。私は子供の頃からスポーツがすきで何にでも挑戦してきたが、とりわけ剣道は十三歳のときから始め今だに頑張っている。そのお陰で三十歳前半に腎臓で半年、四十歳中ばに肝臓で半年、六十歳中ばに筋無力症と云う奇病で三ヶ月入院手術を受け四時間ばかりあの世へも行って来たが、すぐに元気をとりもどし剣道を通じて青少年の健全育成に微力をさげている。スポーツで鍛えて来たお陰だと有難く思っている。

人生八十年代になり最近盛んに生涯学習とスポーツを云われるが、私はむつかしい勉強はせなくても始終頭を使う事と、身体を動かす事が、健康の秘訣であると思っている。スポレク学科で、草川、吉川両先生から教わった体操やゲームやフォークダンスは非常にすばらしいものであった。卒業後は私達十三期生は、わすれないように又健康のため月に一回ずつ稽古をし、そのあと皆でお昼を食べながらなごやかに歓談している。その

お陰で老人クラブの会合の時にも体操やフォークダンスをやってもらい皆さんからよろこばれている。これからも自分の健康は勿論のこと、老人クラブの皆さんの健康維持のためことある毎にやっておもうと思っている。

卒業して

九期生陶芸学科 谷田 清信

老人大学を卒業してから早いもので早や五年になります。

其の間しばらくは胃を患っては入院生活も致しましたが今では至極元気で老人クラブ活動に励んで居ります。四年前から湖東町にプラチナハウスが設立されて陶芸教室も出来ました今日では多くさんの仲間と楽しく作陶に精を出して居ります。これも皆様との出合があればこそと感謝しながら今日の幸せ喜んで居ります。只心に残るのは二年間同じ車で水口作業所まで通った友達を交通事故で亡くした事です。小学校からの同級生なので一層惜まれます。

幾年続くか社会に貢献しながら陶芸の趣味で生きる。

このごろ

五期生文芸学科 真水 はま

滋賀県老人大学を卒業してから早や十年目を迎えます。

その間に、私は怪我をしたり、三回もお腹の手術をしたりして、入退院を繰り返しましたが、傘寿を迎えた今は、おかげさまで、月に一回だけ血圧の薬をもらいに通院するまでに回復しました。

日々、せめて人手を煩わす事の少ないようにと心掛けて暮らす中で、趣味の短歌の勉強会には、頑張って大津市まで出かけ、有志のみなさんと共に、伊藤先生の温かい御指導を頂いて、充実したひとときを過ごさせて頂けますが、何よりの幸せです。暫くの時を惜しみてくみかわす 老大の友みな健やけき

百まで頑張れるか

三期生文芸学科 北川弥一郎

去る一月豊郷病院で血液・血圧・心電図・超周波・胃カメラ等精密検査を受け専門医から現在九十一歳の私が七十歳位の健

康体であると話され健康に留意している私は一層自信を得て私の体験をご参考までに記します。

二十年前にラジオドクター近藤宏二さんの「長寿の一〇〇カ条」を手に入れ良い参考書です。私は健康長寿の三原則として励行しています。第一は食物で栄養と消化、腹八分、一日三十種、スタミナ食毎日赤黄緑の三色も。第二は血液の循環で全身摩擦指圧、適度の運動労働一日も欠かさず入浴。第三は深呼吸ねても起ても。毎日元氣楽しく健康長寿

卒業して

私とスポーツ

私コウツアはとも思っています。以て論のよう、主人もその者の入の賛成精神のたぬことある。ごきんがもらるるさるうおけする。ごきんがさき日代の戦車は類至き大をそでの会合の湖がは村對守にたてられんて今

善辭齋齋金を受け専門習ふ。其れは十七歳の長成子と弟の對

めまら一日豊隆齋齋の血氣・血君・心算圖・藤田文・買やみそ

は其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

三原主文書梓 北川夜一韻

百まう飯張林の心算圖

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

其れは白齋の心算圖・藤田文・買やみそ

会員だより

湖北支部

人間関係を大切に

十一期生スポレク科 堀田 肇

湖北に初めて開校された米原校で、全国的にもない「スポーツ・レクリエーション科」に於て、全国的に有名な元滋賀大学教授の草川先生と、吉川先生に二か年間学びました。

その中で、特にこの科を通して

○マナーの大切さ

○人間関係の大切さ

○知らない人への解け込み方

○チームワークの大切さ

などです。

この学んだことを、地域社会の各層に還元したいと日々努めております。

暮らしの一こま

十二期生スポレク科 西堀百合子

学生として一番楽しく人生の一ページとして忘れる事の出来ないのが老卒業。良き先生、良き友と出会い二度と繰り返す事の出来ない経験を沢山しました。自分も年毎に高齢化の仲間に入るのですが「もう年やであかん」という気弱な心を起こさず出来る事は生きている間又健康な時に奉仕することの大切さを知りました。

その為に生涯学習、趣味の講座や、ボランティア活動などに参加し多くの人々と接し自己反省をしながら、前向きな態度で元気な声で挨拶を交わし明るく健康な日々を過ごしたいと思っています。

老大の学びを終えて

十二期生スポレク科 小川 義一

生涯学習社会形成の気運の高まりをひしひしと身近に感じ、時代の波に乗り遅れないように、又人生に張合いと生甲斐を持つ

つ為に、滋賀県老人大学へ入学し、二年間の学習を終えて早や二年数ヶ月が経過しました。在学中には、諸先生から多方面に亘る有意義な講義を受け、卒業後はこの期間の学習成果を、地域に還元したいと言う意欲に燃えていましたが、いざ地域のボランティアに登録し、物事を人に教える段階になると、学習時の何倍もの勉強努力の必要性を痛感しましたが、最初から欲ばらず、地道に自分に出来る事柄から、少しでも地域の人達のお役に立てばと思っております。

作年老人大学もレイカディア大学と名称が変わり、母校が消え去ったような感じでしたが、大学での授業日には、ボランティアとして極力学び舎に足を運び、先生方の講義を聞き、又実技の指導を受けると同時に、現在勉強に励んでおられる在学生の方々との、ふれ合い、仲間作りの和（輪）に入れて頂き、心地よい汗を流して、自己の健康管理と研鑽に励んでおります。昨年草津には長寿社会福祉センターが立派に完成し、レイカディア大学も近代的な設備の中で、勉強する事が出来誠に喜ばしい限りです。湖北の地にもこのような施設の早期建設を、お願ひする次第です。

今自分で出来ること

十三期生スポレク科 林 秀子

老大を終えさせていたゞき今達者な者ばかりが集まって、休んで居られる友達を見舞ってボランティア精神に生きる老人クラブでありたいと思っています。

それから今さしあたって近所の子供公園の除草をさせていたゞくことにきめて月一回実行しています。いきいきと遊ぶ子供さん達の笑顔を見て、自分の健康のためにも、長くつゞけて行きたいと思っている今日この頃の生活です。

友会活動について

十三期生スポレク科 田部 芳造

卒業後間もなく一年半になります。私達は生き生きとして翔んでいる友の会「翔友会」を結成し、卒業後は毎月一回例会を開いています。場所は長浜市のサンパレスをお借りして十時に集合し午前中は「体操」「フォークダンス」「民踊」等在学中習ったものを復習しています。午後は皆んなで会食をして夫々

の近況等話しあったり連絡事項の伝達、翌月の計画などを相談します。先生も時々顔を見せて下さいます。この例会はとも楽しく好評ですからかなり続くのではないかと思っています。この外一泊旅行、日帰り小旅行も実施しています。

以上近況を披露します。

スポレク授業の或る日

十四期生 スポレク科 丸岡 武信

おっと、どっこい今朝も目が覚めた命があった心臓も動いている。空気も旨いお前は今日も生かされているぞ。キザな様様が手を合せ祈る今日はスポレクの授業日だ気の優しい私は一瞬たじろぐ、何故かと言うと運動神経が発育不全でスポーツは生まれてこの方不得手と自認しているからである。仲間がいるんだ何人とか成るだろう金魚の糞よろしく何とか付いて行こう、「スポレクは健康と良き人間関係を作るのが目的だ」と言い聞かせる。今日は良い天気だ単車で行こう大きい四ツ車に遠慮しながらガタゴトおんぼろ車に鞭打ちながら走る。授業は四季の体操から始まる、位置がまづい、草川先生の前だ「間違ったわ

ネ前から回すのヨ」と笑顔の声がくる、フォークダンスで先生がパートナの折り「この傾リズムに乗って来たわネ」と、その言葉ホント！スポレクの劣等生にとって晴天の霹靂だ、人生にパット光が差したような一日であった。快い額の汗をかきながらこれからも頑張るゾ！

平成五年を省みて

十三期生 スポレク科 青山 敏雄

老大を卒業して一年半が過ぎました。昨年は自治会長として地域の活性化と、ふる里作りを目指して多忙で充実した日々を送ることが出来ましたが、町の老大OBや在校生の皆様から温かい御声援を頂いたことが大きな励みとなったことを感謝して居ります。私達の十三期スポレク翔友会は恒例となっている老スポレクのボランティア活動に参加する他、毎月一回長浜のサンパレスでいゝ汗かいて旧交を温める例会が習っています。六月下旬には沖繩の渡鹿敷島で実施された十四期生の三泊四日野外研修に参加しハードスケジュールの中で素晴らしい体験をさせて頂いた想い出が強烈な感動となって蘇ってきます

す。草川、吉川両先生有難度う御座いました。時間的に余裕が出来た今年は町のクラブ活動や、新装なった芝生の公園でグラウンドゴルフをしたり老大OBの皆さんと毎月米原校周辺の清掃作業に精出することを楽しみにしています。

スポレク学科に学んで

十三期生 スポレク科 藤田繁喜興

すがやかに老を学びて淡海に韻きあいつつ明日をひらかん。老大生として入学したからには、二年間を無事出席をし、仲間づくりと多くの友達と共に良き汗をかいて頑張りました。

男子十一名と女子八名の素晴らしい友人が卒業されそれぞれ地域の発展のために頑張っておられます。

私も卒業後は、長浜市八幡中山町サンパレス長浜市管理の集会所の一室を当番制にて責任者を決めて、毎月一回、十時から在学中に習った、体操、フォークダンス等その還元に努めています。

陶芸に寄せて

一期生陶芸学科 藤居 趣門

老人大学第一期生として陶芸を学び、卒業後も気のむくま、に今も暇をみては自分の窯(ガス)で焼き続けている。その魅力は何と言っても「土から「命」ある器」へと変ってゆく姿に魅力を感じるからだと思う。釉薬の調合と土、そして熱と時間によって様々に色に変化する。この釉薬と土、そして熱と時間の組み合わせによって一つの「命」の誕生を見る様な気がする。その「命」との出合いと感触は亦格別である。手造りの温み、これを生活の中に用いることが出来れば「これで好し」としている。難かしいものを無理に造ろうとは思はない。無心に土と付き合い、土から使うものにしてゆく。又、それに与えられた「命」と共に自分の生活の中で身近に付き合っってゆける豊かな存在が陶芸をたしなむものの魅力ではないかと思っている。限られた紙面で陶芸に関する愚老の一端をのべさせて頂いた次第である。

生涯学習

一期生生活学科 中森志ずの

今年米寿を迎えました。足が少し痛いですがお陰様で元気で
山東町老人福祉センター三島荘で学習に励んでおります。

三島荘では十一の講座が開かれています。私は詩吟、民謡
古流、カラオケと四つの講座にはいっています。ありがたいこ
とにセンターのバスで送り迎えをして下さいます。みなさんと
色々おしゃべりをしたり、新しい演歌を歌ったり年のことを忘
れ楽しく受講しています。月一回の講座が待ち遠しいです。九
十歳以上の方が三、四人おられます。これからも生き甲斐の一
つとしてがんばり続けて行きたいと思っています。

みのり多いふれあい

九期生生活学科 清水 満子

私の余生をいかにして少しでもお役にたてたいと思いつゝ顔
も声もスタイルまでも悪い私、良い点が見つからない、どうし
よう、悩んだ末、先づ手始として手品らしい種を五ヶ程持って

誘われるままに施設を訪問いたしました。私の出番だドキドキ
しながら勇気を出してステージへ！ 意外や意外、受けたので
す。単細胞の私はうれしくなり、次回からレパートリも増し、
新舞踊を組み入れ、実行した処、素人の老人である事が心温る
伯手を呼んだのでしょうか。私は痴呆老人予防のため、お声がか
ければ喜んで何処へでも出かけて行きます。

卒業後の私

十三期生生活学科 百々 久子

老を卒業して二年が経ってしまいました。卒業後も老への
憾しさにひかれボランティアとして授業の準備等を手伝って
います。老で知り合った人達とその後もおつき合いをしショ
ッピングをしたりお昼を一緒に食べたり各自が行っている活動
の話の聞いたり楽しい時間を過しています。さまざまな経歴
の人達の話は私自身の活動の励みにもなっています。

このような友人と共に昨年からは赤十字県民大学へ月一回通
い、部長先生の講義に自らの老後を考えさせられる事もしばし
ばです。先ずは老化防止のため手先を動かし、頭を使うよう心

がけようと思います。

幸い車の運転が出来るため、これからも色々な会合に参加し皆様から教えて頂いた事を心の糧として楽しく過ごしていければと願っています。

すばらしい友

十三期生生活学科 吉田まさる

卒業後は老大で出会った友達と三人で、昨年四月より赤十字県民大学に通っております。

年間十回にわたり、病気に対する知識や、菓の知識等について、院長先生をはじめ、各科学長先生よりとても有意義な講話を聞いております。

その度ごとに平和堂を散さくしたり、昼食を共にして楽しいひとときを過ごしています。

また、老大のボランティアの当番も三人が必ず一緒に行き互いにふれ合いを深めております。

老大へ行ったおかげで、すばらしい友達に出会えたことを心より嬉しく思っています。

整枝の練習

十一期生園芸学科 田辺 一

この枝、切るべきか？盆栽を始めた頃は、一本の枝でも切るのが恐かった。根も切ることができなかった。鋏をもつ手がふるえたほどだ。

先生の鋏は「魔法の鋏」だ。考える余地なくどんどん切り進んでゆかれる。残すべき枝をちゃんと心得ておられるからだろう。そうだとわかっていながら、最近、私はわからぬままに枝を切ることにした。根はバサツ、バサツ、枝も原形を留めない位だ。まるで盆栽は生きている。切っても切っても大丈夫ということが、最近ようやくわかってきた。

近ごろの我が家のミニ盆栽は、裸同然だそれでも寒風に耐えている。もうすぐ春だ。

暖かくなればきつと気に入った枝がでてくるだろう、と心待ちにしている。

生涯現役

十二期生園芸学科 北村 憲一

余生という言葉があつて、毎日が日曜日という人もあるようであるが、農村に生きる我々には、元気で動けるうちは現役で定年はない。

今でも老夫婦が鋤頭、現在九反の田圃を耕し、その傍ら町社協・老人クラブ・お寺の役員として動き回り、そのうえ盆栽とお世辞にも言えぬ鉢植が二百余り、一年三百六十五日が五百日程あればよいと思える程忙しい日々を送っている。それだけ毎日することがあつて、それが出来るということは何んと有難いことであろうか。命ある限り生涯現役ということに頑張りたいと願っている。

十二期生園芸学科 川崎重兵衛

人生八十年の時代、丈夫で長生きする為には趣味をもち多くの知遇を得て交流することが大切と云われています。老心に学

び人生経験豊富な人々との交わりが出来、折にふれて旧交を温めています。老卒業後も市老ク連、趣味の講座園芸教室に通い盆栽作りを学ぶと共に又、新しい出会いが出来ました。

健康保持に最適と始めたグラウンドゴルフもクラブの設立から参加をさせて頂だき既に四年余、会員も二百余名となり、好天の日は皆様と共に談笑し乍ら楽しく競技をし地域の交流には最適でお付合いの輪は益々拡がるばかり、心豊かな健康づくりをと一生懸命頑張つて居ります。

老卒業後の第一歩

十四期生園芸学科 吉田八十郎

私はこの大学で、校長先生を始め諸先生方の良き指導のお陰で、平成五年九月三十日に卒業させていただき誠に有難とうございました。

充分な智識は得られないうえ、でしたが、地区老人会の為に協力出来る事はないかと考え、同じ園芸を学んだ級友先輩の力も借りて正月用寄植松竹梅を思いつき、皆さんと共に学ぶことをモットーとし、希望者に植えて戴きました。多くの方から大変

喜ばれたので毎年続けて行く事としました。しかし「植えたいのだが」費用が…との意見もあり、県と町からの補助金の必要性も感じ、予算化して戴き広めたい。

私の心境

六期生文芸学科 藤井 峯子

私は当り年の新春を無事に迎え皆んなに祝福されよなき倅せ者と喜ぶと共に目に見えぬ仏祖の御加護有りてと報恩感謝申します。どこか心に励みを感じます。しかし明日の日も知れぬ寿命を思う時思い切り趣味を楽しみ生甲斐とし今年こそ我子娘姉妹とも出逢いを多く親交を深かめ度いと一日一日を一期一会を大切に他人に優しく春風を己を制し厳しく秋風をと悔の無き様反省し生きて喜ばれ死して惜まれ常に慕われ老卒のプライドを汚さぬ様「沈思黙考」を心し健康をモットに楽しい日々を送り度いと念願します合掌しつゝ。

愚作 愚痴話す亡夫は在まさず春淋し

幸

六期生文芸学科 庄部庄太郎

幸福という額縁があるのに私には中身がなかった。ずうっと百姓だけで暮してきた気まずさはどこから来るのだろう。

特に、とりたてて意識はしていないつもりでいて、それでもまだたきれぬ引け目があった。その悲しみを捨てきれずに、こんな私にできることをかみしめたくて愛妻とはげましあつて湖北の地から大津まで通って老人大学の卒業証書を手にすることができた。

夢みたものはひとつの幸福、ねがったものはひとつの愛。それらはすべてここに絶えずよみがえる幸せがある。

灯下親し老大の葉を読み返す

卒後の生きざま

十期生文芸学科 阿部 久治

冬の湖北はやはり厳しい。外は今冬二度目の大雪でこんこん

と風花が舞い注いでいる。

郡の大浜役員さんの勧めでとに角ペンを執りました。思えば早いもので老を卒え早や六年、時折り開催の文芸クラス会も最近は途絶え勝ちで、今年は是非逢って久闊を叙したい。昨年の老大総会は、新築成った校舎であり、又同窓生の力作を拝見して感銘致しました。私も辺遠の産搬入搬出に御厄介をかけてもと思い、つい出展しなかったことを今も残念に思っております。次回は出展してと楽しみにしております。

老大卒後の私は、お陰様で健康に恵まれて、恩師の三原研田先生の停雲塾で書を学び又、朝日歌壇を通して伊藤雪雄先生に短歌を習いおります。これも私なりに、生涯学習と交友の場と存じ何とか続けております。町や自治会等の文化祭には、作品を出させて貰っていますが未熟者のこと、グループ活動の育成等は今はとても無理なことです。老人会活動、老人ぼけ防止が積の山です。たゞ自作の額や軸が増え、折にふれてよむ短歌も増え私の日記のようになって来ました。

さて、去る二月十一日には、恩師の三原研田先生の地域文化功労章文部大臣表彰受章の記念祝賀会が、大津の鳩の浜荘で盛大に催されました。私も多くの書友と共に出席させて戴きましたが、おめでたい限りと深くお慶び申し上げます。

当日は、鎌田県老人大学校長、大田県書道協会理事長ら多数の御来賓から祝詞があり、また、先生の講演もあって論断風発、国士の風格が顕われてすがやか、書道のみならず人生のよき指導者として、文化の滋賀育成のため益々の御活躍を希求するところです。

若者の共働きを成功させたい

十一期生文芸学科 辻 昭二

定年退職して早や七年目になりました。翌年老人大学校に通いこの二年間で多くの友人との絆が出来たことは何よりの幸せでした。家庭では孫が生まれ「おじいちゃん」と呼ばれる様になりました。六十歳で老人クラブに入会し感じたことは長寿社会の今日男女の寿命は依然女性が優位です。クラブの構成も六割以上が女性で示めております。そして息子夫婦との同居されている家族では若者の共働きが断然多いのです。この共働きを円満に成功させる秘訣はどうすればよいのか男と女との立場を皆さんどう思いますか、ずばり述べておられる方は、作家の「樋口恵子」女です。一日の仕事を終えて吾家にたどりついた時

息子にとっては温かい「窓の灯」はやはり心の安らぎをもたらすだろうありがたい存在です。「女房は帰って来ているな」「今夜のメシは何だろう」「子供達は元気かな」男はそう予感し窓の灯を見ると「ホッ」とするのです。一方嫁は残業に追われて矢の如く帰心を表に出すことも出来ずそれでも他の人より早く飛び出したがもう外は真暗「保育園の子供はおばあちゃんを迎えに行っただろうか」「なんとか夫より早く家にたどりつき夕食の支度をしたい」吾家の窓の灯を見ると「ホッ」とする言い換えれば「ドキッ」「いけない」「しまった」と思うのです。嫁には夫の不機嫌な顔、両親の冷たい仕草が頭の中に浮かんでくる。「何時までも何をしているんだ」の小言が飛んできたらどうしよう嫁は胸に早鐘が打つのです。長い歴史の中で作られた行掛りや慣習を捨て、男女の役割を改めて早く帰った者が家事をすればよいどちらが早く帰っていようと吾が家の灯がついていれば「ホッ」と安心出来る家庭を作り出さねばならぬと思います。もし年寄との同居家庭こそ、私達老人は息子嫁に対して「ご苦労さま」でしたと温かく迎えるべきでしょう。私達高齢者の立場を家庭内にしっかり位置づけ乍ら息子嫁家族の一人一人にきちんとした「躰」をすべきでしょう。

出口恵子 出 会 い

十二期生文芸学科 金森 嵩

出会いも色々あるものだ。字でも、会う、合う、逢う、遇う、遭うなどあるのを見ると会い方も違うのかも知れない。若い頃ふと出会って友人になり今もお続けているのがある一方絶えず逢っていても心からの友人になるのは難しい。幸いにも老大会えた人とはよき友達になり得た。それは人生を充分体験した者のな何かを求める前向きな者の動きだったのかも知れない。老けてくると冬眠の熊のように引き籠りがちなものだが、老大のお陰でお互いが何十年もの友人だったように不離の関係にまでのもり込んだから不思議全く縁とは異なるものである。私自身二ケ年の課程を真剣にこなした。また全員同じ想いだったに違いない。この年齢にして始めて習うこともあり楽しい日々だったのである。在学中に会をつくり三千元の月掛を始め今なお二ヶ月に一度位会食、学習会、旅行を続けているが、六十の手習いの傍温めた友情はよき姿で生涯離れないだろう。一面識もないものが同じ目的で集まり心と心が触れ、そしてサイクルが合った。また時間の経過で溶け合い分離できないカクテルや合金が出来たのかも知れない。このよきグループの出会いを感

謝しながら変らぬ友情を生涯続けて行きたいものである。

雑感

十四期生文芸学科 武田 久雄

「年を重ねることは体験を重ねること知恵を重ねること老いは人格形成の為に人間に与えられた最後の時」と料理研究家飯田深雪さんは著書に書いておられる。年老いれば健康で生きたい何の気兼ねもせず暮らしたい、気持ちは若く保ちたいと願う人間誰しも五十歳半ば迄は何もしくなくても体調は保てるがそれ以降努力なしでは健康維持はむづかしいとも云われている。趣味を持つ。ジョギングなどで体力作りをする。頭では分っているが中々実行が伴わない。人は誰しも人の事など構ってはいられない、いや構う余裕がないのかも知れない。要は自分から飛び込んでゆき、生き甲斐を自分なりに求めるより外にないだろう。平成五年老を卒業させて頂きま新ためて思うことは、よき恩師に恵まれよき友を得たことである。この出逢いを生涯大切にし二ヶ年学習させて頂いたことを続けてゆくと共に人格の向上を目指し人間形成を成し遂げたい。

近詠二首

一、体調の悪しきか今朝は黙しゐる厨に妻の目薬があり
一、霧雨に羽毛光らせ落穂食むコハクチョウ幾つ限りもあらぬ

グループ活動

友と喜びを分つ日々

十二期生生活学科 宮沢ます江

戦中戦後を体験した私たちが六十歳を過ぎて漸く心身共にゆとりができた頃老人大学に学びすばらしい出会いとよきお友達ができました。心と心のおつき合い、それは競争の人生から離れた深みと潤いのあることをつくづく感じました。卒業後も出会いを大切に私たち十二期生生活科九名は同期の南院さんの指導のもと年四回南院さんか私の自宅に集まり押絵や小物等を習い十二支も申、酉、戌と作り他にも可愛い小物から羽子板などもでき次々と夢も大きく楽しみです。この外時には湖北の観音めぐり、長浜の萩寺、ガラス館等の散策もしましたがこれから足を延ばし近江の歴史探訪と趣味を広げたいと思います。亦折角老大で教わった手芸もそれぞれの地域で活用されていると思います。私たちが町内の皆さんと一緒に作り一人暮、寝たきりの方々へプレゼントとし保育園児には残り布を利用した鈴入りの可愛いお手玉を作り園児と交流なども楽しみの一つです。

老人クラブの方々にはちりめんの残り布で小物の作り方を習ってもらい和気あいあい昔の話政治の話もとび出します。出来た作品はみんな大喜びです。今後先生や友達の皆さんに感謝して身体の続く限り、ボケ防止とふれあいの多い生涯を送りたいと願っております。

十三栄会の俳句教室

十三期生文芸学科 村上 善富

私達十三栄会（老大大十三期文芸学科）十九名は卒業後早や三年目になります。老大大卒業時に共に学んだお互の縁を大切に続けたいと月に一度の俳句教室を続けることになりました。今では皆が月に一度の遇う瀬を待ち兼ねております。

全員十九名を地区毎に四班に分けて三ヶ月毎に当番を受け持ち全員が参加出来るようになっております。即ち当番は各人の俳句を纏めてコピーをし会計と吟行会の計画から実施完了まで一切を担当します。各班は出来るだけ地域毎の特徴を生かして楽しくしかも出来るだけ経済的な計画を組み安全で楽しい吟行会の遂行を図ります。

俳句教室では俳句を通して再びお互に共通の思い出を楽しく味わっております。又時間があれば先生の出題にその場で挑戦することもあります。

ご指導下さる先生は老大で二年間ご指導頂いた中川いさを先生に引き続きお願いを致しております。俳句教室は米原町の公民館々長のご好意により月に一回ご厄介になっております。

これまでの吟行会では、余呉湖畔、彦根城―多景島、奥琵琶湖、保津川下りと工場見学、小谷城―菅谷温泉、八幡水郷めぐり、比叡山めぐり等があり、お陰様で色々の名所旧蹟を心ゆくまで研修させて頂き、とかく引き込み勝ちな老後の人生に「活」を入れることが出来たことは、誠に有難く有意義であったと思っております。

今後共益々の十三栄会の発展を切に望むものであります。

身も心もいきいきと

十三期生 スポレク科 中川志げ子

十四期生 スポレク科 十田 対夫

北は木之本、南は草津から男女十八名が同級生として米原校スポ・レク科で学び大変充実した二年間を送りました。そして

得たものは、いろいろな知識と級友との深い友情です。卒業と同時に別れてしまうのは、あまりにも名残り惜しいということ、卒業以来毎月欠かさず月例会を開いております。午前中は体育館で在学当時に習ったフォークダンスや民踊に快い汗を流し、昼食のあとは近況報告などのおしゃべりに花を咲かせています。この間先生にも二度程おいで頂き、ダンスの講習などしていたゞきました。

また、月例会のほかにも、各地区当番制で一泊旅行、日帰り旅行、忘年会、新年会等、次々と旧交をあたゝめる機会も度々で在学中より賑やかな集い々になっている有様です。

話はかわりますが、長浜市街地にはスポ・レク科の卒業生が三名おりますので、老人クラブの総会や福祉大会の折には婦人部活動の一環として、フォークダンスや集団演技などの披露もいたします。女性会員はもとより、男性会員をパートナーにお願い致しますが、始めは尻ごみをしていた方も一度舞台へ上ると興にのって来て楽しく踊って下さいませ。

学校で習ったことは、卒業後も機会のある毎に地域で広めてほしいとの先生の御意向でもありますので、至らないことばかりですが、地元のみなさんに還元していけたら仕合せと思っております。どうぞ先輩のみなさま、御指導をよろしく願います。

住みよい町を目指して

十四期生園芸学科 土田 秋夫

最近、生涯学習が喧しくいわれています。高齡者も目まぐるしい社会の変革と、多様化するニーズに追隨できる智識や技能の習得や、培われた経験や趣味を広く地域社会に還元していくことがその目的であると思いますが、少しでも多くの人に歓こんで貰える、そういう町づくり、それが私達レイカディア大学OBに課せられた使命ではないかと私は考えます。

私達米原地区OB、数人の有志により手近いところで何か出来るかと考えた結果、文産会館や免許センターへ通われる歩道附近を、何時も気持ちよく通ってもらうために、月に一回集まって清掃しようということになり、空缶の収集、ゴミ拾い、植木の手入れ等始めてから数回になります。用具は公民館で借用し、集めたゴミは所定の所へ集積して役場職員に処理して貰うということで協力体制もできて今後共継続していくつもりです。一寸でもいい、できることをさして戴くことが有難く、生き甲斐を感じさせられます。

私達の地域でも高齡化率が十八%を越えて、元気な人達はゲートボールや、趣味の会で張切って活動しておられますが、虚

弱老人の方々は、社会活動もできず家に閉じ籠り、寂しい日々を送っておられるのに思いもはせる時、そういう人達に生き甲斐を持って貰うためにどうしたらよいだろうか、高齡者がお互いに支え合って生きる社会、核家族、昼間独居の人への対応について、民生委員とボランティア代表者が集まって、そういう人達へ友愛訪問や家事援助、介護等ということが、どの程度ならできるか検討する会を昨年暮に持ち、これから具体的な対応や組織づくりについて取り組むことになりました。住んでいて良かったといわれる地域社会を築くためにこれからも頑張っていききたいと思っています。

皆さんのところで、こんな活動をしているとか、こうしたらという御意見がありましたら、是非お知らせ下さい。

会員だ より

高島支部

老いらしく老いる

十四期生生活学科 松下 芳子

永年の私の懸案であった離れの物置部屋の大整理を、元気なうちにおかねば……と、ある日急に思い立った。何から始めようと思案する私に、二階の一隅にいつの頃よりか大きく場所をとっている、古びた一つの柳行李が目に入った。持ち上げるとは随分と重たい。早速蓋をとって見ると、中身は全部木綿のきもの類であった。母が片付けたものに違いない。祖母の手織りと思われる縞の単衣物、母が着ていた記憶のはっきりと残る紺紵、一枚は私が子供の頃着た覚えのある赤い花柄の紵、父の白紵もある。洗いざらしたものは言え、皆きちんと畳まれて、一ぱい詰まっていた。古いものは容赦なく捨てようと、かたく心に決めてとりかゝった事なのに、どうしてどうして、之は絶対捨てられない。どれも思い出のあるものばかりだ。それ

にリフォームすれば素敵なものになりそうなのである。たゞみ直して皆行李の中に戻した。そして母の姿を今の私に重ねて見る。母はお針好きだった。いつも何やら縫っていた。母がしていたように私も暇を見出して、いろいろ作って見たいと、思いをめぐらせている。祖母がいて、父母がいて……、遠い日の思い出が、私の手によって違ったものとなって甦える。これがリフォームする何よりの楽しみだ。しかし柳行李一つでさえこの調子では、果してどれだけ不要品として、捨てることができるか、何でも大事にしまい込み、使い捨ての出来ない私には、大整理など到底覚束かないようだ。

この冬、私は老いらしく老いてゆきたし日向ぼこ 芳子
という拙い句を詠んだ。

老という字には、おいぼれる、つかれる、としより等々の他に、経験を積んで熟練すること、という意味のあることを漢和辞典で知った。

戦中あり、戦後あり、物の貧しい時代から豊かな時代への変遷にも順応しつつ、私なりに七十余年をたゞひたすらに生きてきた。その経験を貴重なものとして、老いらしく老いてゆきたり、前向きも大事だが、来し方をかえりみるだけの心のゆとりも欲しい、こんなことを願う私に、ふと授った一句なのである。

清貧に生き、晩年を心豊かに過し、八十三歳で静かに世を去った母のように老いてゆきたいと、願っているのかも知れない。老少不定、いつまでの余生かは知る由もないが、めまぐるしい世相に振りまわされることなく、老ふたりの平凡な生活を、これからも大切にしたいと思う。

近況

十四期生園芸学科 川島 義一

一月は暖かかったのか梅も早く咲き終り今また遅咲きのよい梅香がたゞよう、先日町盆梅展に出品したが昨年と比べ一段とよく出来た事を自分ながら感心している。サンシュウ、黄梅のつぼみもふくらんで来た。

趣味を同じくする良友に出合った喜びは終生忘れる事が出来ません。

レイカディア大学OBとして生甲斐を創出し得る能力を開発するため自己研鑽と技術習得の自主学習会や親睦会等に積極的に参加することを申し合せ去る一月二十一日に嶋岡先生宅で第一回の学習をし、次回三月二十五日を楽しみにしています。

高齢化社会を迎え生涯学習が叫ばれ続けています。頭をぼけさせない為にも四季の草花、盆栽の世話を通じ今後心身共に健康で生きがいを求め身につけたものを地域社会のため少しでもお役にたてたらと考えています。

—今ださめやらず—

十四期生文芸学科 角井 操

卒業して早くも六ヶ月が過ぎた。しかしあの充実した二年間の「ねつ」は今ださめやらずにいる私である。

三十一文字の不思議のとりことなりました私は、このまま短歌と縁を切ってしまう事が出来なくなってしまい、どうしたものかと考えていた。ところが、学友達の多くも同じ事を考えていて意見が一致。お忙がしい山村先生に無理をお願いし、続けて教えを受けられる事となった。名称を「癸酉みづのとりの会」として……

二年間、微に入り細にわたって教えられた講義が、今少しづつ身につけ始めたのか「みんななかなかうまくなってきたなあ」と、ほめられたり、おだてられたりしながら、月一度の勉強会

を待ちかねるように、大津の集会所にむかつていくのである。

○早春賦流して予報はじまりぬ

国境の山猶し白銀

一方、ひらがなの魅力にとりつかれた私は幸せにも地元の先生について週一回の指導をうけられるようになった。

「これからが出発と考えていって下さい」と卒業の日に言われた三原先生の言葉通り、最初からじっくりやっていきたい、字を書いている時のあの静けさ、楽しい気持、幸せな気分は、時に「ゼイタク」な時間だと思ふ事さえある。

あの美しい曲線の流れ、かすれ、等々苦闘は多いけれど、「筆を持ちたい」と思う日頃なのである。

私はマネージャー

十四期生文芸学科 清水 豊

五十代後半から呆け防止にと妻が日本画を習い始めた。茄子や南瓜の写生から風景へと筆が進み、次第に行動範囲も広くなって、私は運転手に駆り出されることになった。琵琶湖一周や、

鯖街道を四季を問わず写生ドライブする内に、今まで目に付か

なかった大自然の営みや深みが心の鏡に写るようになって来た。

老大で初めて短歌と出逢い、自然観察の仕方を山村先生より手取り足取りご指導を受けたことが肥やしとなり、思わぬところ

で感性が引き出されてきたのであろうか。同じ安曇川の河原に佇っても真夏の川と、雪に埋もれた川の余りの違い……。初

めて見る若葉一色の今津の処女湖は神祕の極限、片や錦繡で装った秋冷の処女湖は、絢爛の一語。暫しは神様の造形の妙に酔いしれる。

悠々自適の身分ではないので、農繁期の合間を縫って行動せねばならない。写生の他に展覧会へ目習いに行くことも、大事な勉強の一つである。いつしか私も絵の世界にのめり込んでしまったのであろうか。筆こそ持たないがモチーフを探したり、構図を練る時は、妻と共に無い知恵を絞り切るのである。

夢は大きい方が良いと、此のたび八十号のパネルを作った。襖ぐらゐのサイズはある。真っ白いキャンパスを眺めて、さまざまな夢を膨らませている此の頃である。

藤樹文化を拓く

十四期生園芸学科 多胡 利美

晴耕雨読の農業者。花と緑の園芸農芸三昧の日々である。園芸農芸の文化を自己だけの楽しみを追求する生活とせず、広く地域の仲間との共働共演の中で自然の賛歌感動を共感するよう努めている。自治会長（区長）、農業委員、基盤整備委員、氏子総代、檀家総代などをしながら地域づくりのための緑の下の力持ちとして、汗を流している今日この頃である。

地域づくりの一環として、花と緑の美しい環境づくり文化づくりに地域の仲間と精進努力を続けている。

一、緑っぱいの町づくり

地域の環境や修景美化のため広場や神社周辺に桜や楓を多数植樹したり、道路沿いに四季それぞれの花パンジー、サルビア、葉ボタンを植えて街並の美化に努めている。地域の自然と人間の手づくりの美の演出はドラマであり感動であり、活性源でもある。高齢者の仲間にとっては地域奉仕作業は生甲斐と連帯感を深める好箇の場である。藤の苗木を栽培し将来は藤の花房が咲き誇る藤棚のある修景づくりをしようと準備が進められている。

先日、この努力が評価されて滋賀県知事表彰を受賞したばかりである。

二、花っぱいの文化づくり

藤の花は華麗で、花の盆栽としては最高である。その集団美の醍醐味は格別である。藤祭には町民が丹精込めた藤の花が五、六百鉢飾られ花っぱいの美の演出に多くの町民が歓声をあげ感動を新たにしている、藤祭は花の祭典であるが、藤樹に因んだ書画作品演劇や音楽など多彩な発表演芸もある。安曇川の特長を活かした藤樹総合文化の花を咲かせるイベントとなっている。年々歳々作品演技は質量ともに向上の一途をたどっている。

藤の栽培技術講習などをして老犬の成果を披露しているところである。同好会研修の世話人となり、その普及活動に努めている。

三、心を培う仲間づくり

郷土の先哲藤樹先生の遺徳を顕彰するために藤祭が盛大に開催され、町民の多くが藤樹先生を深く親しみ敬慕するようになった。有志で「藤樹さんに親しむ会」を作り、著書「鑑草翁問答」などの輪読会を毎月開催している。読後感を話し合った。現代の意義を考察したりして、相互研修を深めている。根幹

をなす思想は人間主義であり、その実践哲理は庶民の共感を誘うものであることを今更ながら発見したところである。混迷混沌の現代に生きる指標となる哲理に魅了され研修に傾注する人も多い。

仲間は町内各層から集りお互に心を耕し器量を磨き合いながらこの研修を深めている。心の文化を更に広げたいものである。

今年の御題「波」献詠

春の日に湖辺に咲ける藤の花

金波銀波の残照に映ゆ

No.	氏名	年齢	性別	職業	住所	備考
1	山本 隆夫	78	男	無職	大分県中津市	
2	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
3	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
4	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
5	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
6	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
7	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
8	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
9	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
10	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	

日吉マッコ

唐崎ブロック

No.	氏名	年齢	性別	職業	住所	備考
1	山本 隆夫	78	男	無職	大分県中津市	
2	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
3	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
4	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
5	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
6	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
7	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
8	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
9	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	
10	佐藤 隆夫	73	男	無職	大分県中津市	

平成6年度 定期総会 次第

項目	時間	内容	場所
1. 開会のことば	9:00	開会	湖北支部
2. 国歌斉唱	9:10	国歌斉唱	湖北支部
3. 黙 禱	9:15	黙禱	湖北支部
4. 同窓会憲章朗読	9:20	同窓会憲章朗読	湖北支部
5. 会長挨拶	9:25	会長挨拶	湖北支部
6. 感謝状贈呈	9:30	感謝状贈呈	湖北支部
7. 来賓祝辞	9:35	来賓祝辞	湖北支部
8. 議長選出	9:40	議長選出	湖北支部
9. 議 事	9:45	議 事	湖北支部
第1号議案	10:00	平成5年度事業報告及び会計報告	湖北支部
第2号議案	10:15	平成6年度事業計画及び予算案	湖北支部
第3号議案	10:30	同窓会会則等の改正について	湖北支部
10. 講演	10:45	「人生航路80年共に生き共に生かされて」	長浜市民交流センター 所長 三原栄一氏
11. 前会長退任挨拶	11:00	前会長退任挨拶	湖北支部
12. 閉会の言葉	11:10	閉会の言葉	湖北支部
13. 昼食 (解散)	11:15	昼食 (解散)	湖北支部

担当支部 (湖北支部)

平成五年度 事業報告

4月26日 支部長会 総会について・会計監査・役員人事等について

4月26日 役員総会 平成5年度事業について

総務・研修・広報各部会

6月22日～26日

海外研修旅行 中国旅行 北京・万里の長城

9月6日 同窓会 県総会 長寿社会福祉センター

11月22日 国内研修旅行 京都三千院・銀閣寺・植物園等

平成六年度 事業計画(案)

4月20日 役員総会・役員人事・会計監査

総務・広報・研修部会

5月16日 研修部会(研修部事業・研修旅行等)

6月2日 総務部会(総会・事業計画予算等)

6月16日 役員総会(総務部・研修部・広報部)

会報第12号発刊作業

7月11日 定期総会 長浜 浜湖月 担当 湖北支部

8月26日 国内研修旅行 祭博 三重

9月3日 公開講座「近江の都」近江が日本の中心であっ

たとき 邦光史郎 氏

9月14日～19日

成果展(同窓会・大学合同)

10月3日～10月7日

海外研修旅行 中国旅行 香港・桂林・広州

(湖北支部)

平成5年度 同窓会会計収支決算報告書

(単位:円)

収入の部		支出の部	
会費	992,000	報奨費	150,000
前年度繰越金	917,858	旅費	6,820
通帳利子	1,773	会議費	77,540
雑収入	5,000	総合活動費	20,000
		慶弔費	26,024
		役務費	42,910
		需要費	721,087
		次年度繰越金	872,250
合計	1,916,631	合計	1,916,631

上記のとおり、ご報告致します。

平成6年4月20日

森安孝子 ㊟

監査の結果、収入支出ならびに帳簿等が正確であると認めます。

平成6年4月20日

中田芳雄 ㊟

田井中元一 ㊟

平成6年度 会計収支予算 (案)

(収入の部)

区 分	本年度予算額	前年度決算額	摘 要
会 費	1,163,000	992,000	1,000円 × 1,163人
総 会 費	320,000	0	2,000円 × 160人
繰 越 金	872,250	917,858	
雑 収 入	4,750	6,773	預金利子 他
合 計	2,360,000	1,916,631	

(支出の部)

区 分	本年度予算額	前年度決算額	摘 要
報 償 費	150,000	150,000	講師謝金 その他
旅 費	50,000	6,820	役員会旅費
総 会 費	410,000	-	
食 料 費	350,000	-	総会弁当及び飲物 × 160人分
賃 借 料	60,000	-	会場借り上げ料
会 議 費	80,000	77,540	
食 料 費	80,000	70,140	役員会 1,000円 × 20人 × 4回
賃 借 料	0	7,400	
研 修 活 動 費	1,200,000	717,500	総務 100,000円
助 成 費	0	20,000	研修 300,000円
広 報	0	697,500	広報 800,000円
慶 弔 費	30,000	26,024	
事 務 費	90,000	66,497	
通 信 費	50,000	42,910	
印 刷 費	10,000	0	
消 耗 品 費	30,000	23,587	
予 備 費	350,000	0	
合 計	2,360,000	1,044,381	

平成6年度 滋賀県レイカディア大学同窓会役員名簿

役職名	氏名	住所	〒	☎	備考	
会長	安倍 勉	近江八幡市	523	0748-37-7011		
副会長	森 量海	長浜市常喜	526	0749-62-3910		
支 部 長 理 事	高 鎌田 成治	高島郡安曇	520-12	0740-32-3009	総務	
	島 横田三千太郎	高島郡高島	520-11	0740-36-0646	研修	
	大 下司 清	大津市際川	520	0775-25-0713	研修	
	津					
	湖 藤本 龍三	草津市野路	525	0775-62-4732	総務	
	南 中村 勝一	守山市吉身	524	0775-82-3471	広報	
	甲 島田寅次郎	甲賀郡水口	528	0748-62-2435	研修	
	賀 真鍋 光徳	甲賀郡甲西	520-32	0748-72-1996	広報	
	湖 野沢 政次	蒲生郡日野	529-16	0748-52-2551	広報	
	東 木俣 信一	蒲生郡安土	521-13	0748-46-5010	総務	
	近 小川 常三	近江八幡市	523	0748-37-0606	総務	
	八 村井 繁	近江八幡市	523	0748-37-0869	研修	
	彦根愛犬	野中 正	彦根市平田	522	0749-23-3387	研修
	西堀 嘉一	愛知郡湖東	527-01	0749-45-2216	広報	
湖 秋野 昇	東浅井郡虎	529-01	0749-73-2644	総務		
北 松下 保清	坂田郡米原	521	0749-54-2395	研修		
監 事	西沢 正三	犬上郡多賀	522-03	0749-48-0882		
	磯貝 澄雄	彦根市城町	522	0749-22-5236		
幹 事	国友 進	長浜市国友	526	0749-52-5110	電話 は事 務局	
	高田 昭	長浜市室町	526	0775-67-3901		
会 計	森安 孝子	近江八幡市	523	0775-67-3901		

滋賀県レイカディア大学同窓会会則

第一条 (名称)

本会は、滋賀県レイカディア大学同窓会と称する。

第二条 (会員)

本会は、滋賀県老人大学校およびレイカディア大学卒業生をもって組織する。

第三条 (事務所)

本会の事務所は、滋賀県レイカディア大学本部内におく。

第四条 (目的)

本会は、会員の親睦および母校の発展に寄与することを目的とする。

第五条 (支部)

本会に支部を設け、前条の目的達成をはかる。

第六条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

1. 総会
2. 研修会
3. 母校後援活動
4. 会報と新聞の発行
5. その他の事業

第七条 (事業部)

前条の事業を行うために次の部を設置する。

部長および部員は会長が委嘱する。

1. 研修部
2. 総務部
3. 広報部

第八条 (役員および役員を選出、任期)

本会に次の役員を置く。

1. 会長一名
2. 副会長一名
3. 理事、各支部二名 (支部長および支部選出者一名)
4. 幹事三名 (事務局から)
5. 監事二名。

役員を選出方法

会長及び副会長は、役員会によって選出する。

理事は、各支部から選出する。

監事は、各支部が交替で二名選出する。

役員の仕事

会長 本会を代表する。

副会長 会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

理事 本会の運営に当たる。

幹事 本会の事務を処理する。

監事 会務、会計の監査する。

役員の任期

役員の仕事は二年とする。但し再任は妨げない。

第九条 (会議)

総会は、会長が招集し、議長は会員の中から選出する。

総会の議事は、出席者の半数以上の同意をもって決する。

第十条 (顧問)

本会に顧問を置くことができる。

第十一条（経費および会計年度）

本会の経費は、年会費および寄付金等をもってこれに当てる。

一、年会費は二、〇〇〇円とする。（内一、〇〇〇円は支部会費とする）

但し、すでに終身額一〇、〇〇〇円を納入した者を除く。

二、寄付金等

会計年度

本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって、翌年の三月三十一日をもって終わる。

第十二条 次のとおり慶弔を行う。

一、会員が数えで米寿および白寿を迎えた時、予算の範囲内で記念品を賜呈する。

二、会員死亡の時、弔意を表する。

付則

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

（改正）昭和五十七年十月一日から施行する。

（改正）昭和六十年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十一年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十二年五月二十三日から施行する。

（改正）昭和六十三年六月二十二日から施行する。
（改正）平成元年八月二十五日から施行する。
（改正）平成六年七月十一日から施行する。

滋賀県レイカディア大学同窓会憲章

1. 互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めよう。

2. 心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢者会の支柱となって働こう。

3. 古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。

4. 会員の研修及び母校の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。

5. 社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合う輪を内外に広めよう。

平成六年七月十一日制定

滋賀県レイカディア大学同窓会

滋賀県レイカディア大学同窓会表彰規程

第1条 老人大学校およびレイカディア大学卒業生で、地域指導者として老人福祉の増進に寄与した者を顕彰するため会長表彰を行なう。

第2条 表彰の区分

1. 地域社会において、指導者として永年活躍し、老人福祉の増進に貢献した者
2. 老人大学校およびレイカディア大学において、学習した成果を生かした創作活動を長年続け、老人福祉に貢献した者
3. 滋賀県レイカディア大学同窓会の運営に多年従事し、同会の発展につくした者
4. 特別表彰 上の各号の他に功労顕著な者

第3条 表彰の方法

1. 内申は同窓会各支部から内申のあった者について、会長が本会の役員会に諮って決定する。
2. 表彰は原則として、本会の県定期総会か、記念大会において表彰する。
3. 表彰は表彰状と記念品を贈って顕彰する。

第4条 この規定は平成3年4月1日から施行する。

(改正) 平成6年7月11日から施行する。

あとがき

広報部長 野沢 政次

朝のニュースを見ながら朝食をとる。つづいてモーニングショーを見ていると、芸能、スポーツ、事件など、話題をさがしてレポーターやアナウンサーが入れかわり立ちかわりおしゃべりの連続だ。

われわれにとってどうでもよいことが話題になる。とにかくしゃべり続けなければならないのがメディアに与えられた命令だから、饒舌に専念する。

加藤秀俊氏「饒舌列島―日本の言論」によれば、むかしの人は寡黙で、しずかだった。日本の文化は寡黙を伝統のひとつにしていたとある。東北の山村では朝夕のあいさつのほかは終日一言も喋らない人が少なくなかったことが紹介されている。まさに「沈黙は金」というところだ。

いまは電波メディアをはじめとして、饒舌の氾濫であり、おしゃべりは肥大化する一方だ。

ところが一方で言葉への規制がひそかに浸透しつつあるという。

「差別用語」「禁句」などにより、物かきの人は細心の注意

をはらわなければならないときく。「ことば」はいま、むつかしい問題をかかえているようだ。

福井県、勝山市の平泉寺（へいせんじ）の歴史は古い。

天台宗の古寺で、十一世紀末の最盛期には僧房六千といわれた。一向一揆の焼打ちで寺は見るかげもなく消滅したが、往時からの参道はむかしのままに保存され、「北の苔寺」といわれ、亭々たる老杉の下の苔がうつくしく、滅びのさまが訪れる人の心を打つ。

ところが最近、この参道入口に天守閣だけの城が建てられた。歴史的には何の根拠もない所という。

この建立者は、越前大仏を造り世の鑿鑿ひんぎょうを買ったタクシー会社のオーナーで、自分の生きた証しを残したいという一念からだろうが、滅びの美の粹にひたりたいと訪れた人びとにとっては暗澹たる眺めとなった。

ひところ、各地に起こったお城ブームはこのところ下火になったようだ。観光客誘致のためだろうが、復元の名のもとにあちこちに建てられたコンクリートの城はまだしも、鉄骨の大手門などは眼をそむけたくなる。

「荒城の月」にうたわれたような苔むした石垣や、礎石群こ

そがむかしを偲ぶにふさわしく、余計なものは建ててほしくないと思うのは私の懐古趣味だろうか。

○ 原稿を書いていて、句読点にはいつも気になる。

適当なセンテンスで切って句点を打つ。また読点が多いと読み易く、さらに漢字をなるべく少なくして改行を多くすれば視覚にやさしくなることも。

明治から敗戦直後まで、法律や公用文は漢字カタカナ交じりの文語体で、句読点は打たないのが正式だったという。「お上」がこれだから、一般市民は句読点などあまり気にしない風潮が長く続いたのだろう。

いまでも句読点を打たない場合が多い。短歌、俳句はもちろん、格式張った手紙や賞状には使われない。

ただ、句読点がないための誤読が話題に上ることがしばしばある。たとえば、

「京都で父からもらった金はみな使った」を、（京都で、父からもらった金をみな使った）と、（京都で父からもらった金を、みな使った）の二様にとられるのが、まぎらわしい。

特殊な例もある。谷崎潤一郎の名作「春琴抄」は句読点が極めて少なく、改行はほとんどない。その特異な文体により逆に

効果をねらったものだと聞いた。

谷崎、芥川、三島など有名な作家は、読点一つ打つにも息を詰めた由だが、われわれは句読点に案外無関心でいることが多いのではなからうか。

手紙の場合、句読点を打っても打たなくてもよいということだが、本文は改行して一字下げて書くのが一般となっている。

しかし一説には、手紙、はがきに句読点を打つこと無用、また、改行の都度一字下げも無用とある。これは戦前まで用いられていた候文の名残りで、「候」が句点のかわりになっていたからだ。いまでも吉凶のあいさつ状や巻紙の手紙には打たない。わたしは私信に、受信者（読んでくれる人）のために句読点を打つことにしているが、これはまちがいだらうかと、ふと思うことがある。

（山本夏彦氏の文を一部引用）

発行所

草津市南笠町新池二一〇一

滋賀県老人大学校

同窓会事務局

平成六年七月十一日発行